

**令和 6 年度 全国学力・学習状況調査  
熊取町の分析結果**

熊取町教育委員会

# 目 次

## 1. 全国学力・学習状況調査の実施について

|            |   |
|------------|---|
| (1) 調査の目的  | 1 |
| (2) 調査の名称  | 1 |
| (3) 調査の対象  | 1 |
| (4) 調査事項   | 1 |
| (5) 調査実施日等 | 2 |

## 2. 令和6年度 熊取町の各教科の結果

4

## 3. 学力調査から明らかになった課題と今後の取り組み

|           |     |
|-----------|-----|
| (1) 国語    | 1 3 |
| (2) 算数・数学 | 2 1 |

## 4. 質問紙調査の結果と分析

### (1) 質問紙調査の内容及び分析

|                                 |     |
|---------------------------------|-----|
| ①基本的生活習慣等                       | 3 1 |
| ②挑戦心, 達成感, 規範意識, 自己有用感, 幸福感等    | 3 5 |
| ③学習習慣, 学習環境等                    | 4 1 |
| ④地域や社会に関わる活動の状況等                | 4 4 |
| ⑤ I C Tを活用した学習状況                | 4 5 |
| ⑥主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況 | 4 9 |
| ⑦総合的な学習の時間, 学級活動, 特別の教科 道徳      | 5 4 |
| ⑧学習に対する興味・関心や授業の理解度等            | 5 6 |

## 1. 全国学力・学習状況調査の実施について

### (1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### (2) 調査の名称

令和6年度全国学力・学習状況調査

### (3) 調査の対象

- ① 国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒を対象とする。なお、公立学校には公立大学法人が設置する学校（以下「公立大学附属学校」という。）を含むものとする。

#### ア 小学校調査

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年

#### イ 中学校調査

中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、中等教育学校前期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

- ② 特別支援学校及び小中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、調査の対象となる教科について、以下に該当する児童生徒は、調査の対象としないことを原則とする。

ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒

イ 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている児童生徒

### (4) 調査事項

#### ①児童生徒に対する調査

##### ア 教科に関する調査

(ア) 小学校調査は、国語及び算数とし、中学校調査は、国語、数学とする。

(イ) 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ❶ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知

識・技能等

- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(ウ) 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数・数学においては記述式の問題を一定割合で導入する。

#### イ 質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査（以下、児童を対象とする場合は「児童質問調査」、生徒を対象とする場合は「生徒質問調査」、児童及び生徒を対象とする場合は「児童生徒質問調査」という。）を原則全ての児童生徒を対象に、児童生徒の活用するＩＣＴ端末を用いたオンラインによる回答方式で実施する。

#### ② 学校質問調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査（以下「学校質問調査」という。）をオンラインによる回答方式で実施する。

### (5) 調査実施日等

#### ① 児童生徒に対する調査

調査の実施日は、令和6年4月18日木曜日（以下「調査日」という。）とする。

##### ア 小学校調査

(ア) 教科に関する調査は、調査日に実施し、調査時間は、国語及び算数それぞれ45分とする。

(イ) 児童質問調査は、4月10日水曜日から4月30日火曜日までの間で、各学校の状況に応じて適切に実施する。

##### イ 中学校調査

(ア) 教科に関する調査は、調査日に実施し調査時間は、国語、数学それぞれ50分とする。

(イ) 生徒質問調査は、4月10日水曜日から4月30日火曜日までの間で、各学校の状況に応じて適切に実施する。

#### ② 学校質問調査

令和6年4月に実施する。

③ 調査実施に関するスケジュール（モデル）

【小学校調査】

| 1 時間目    | 2 時間目    |                    |
|----------|----------|--------------------|
| 国語(45 分) | 算数(45 分) | 児童質問調査<br>(20 分程度) |

【中学校調査】

| 1 時間目    | 2 時間目    |                    |
|----------|----------|--------------------|
| 国語(50 分) | 数学(50 分) | 生徒質問調査<br>(20 分程度) |

## 2. 令和6年度 熊取町の各教科の結果

令和6年度の教科に関する調査は、国語、算数・数学が実施された。

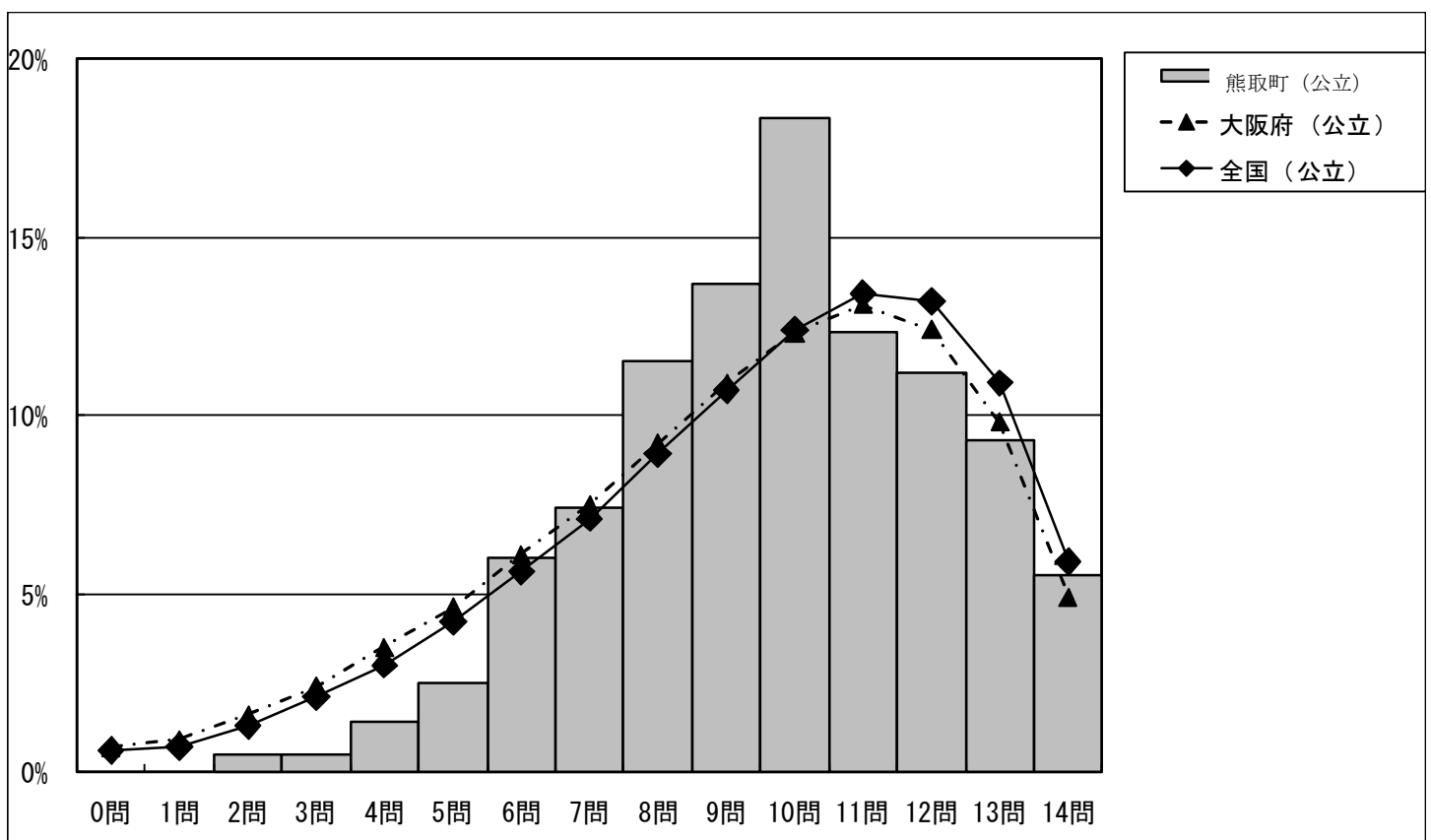
今回の調査結果から、これまでの調査で見られた課題について改善傾向が見られたものがある一方、「複数の情報を関連させて自分の考えを表現すること」や「根拠を明らかにしながら、自分が判断したことについて説明すること」などに、課題が見られた。

児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育活動における取組みの成果と課題を検証し、その改善を図っていく必要がある。

小学校及び中学校の調査結果は次のとおりである。

### 小学校 国語

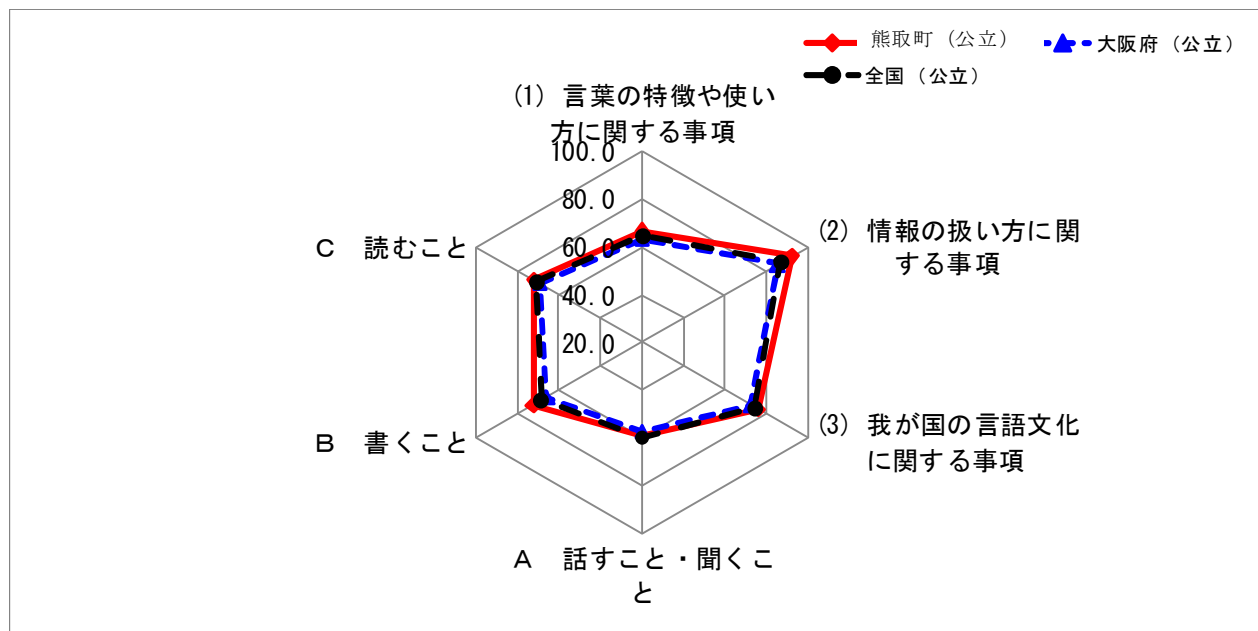
小学校国語正答数分布グラフ



- 熊取町の平均正答率は、全国平均・大阪府平均を上回る結果となった。
- 平均無解答率は、全国平均・大阪府平均より低かった。

### 学習指導要領の内容別平均正答率の状況

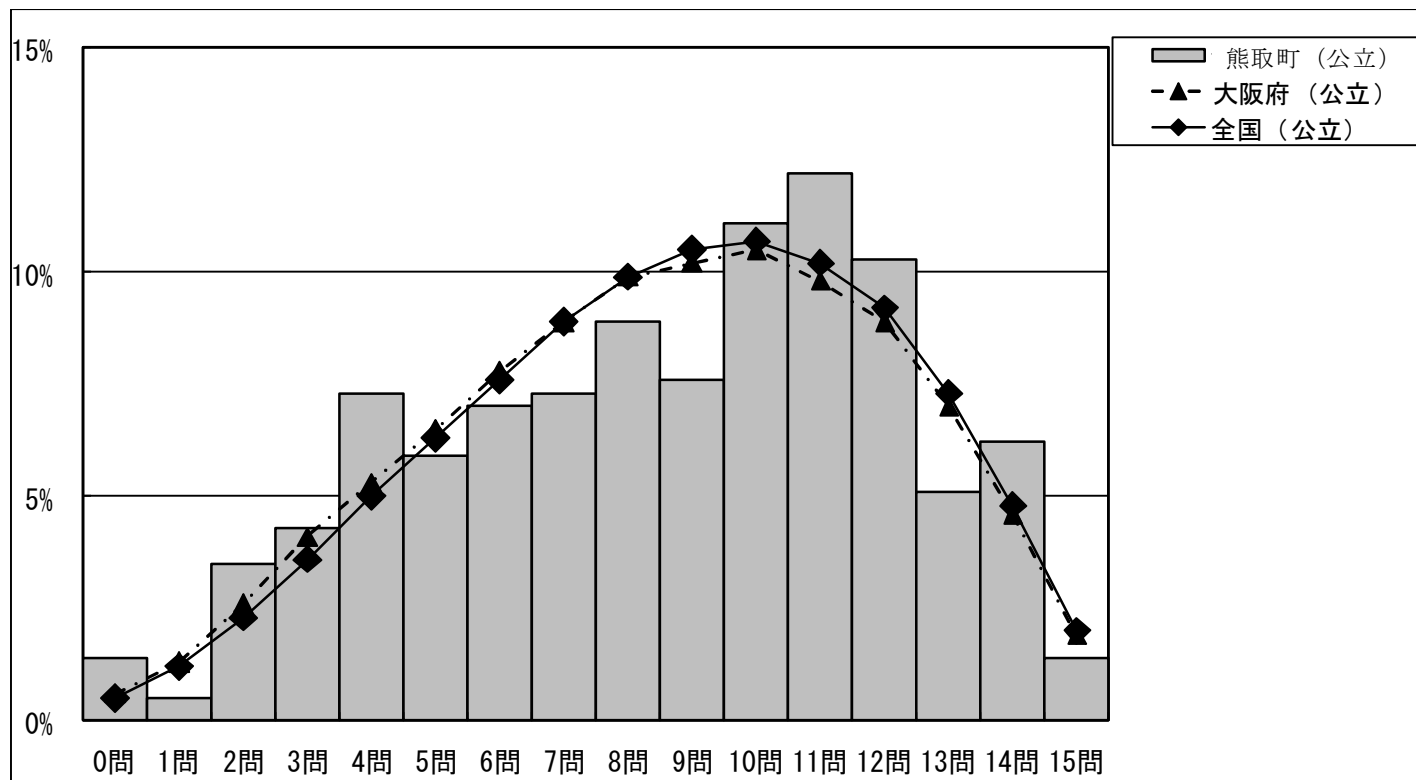
- 熊取町・大阪府・全国の差を明らかにするために、スケールの最小値を20%、最大値を100%とした。
- レーダーチャートの描くラインは、全国・大阪府の状況と概ね同傾向を示している。



| 分類            |                      | 区分              | 対象問題数<br>(問) | 全国・大阪府との比較        |
|---------------|----------------------|-----------------|--------------|-------------------|
| 全体            |                      |                 | 14           | 全国・大阪府を上回っている     |
| 学習指導要領<br>の内容 | 知識及び<br>技能           | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 4            | 全国・大阪府を上回っている     |
|               |                      | 情報の扱い方に関する事項    | 1            | 全国・大阪府を上回っている     |
|               |                      | 我が国の言語文化に関する事項  | 1            | 全国・大阪府を上回っている     |
|               | 思考力・<br>判断力・<br>表現力等 | 話すこと・聞くこと       | 3            | 大阪府を上回り、全国を下回っている |
|               |                      | 書くこと            | 2            | 全国・大阪府を上回っている     |
|               |                      | 読むこと            | 3            | 全国・大阪府を上回っている     |

| 概ねできているもの                                                                                                                                                                                                                   | 課題が見られるもの                                                                                                                                                                                                                                          |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと</li> <li>・目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり、関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること</li> <li>・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと</li> <li>・登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること</li> <li>・目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること</li> <li>・目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること</li> <li>・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと</li> </ul> |

中学校国語正答数分布グラフ



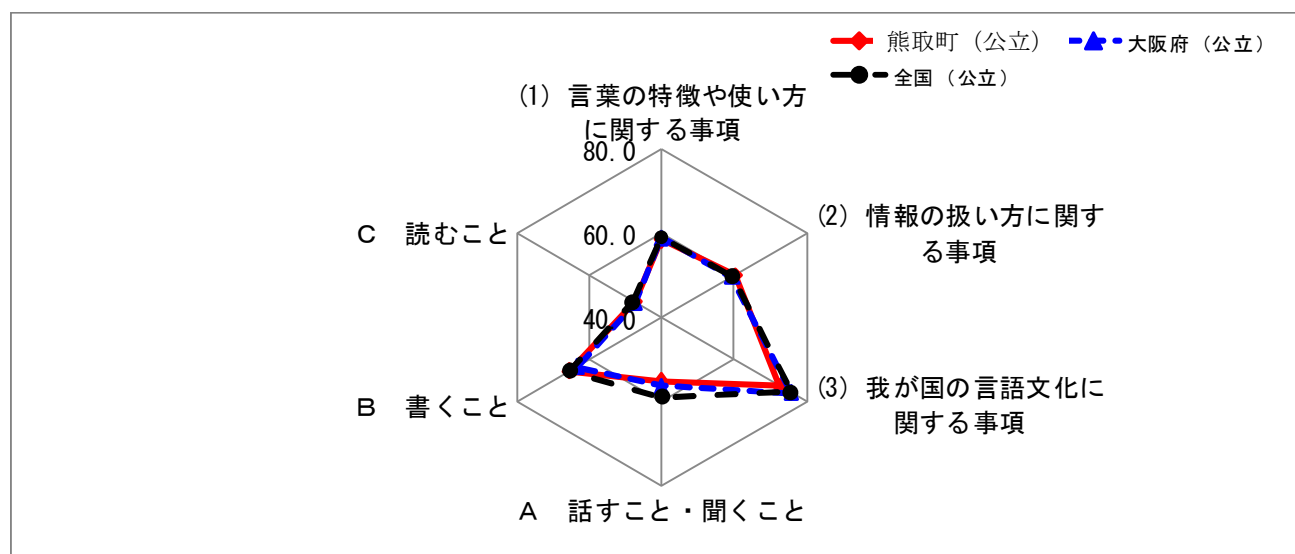
●熊取町の平均正答率は、大阪府平均と同じで、全国平均を下回る結果となった。

●平均無解答率は、大阪府平均より低く、全国平均と同じであった。

学習指導要領の内容別平均正答率の状況

●全国、大阪府、熊取町の差を明らかにするために、スケールの最小値を 40%、最大値を 80%とした。

●レーダーチャートの描くラインは、全国、大阪府の状況と概ね同傾向を示している。



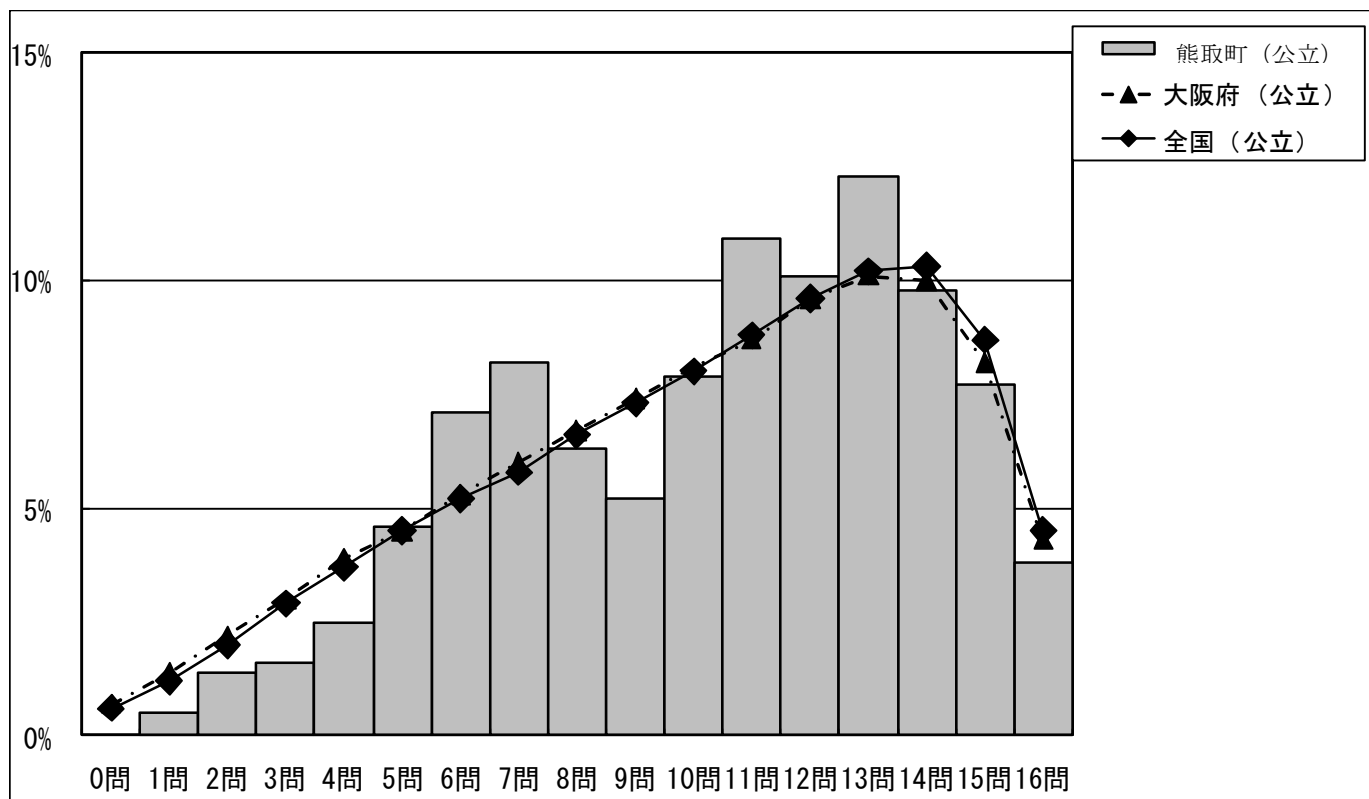


| 分類        |        | 区分              | 対象問題数<br>(問) | 全国・大阪府との比較        |
|-----------|--------|-----------------|--------------|-------------------|
| 全体        |        |                 | 15           | 大阪府と同じ、全国を下回っている  |
| 学習指導要領の内容 | 知識及び技能 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 3            | 全国・大阪府を下回っている     |
|           |        | 情報の扱い方に関する事項    | 2            | 全国・大阪府を上回っている     |
|           |        | 我が国の言語文化に関する事項  | 1            | 全国・大阪府を下回っている     |
|           | 知識及び技能 | 話すこと・聞くこと       | 3            | 全国・大阪府を下回っている     |
|           |        | 書くこと            | 2            | 大阪府を上回り、全国と同じである  |
|           |        | 読むこと            | 4            | 大阪府を上回り、全国を下回っている |

| 概ねできているもの                                                                                                                    | 課題が見られるもの                                                                                                                                                                                              |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体と抽象など情報と情報との関係について理解していること</li> <li>・目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見と根拠など情報と情報との関係について理解していること</li> <li>・話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめること</li> <li>・文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること</li> <li>・短歌の表現の技法について理解すること</li> </ul> |

## 小学校 算数

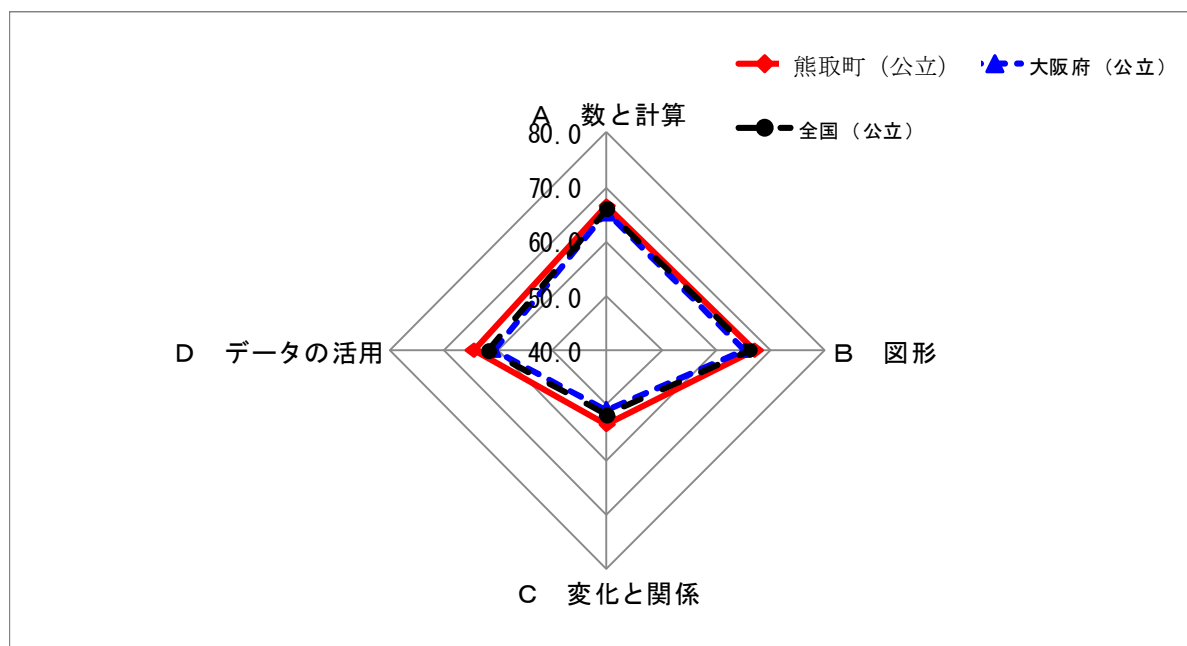
### 小学校算数正答数分布グラフ



- 熊取町の平均正答率は、全国平均・大阪府平均を上回る結果となった。
- 平均無解答率は、全国平均・大阪府平均より低かった。

### 学習指導要領の領域別平均正答率の状況

- 熊取町、大阪府、全国の差を明らかにするために、スケールの最小値を40%、最大値を80%とした。
- レーダーチャートの描くラインは、全国、大阪府の状況と概ね同傾向を示している。



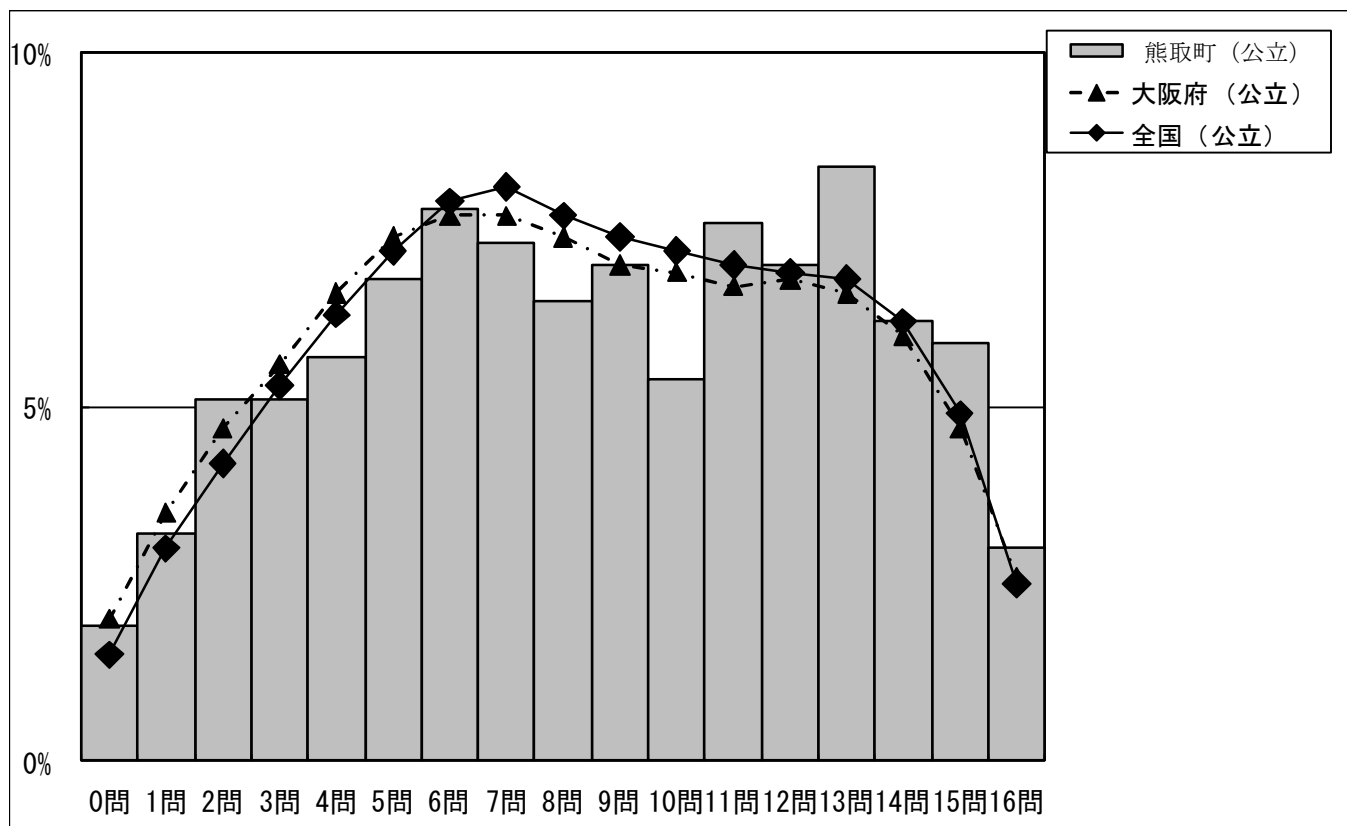
| 分類            | 区分     | 対象問題数<br>(問) | 全国・大阪府との比較    |
|---------------|--------|--------------|---------------|
| 全体            |        | 16           | 全国・大阪府を上回っている |
| 学習指導要領の<br>領域 | 数と計算   | 6            | 全国・大阪府を上回っている |
|               | 図形     | 4            | 全国・大阪府を上回っている |
|               | 変化と関係  | 3            | 全国・大阪府を上回っている |
|               | データの活用 | 4            | 全国・大阪府を上回っている |

(注)「学習指導要領の領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。

| 概ねできているもの                                                                                                                                                                               | 課題が見られるもの                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・数量の関係を、□を用いた式に表すこと</li> <li>・直方体の見取り図について理解し、かくこと</li> <li>・角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述すること</li> <li>・円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ること</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すこと</li> <li>・除数が小数である場合の除法の計算をすること</li> <li>・道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること</li> <li>・折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述すること</li> </ul> |

# 中学校 数学

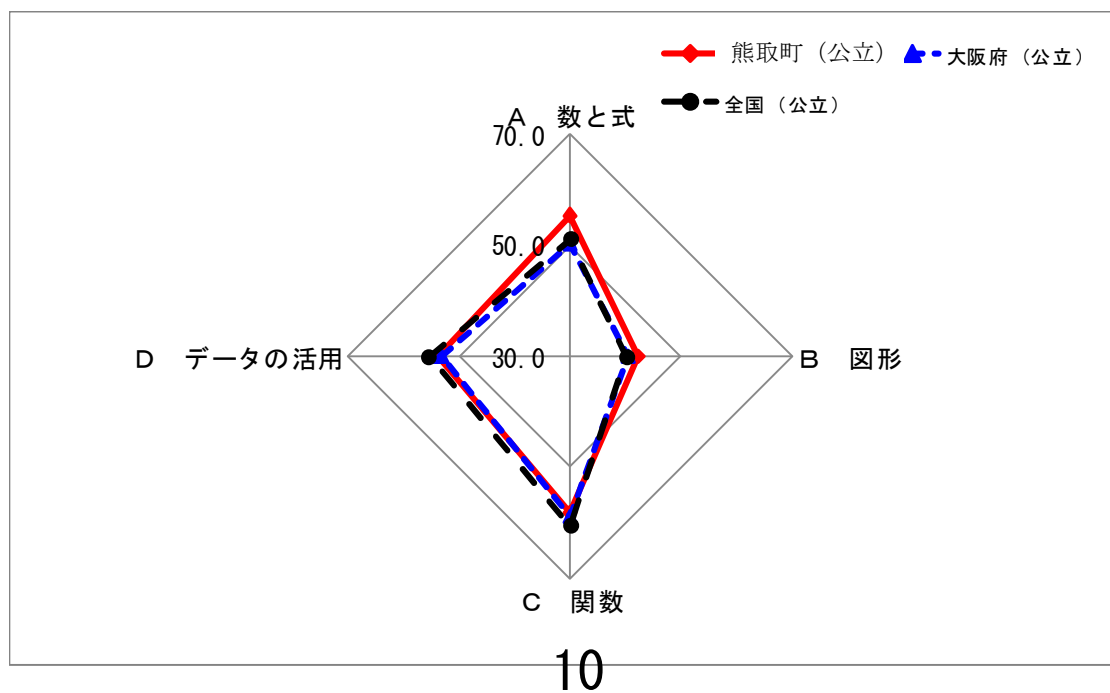
## 中学校数学正答数分布グラフ



- 熊取町の平均正答率は、全国平均、大阪府平均を上回る結果となった。
- 平均無解答率は、全国平均・大阪府平均より低かった。

## 学習指導要領の領域別平均正答率の状況

- 全国、大阪府、熊取町の差を明らかにするために、スケールの最小値を30%、最大値を70%とした。
- レーダーチャートの描くラインは、全国、大阪府の状況と概ね同傾向を示している。



| 分類            | 区分     | 対象問題数<br>(問) | 全国・大阪府との比較        |
|---------------|--------|--------------|-------------------|
| 全体            |        | 16           | 全国・大阪府を上回っている     |
| 学習指導要領の<br>領域 | 数と式    | 5            | 全国・大阪府を上回っている     |
|               | 図形     | 3            | 全国・大阪府を上回っている     |
|               | 関数     | 4            | 全国・大阪府を下回っている     |
|               | データの活用 | 4            | 大阪府を上回り、全国を下回っている |

| 概ねできているもの                                                                                                                                                                                                                              | 課題が見られるもの                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な場合について、確率を求めること</li> <li>・問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算をすること</li> <li>・与えられたデータから最頻値を求めること</li> <li>・二つのグラフにおける y 軸との交点について、事象に即して解釈すること</li> <li>・グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈すること</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解すること</li> <li>・複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること</li> <li>・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること</li> <li>・筋道を立てて考え、証明すること</li> <li>・事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすこと</li> </ul> |

### **3. 学力調査から明らかになった課題と今後の取り組み**

1三

目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるとかをみる。

オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのよう役立ったのかを説明したものととして、適切なものを選択する。

町課題①

三 和田さんは、「オンライン交流の様子の一部」をふり返り、発言⑮のところ、【和田さんのメモ】が役に立ったことに改めて気づきました。その説明として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 相手の学校の「地いきならではの取り組み」に關係する情報を整理していたことで、事実と感想とを区別して伝えることができた。

2 相手の学校の「地いきならではの取り組み」に關係する情報を整理していたことで、複数の情報をまとめて伝えることができた。

3 自分の学校の「地いきならではの取り組み」に關係する情報を整理していたことで、事実と感想とを区別して伝えることができた。

4 自分の学校の「地いきならではの取り組み」に關係する情報を整理していたことで、複数の情報をまとめて伝えることができた。

13

|      | 全国   | 大阪府  | 熊取町  |
|------|------|------|------|
| 正答率  | 63.8 | 61.9 | 60.9 |
| 無解答率 | 0.9  | 1.1  | 0.3  |

思考力、判断力、表現力等〔A話すこと・聞くこと〕選択式

關係する情報を整理していることと、複数の情報をまとめて伝えていることを捉えることに課題がある。



自分の目的や意図に応じるとともに、聞き手の求めていることに応じて集めた材料をどのように整理すればよいかを考えることが大切である。

2  
3  
ア

**学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。**  
【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す（きょうぎ）

三 高山さんは、「高山さんの文章」を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていた——部ア、イを漢字で書いてねいに書き直しよう。

ア きょうぎ の作戦を考えたりします。

|      | 全国   | 大阪府  | 熊取町  |
|------|------|------|------|
| 正答率  | 43.4 | 41.4 | 38.5 |
| 無解答率 | 13.2 | 12.8 | 5.2  |

知識及び技能〔言葉の特徴や使い方に関する事項〕 短答式

当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うことに課題がある。



書くことにおいて自分の考えを伝えるためには、目的や意図に応じて伝えたいことを明確にし、相手の読みやすさを考えて漢字を正しく書けることが大切である。



3  
2  
1  
(1)

**登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる。**

「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのように話すか迷っていると考えられるところとして、適切なものを選択する。

(1) 原さんは、「物語」の①の他にも、オニグモじいさんがハエの女の子にどのように話すか迷っているところがあると考えました。オニグモじいさんがどのように話すか迷っていると考えられるところとして最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 「物語」のア

2 「物語」のイ

3 「物語」のウ

4 「物語」のエ

|      | 全国   | 大阪府  | 熊取町  |
|------|------|------|------|
| 正答率  | 66.9 | 65.4 | 70.2 |
| 無解答率 | 2.6  | 2.9  | 2.5  |

思考力、判断力、表現力等〔C読むこと〕選択式

登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。



様々な物語の描写に触れ、そこから登場人物の心情に迫る活動を取り入れた成果だと考えられる。

日常的な読書活動が、読むことの学習に成果として結びついている。

町成果

1 四 話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く

四 【話し合いの一部】の山岡さんの最後の発言を受けて、あなたならどのような考えを述べますか。次の条件1と条件2にしたがって、実際に話すように書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいかを具体的に書くこと。  
条件2 【話し合いの一部】の誰の発言と結び付くのが分かるように書くこと。



藤田さん

私は、この前、インターネットで和菓子作りの本を探して購入しました。そのあと、インターネットを利用するたびに、和菓子作りに関する本が表示されるようになって、次に読みたい本もすぐに見付かりました。



今井さん

たくさんの本がある中で、自分の好みに合った本を選んで示してくれるのは、便利ですね。でも、他の本の情報に触れにくくなっているとは思っていませんでしたか。



藤田さん

そうですね。言われてみれば、和菓子作りに関する本がたくさん表示されていたので、最近、それ以外の本の情報にあまり触れていなかった気がします。②「図」のこのあたりにいるような感覚ですね。今井さんは、ふだんどうやって本を選んでいるのですか。



今井さん

私は、図書館や書店で本を選んでみます。読みたい本を見付けるのには時間がかかりますが、本棚を眺めていると、思いがけない本との出会いがあって興味が広がると感じています。



藤田さん

図書館や書店でいろいろな本棚を眺めながら本を選ぶと、時間はかかっても、情報が偏るような状態にはならないでしょうね。



山岡さん

そういえば、インターネットでも様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページがありますよ。そこで紹介されている本は、本を探している人の好みによって選ばれているわけではないので、フィルターバブル現象の影響は受けにくいのではないのでしょうか。



今井さん

そのような本の選び方は、学校図書館で、おすすめの本のコーナーから本を選ぶことと似ていますね。③おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているので、自分とは異なる価値観に触れることもできますね。



山岡さん

フィルターバブル現象のことを意識すると、本の選び方についても改めて考えてみる必要があると感じました。皆さんは、これからどのように本を選ぶと思いますか。

|      | 全国   | 大阪府  | 熊取町  |
|------|------|------|------|
| 正答率  | 44.7 | 39.6 | 37.8 |
| 無解答率 | 9.9  | 12.4 | 9.2  |

思考力、判断力、表現力等〔A 話すこと・聞くこと〕記述式

話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることに課題がある。



話合いを通じて自分の考えをまとめる際には、何についてどのような目的で話し合っているかといった、目指している到達点を常に意識し、互いの発言を結び付けられるようにすることが重要である。そのためには、話合いにおけるいずれの段階においても、話題を意識しながらその経過を捉えて話したり聞いたりすることができるよう指導することが大切である。また、話合いの展開に応じて、互いの発言を結び付け、話し合った内容を踏まえて自分の考えをまとめられるように指導することも大切である。

2 本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する。

町課題②

一 「図」さまざまな形の葉」の本文中での役割を説明したものとして適切なものを、次の1から4までの中から二つ選びなさい。

- 1 実際の葉の形をたくさん思い浮かべることができるように補助する役割。
- 2 実際の葉の形とそれを表す言葉とを結び付けて捉えられるようにする役割。
- 3 葉の形を表す言葉を二つのグループに分けるやり方が複数あることを示す役割。
- 4 葉の形を表す言葉の中では厚み方向の形容が限定的であることの根拠を示す役割。

|      | 全国   | 大阪府  | 熊取町  |
|------|------|------|------|
| 正答率  | 36.3 | 36.0 | 34.3 |
| 無解答率 | 0.5  | 0.4  | 0.5  |

思考力、判断力、表現力等〔C 読むこと〕選択式

文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することに課題がある。



文章を受け、図は、実際の葉の形を思い浮かべたり、実際の葉の形とそれを表す言葉とを結び付けたりする際に助ける役割をもつと捉えることが求められる。

4 一 短歌に用いられている表現の技法を説明したものととして適切なものを選択する

「フートの一部」

テーマ…月と風景

A (意味) まるい様子の (長澤一作の短歌)

B (意味) 清らかな様子 (外蘭隆の短歌)

C (意味) 広々と(差)している(ところ) (森岡貞香の短歌)

昨日の夜 月の光 あった 掃いた

暮れた やんだ

長澤 一作 外蘭 隆 森岡 貞香

- 一 Bの短歌で用いられている表現の技法を説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
- 1 「風さやか」の部分に、擬人法が用いられている。
- 2 「庭に月待つ」の部分に、直喩が用いられている。
- 3 「萩すすき」の部分に、倒置が用いられている。
- 4 「蝸の声やみし夕暮れ」の部分に、体言止めが用いられている。

|      | 全国   | 大阪府  | 熊取町  |
|------|------|------|------|
| 正答率  | 54.9 | 55.7 | 53.0 |
| 無解答率 | 1.8  | 1.1  | 1.6  |

知識及び技能〔言葉の特徴や使い方に関する事項〕選択式

表現の技法について理解することに課題がある。



Bの短歌の「蝸の声やみし夕暮れ」の部分から、「体言止め」が用いられていることを理解することに課題があることから、擬人法、比喩、倒置等の様々な表現技法に留意して指導することが求められる。



24 本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を  
決めて要約する

四 本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約します。次のア、イから一つ選んで（どちらを選んでもかまいません。）要約しなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

ア 筆者が、葉の形を表す言葉をどのようなグループに分け、各グループにどのような特徴があると述べているかについて。  
イ 筆者が、数学や物理学などと生物学とでは、学問としてどのような違いがあると述べているかについて。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

（着目する内容）

⑦ ④

←選んだ（着目する内容）を塗りつぶしなさい。

|  |  |  |  |
|--|--|--|--|
|  |  |  |  |
|--|--|--|--|

|      | 全国   | 大阪府  | 熊取町  |
|------|------|------|------|
| 正答率  | 42.6 | 40.3 | 45.7 |
| 無解答率 | 8.4  | 9.6  | 7.6  |

思考力、判断力、表現力等〔C 読むこと〕記述式

目的に応じて必要な情報に着目して要約することに成果が見られる。



要約するとは、文章の全体又は部分を短くまとめることである。概略を理解するために文章全体の内容を短くまとめたり、情報を他者に伝えるために必要な部分を取り出してまとめたりするなど、その目的や必要に応じて内容や分量、方法が異なる。そのため、要約する際には、目的を明確にすることが大切である。その上で、要約したものが目的に沿っているかどうかを考え、必要な情報を正確に捉えて要約することが重要である。

## 国語の学力向上に向けての方策①

### 話すこと・聞くことの指導

目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり、関係付けたりして、伝え合う内容を検討することや話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言を結び付けて自分の考えをまとめることに課題が見られた。

今後は、学習過程の中で、課題の設定、情報の収集を踏まえて内容を吟味することや、話し合いの中で自分の考えを形成することを着実に指導し、「話すこと」「聞くこと」「話し合うこと」の充実を図ることが大切である。

## 国語の学力向上に向けての方策②

### 言葉の特徴や使い方に関する事項

今回の調査から、知識及び技能を問う問題のうち、言葉の特徴や使い方に関する事項において課題が見られた。具体的には、漢字の読み書きに関することや、表現の技法の種類とその特徴に関することについての課題が見られる。

今後は、既習の漢字を漸次書き、文や文章の中で使うことや比喻や体言止めなどの表現に気付くことを確実に指導することが大切である。

### 3 (3) 直径22 cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く。

球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができる。

|      | 全国   | 大阪府  | 熊取町  |
|------|------|------|------|
| 正答率  | 36.5 | 34.5 | 30.1 |
| 無解答率 | 9.8  | 9.8  | 5.2  |

#### 〔思考・判断・表現〕 【 B 図形 】 短答式

球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係について捉えることや、立方体の体積の求め方に課題が見られる。

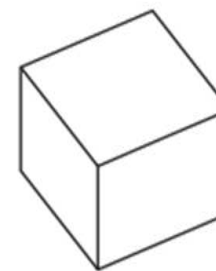
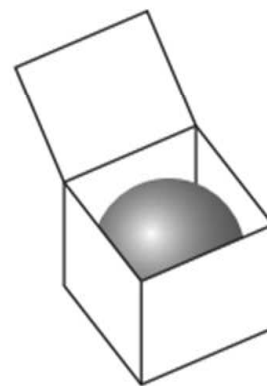


身の回りの形から図形を捉え、図形を構成する要素を見だし、体積を求めるために必要な情報を判断できるようにすることが重要である。また、立方体の体積を求めるために必要な長さや球の直径の長さが関係していることに気づき、球の直径の長さをういて立方体の辺の長さを見いだすことができるようにすることが大切である。

(3) 直径22 cmの球の形をしたボールがあります。



このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。



この立方体の形をした紙の箱の体積が何  $\text{cm}^3$  かを求める式を書きましょう。

ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

# 4 (1) 540 ÷ 0.6 を計算する

除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる

|      | 全国   | 大阪府  | 熊取町  |
|------|------|------|------|
| 正答率  | 70.1 | 70.0 | 63.1 |
| 無解答率 | 3.1  | 3.1  | 2.2  |

## 〔知識・技能〕【 A 数と計算 】 短答式

除数の0.6のみ10倍して整数にして540 ÷ 6の答えを解答したり、その商を10で割ったりしていることが考えられる。除数と商の大きさの関係について理解することに課題が見られた。



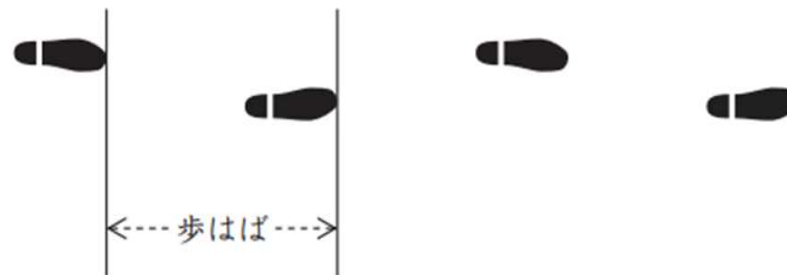
除数が小数である場合の除法の計算について、整数の場合の計算の意味や計算の仕方を活用して、計算をすることができるようにすることが重要である。ひっ算による計算の仕方を形式的に指導するだけでなく、除数が1より小さい場合は、被除数より小さくなることを理解できるように指導することが大切である。

4

あいなさんたちは、時間や速さなどについて考えています。

(1) あいなさんは、家から学校までの歩数を求めます。

家から学校までの道のりは、540 m です。あいなさんの歩はばを 0.6 m とします。



家から学校までの歩数は、 $540 \div 0.6$  の式で求めることができます。  
 $540 \div 0.6$  を計算しましょう。



4 (3) 家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く  
道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる

|      | 全国   | 大阪府  | 熊取町  |
|------|------|------|------|
| 正答率  | 31.0 | 29.2 | 32.2 |
| 無解答率 | 2.4  | 2.4  | 0.3  |

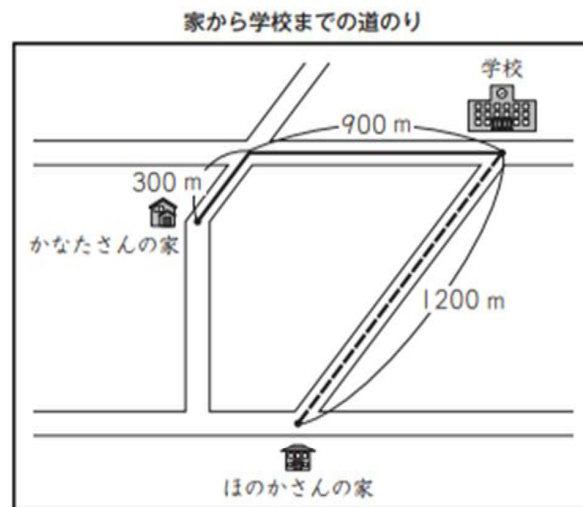
〔思考・判断・表現〕【 C 変化と関係 】記述式

歩いた道のりが等しいことから、かなたさんの方が速いと判断できているが、歩いた時間に対しての記述ができていない児童が多いことから、道のりが等しい場合の速さについては、時間を基に判断しすることを理解できていないと考えられる。



場面や目的に応じて、単位時間あたりに移動する長さや、一定の長さを移動するのにかかる時間として速さを捉え、速さを比べることができるようにすることが重要である。速さについては、道のりと時間の二つの数量に着目させることが大切である。

(3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。

下の 1 と 2 から選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 かなたさん
- 2 ほのかさん

### 3 (4) 五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く

角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる

|      | 全国   | 大阪府  | 熊取町  |
|------|------|------|------|
| 正答率  | 72.0 | 71.8 | 77.9 |
| 無解答率 | 1.8  | 1.9  | 0.5  |

### 【思考・判断・表現】 【 B 図形 】 記述式

図形を構成する要素に着目し、底面や側面という語句を用いて角柱の性質について説明できている。また、問題をきちんと理解し、会話文を参考にして答えることができている。

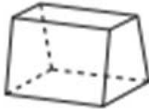
↓

いくつかの種類の角柱を観察し分類する活動を通して、底面の形の違いに着目し、底面が三角形の場合は三角柱、四角形の場合は四角柱になることや、側面の形は全て正方形や長方形であることに気づくことができるようにすることが大切である。また、図形を構成する要素に着目し、分類するなどして、底面や側面の形、頂点や辺や面の数について整理し、角柱の性質を理解できるようにすることが大切である。

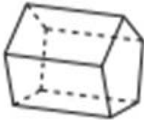
(4) ことねさんたちは、角柱の面の数について考えています。



三角柱



四角柱



五角柱



ことね

三角柱の面は5つです。三角柱には、底面が2つ、側面が3つあるからです。



はると

四角柱の面は6つです。



ひより

五角柱の面はいくつかな。

五角柱の面はいくつですか。答えを書きましょう。

また、そのわけを、底面と側面がそれぞれいくつあるのかがわかるようにして、言葉と数を使って書きましょう。

そのとき、「底面」、「側面」の2つの言葉を使いましょう。

4 一次関数  $y=ax+b$  について、 $a=1$ 、 $b=1$  のときのグラフに対して、 $b$ の値を変えずに、 $a$ の値を大きくしたときのグラフを選ぶ

一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる

|      | 全国   | 大阪府  | 熊取町  |
|------|------|------|------|
| 正答率  | 65.3 | 63.8 | 62.2 |
| 無解答率 | 0.7  | 0.7  | 0.8  |

### 〔知識・技能〕【C 関数】選択式

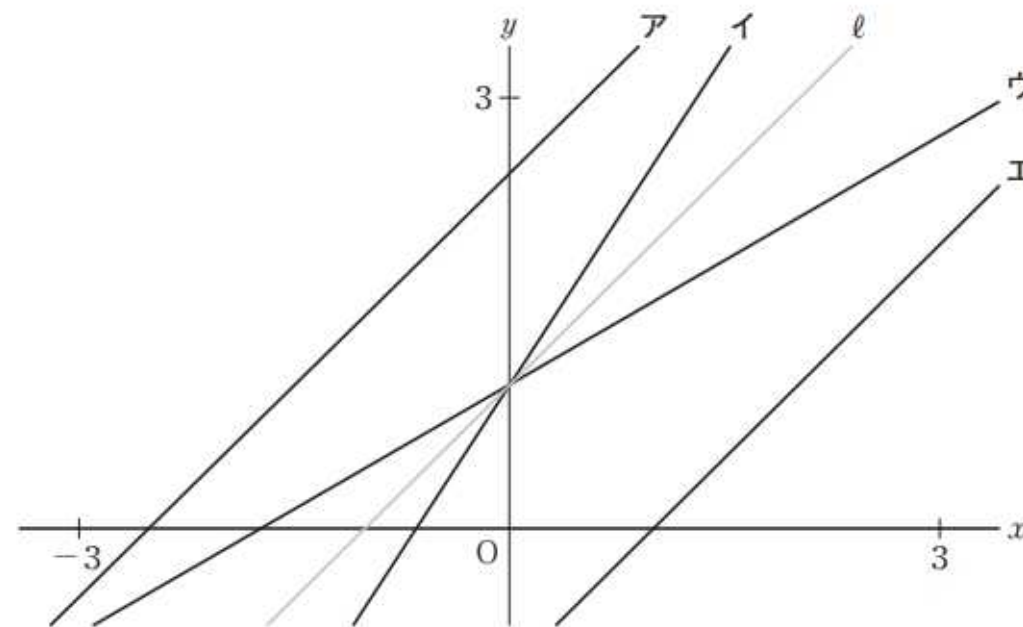
一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解することに課題が見られた。 $a$ の値を1より大きくするとグラフの傾き具合は小さくなると捉えている生徒がいると考えられる。



一次関数 $y=ax+b$ のグラフについて、 $a$ や $b$ の値の増減によってグラフが変化する様子を捉える活動を通して、式とグラフの特徴を関連付けて理解できるようにすることが大切である。

コンピュータを活用して、 $b$ の値を固定し $a$ の値を変化させたり、 $a$ の値を固定し $b$ の値を変化させたりしたときの $y=ax+b$ のグラフを観察する活動を取り入れることにより、 $a$ や $b$ の値の増減とグラフの変化の様子を関連付けて捉えることができるように指導することが大切である。

4 一次関数  $y = ax + b$  のグラフについて考えます。下の図の直線  $\ell$  は  $a = 1$ 、 $b = 1$  のときのグラフです。直線  $\ell$  に対して、 $b = 1$  を変えずに  $a$  の値を1より大きくしたときのグラフが、直線アからエまでの中にあります。それを1つ選びなさい。



7(2) 車型ロボットについて「速さが段階 1 から段階 5 まで、だんだん速くなるにつれて、10cm の位置から選んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5 つの箱ひげ図を比較して説明する

複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる

|      | 全国   | 大阪府  | 熊取町  |
|------|------|------|------|
| 正答率  | 25.9 | 22.3 | 23.2 |
| 無解答率 | 29.4 | 34.7 | 29.7 |

### 【思考・判断・表現】 【D データの活用】 記述式

根拠を明らかにして説明できなかった生徒や判断した理由を数学的な表現を用いて説明できなかった生徒が複数いると考えられる。



本設問を使って授業を行う際には、「速さが段階 1 から段階 5 まで、だんだん速くなるにつれて、10cm の位置から選んだ距離が長くなる傾向にある」と判断できる理由について、箱ひげ図を比較することで検討し、数学的な表現を用いて説明する場面を設定することが考えられる。

箱ひげ図を比較、検討する際には、判断の理由を箱の位置や四分位数などを根拠として説明できるようにしていくことが大切である。

前ページの 10 cm の位置から進んだ距離の分布から、「速さが段階 1 から段階 5 まで、だんだん速くなるにつれて、10 cm の位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、10 cm の位置から進んだ距離の分布の 5 つの箱ひげ図を比較して説明 します。下の説明を完成しなさい。

説明

したがって、速さが段階 1 から段階 5 まで、だんだん速くなるにつれて、10 cm の位置から進んだ距離が長くなる傾向にある。



8 (2) 18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する  
事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかをみる

|      | 全国   | 大阪府  | 熊取町  |
|------|------|------|------|
| 正答率  | 17.1 | 16.8 | 17.3 |
| 無解答率 | 16.4 | 18.3 | 15.7 |

〔思考・判断・表現〕【C 関数】記述式

「式を用いること」「グラフを用いること」について記述しているが、「式に $y=0$ を代入すること」や「グラフの $y$ 座標が0である点に着目すること」ができていない生徒や、ストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を数学的に表現できなかった生徒がいると考えられる。



様々な問題を数学を用いて解決できるようにするために、問題解決の構想を立てたり、問題解決の過程や結果を振り返ったりする活動を取り入れることが大切である。その際、数学を活用する方法を説明できるように指導することが大切である。

(2) 前ページのストーブの使用時間と灯油の残量から、ストーブを使用し始めてから18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるかを考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。また、実際に何時間かを求める必要はありません。

ア 「強」の場合の式  $y = -4x + 18$  と「弱」の場合の式  $y = -2.5x + 18$

イ 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフ

- 1  $n$  を整数とするとき、連続する二つの偶数を、それぞれ  $n$  を用いた式で表す  
 連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる

|      | 全国   | 大阪府  | 熊取町  |
|------|------|------|------|
| 正答率  | 34.8 | 34.7 | 50.0 |
| 無解答率 | 14.3 | 16.1 | 10.0 |

- ① 連続する2つの偶数を、文字を用いた式で表します。 $n$  を整数と  
 するとき、連続する2つの偶数を、それぞれ  $n$  を用いた式で表しなさい。

〔知識・技能〕【A 数と式】短答式

「 $2n, 4n$ 」、 「 $n+2, n+4$ 」 や 「 $n-1, n+1$ 」 と解答した生徒も見られたが、全国や大阪府の平均正答率を大きく上回る、半数の生徒が、連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができていた。



引き続き、数量及び数量の関係を捉え説明する場面において、事象における数量や数量の関係を文字を用いた式で表すことができるように指導することが大切である。

連続する二つの偶数を「 $n+2, n+4$ 」と表した場合を取り上げ、これらの式の $n$ に具体的な整数を代入したときに連続する二つの偶数を表さない場合があることを理解できるように指導することが考えられる。

## 算数・数学の学力向上に向けての方策①

### 課題解決に活用できる「生きて働く知識」の形成をめざした指導

課題解決に活用できる「生きて働く知識」は、探求の過程が繰り返され、何度も活用し発揮していくことで、構造化され形成していく。そのため、探求の過程を通して、自分自身で取捨選択し、整理し、既存の知識と結びつけながら課題に取り組み、児童生徒が算数・数学のよさを実感できるようにすることが重要である。

## 算数・数学の学力向上に向けての方策②

### 児童・生徒が主体的に関わり、表現する授業づくりの充実

形式的な数や図形、グラフの処理だけでなく、日常の事象と関連付けたり、児童生徒が主体的に関わる場面を設けたりすることが重要となる。

児童生徒が既存の知識を活用しながら問題解決に向けて取り組むとともに、自らの考えを説明する場面を設け、クラス全体で議論していく中で、主体的に学びに向かえるよう指導していくことが必要である。

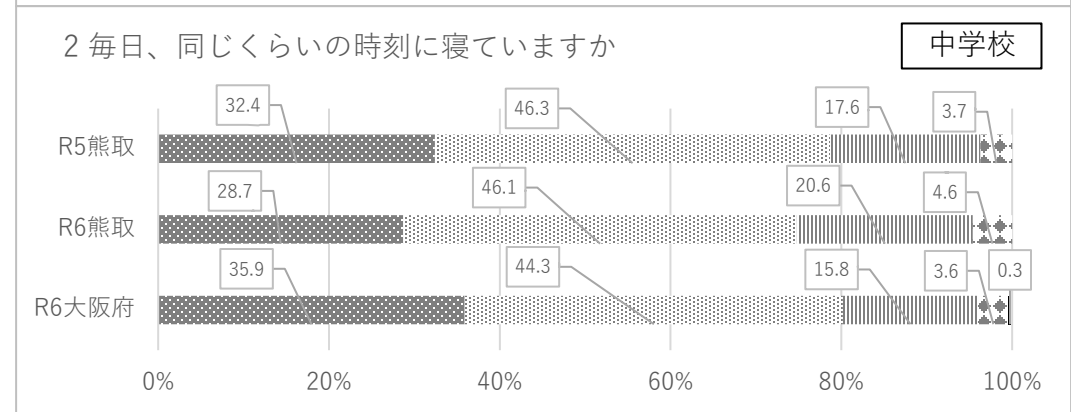
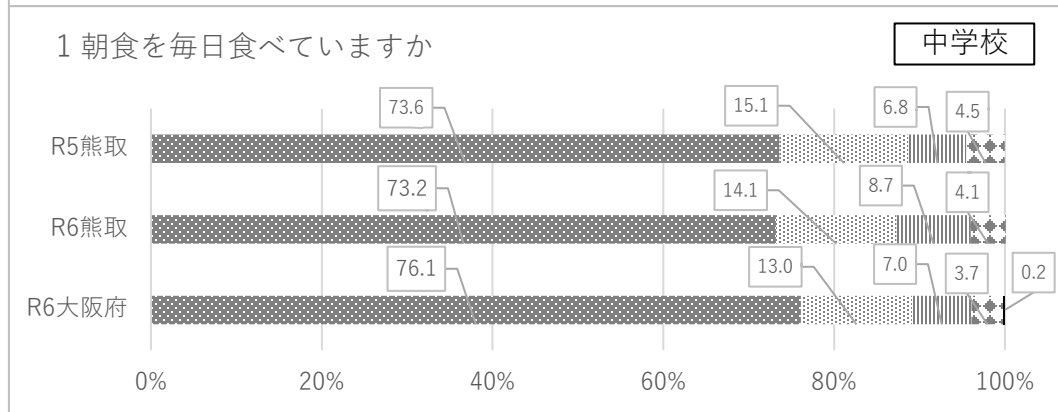
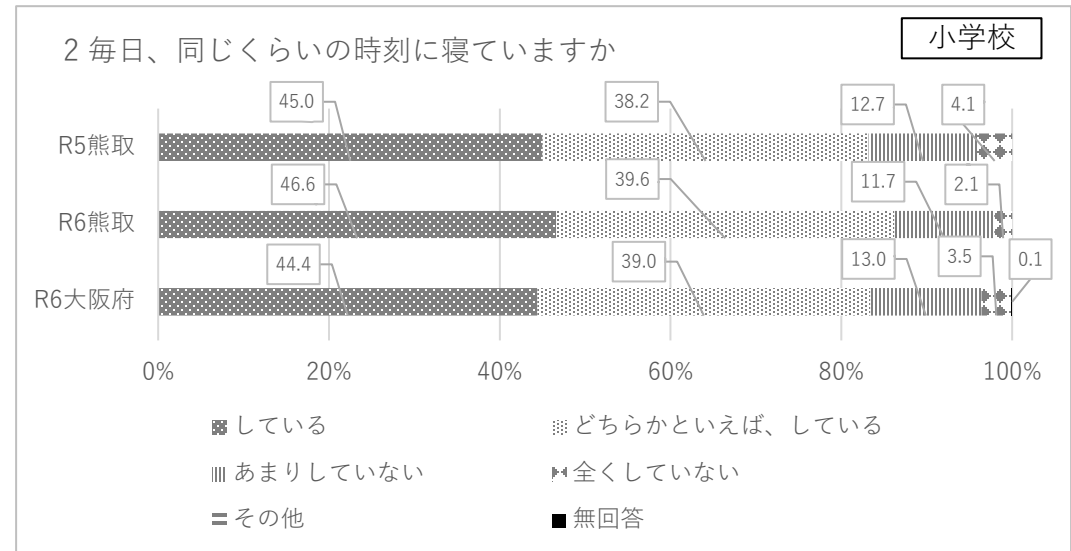
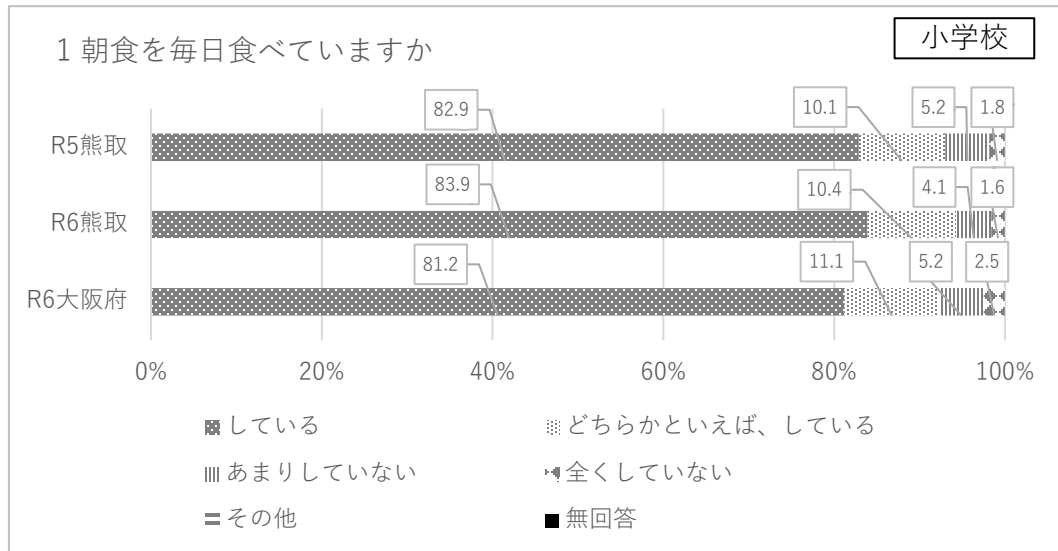
## 4. 質問紙調査の結果と分析

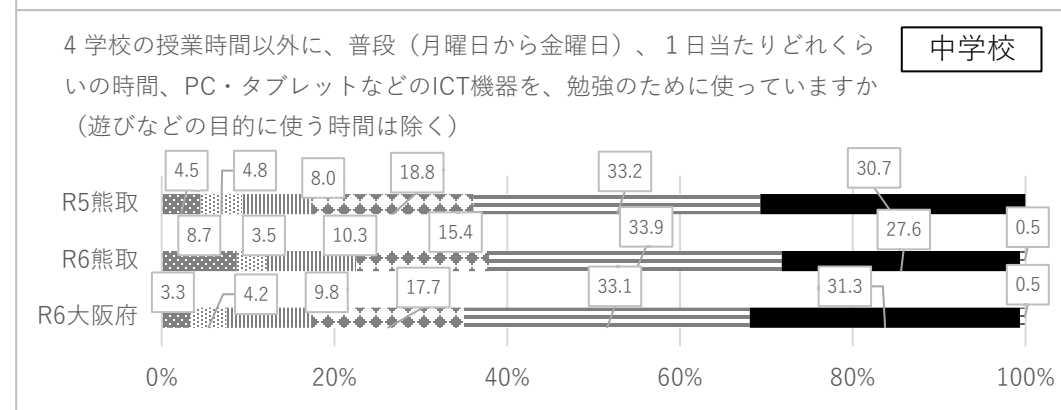
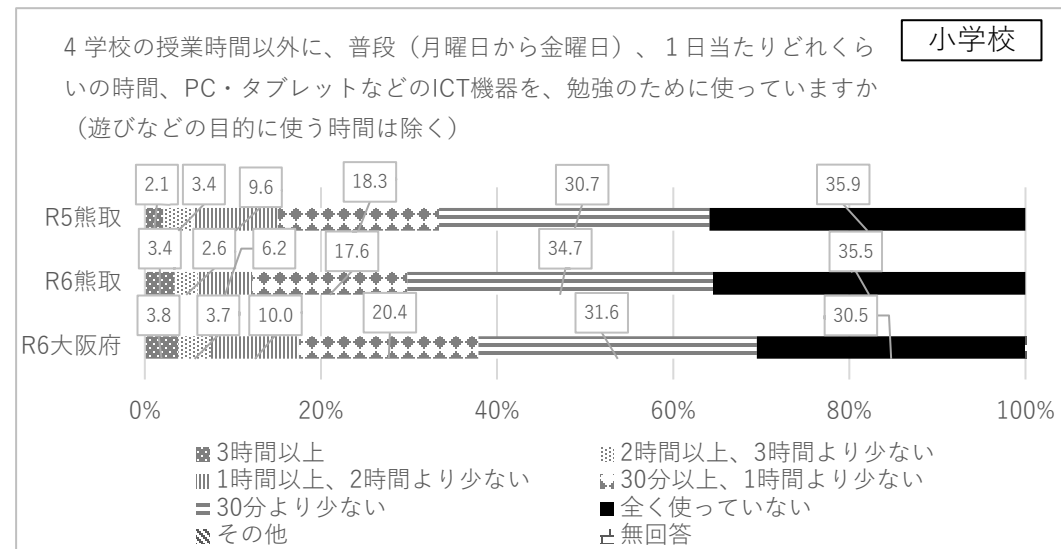
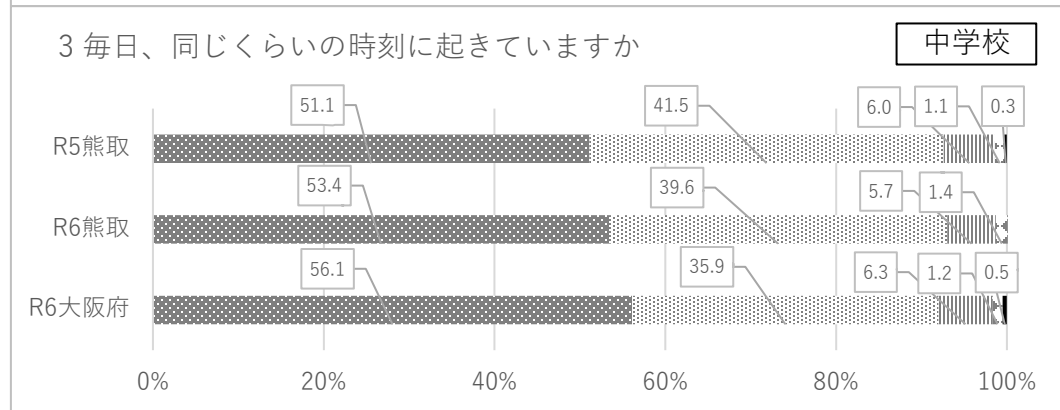
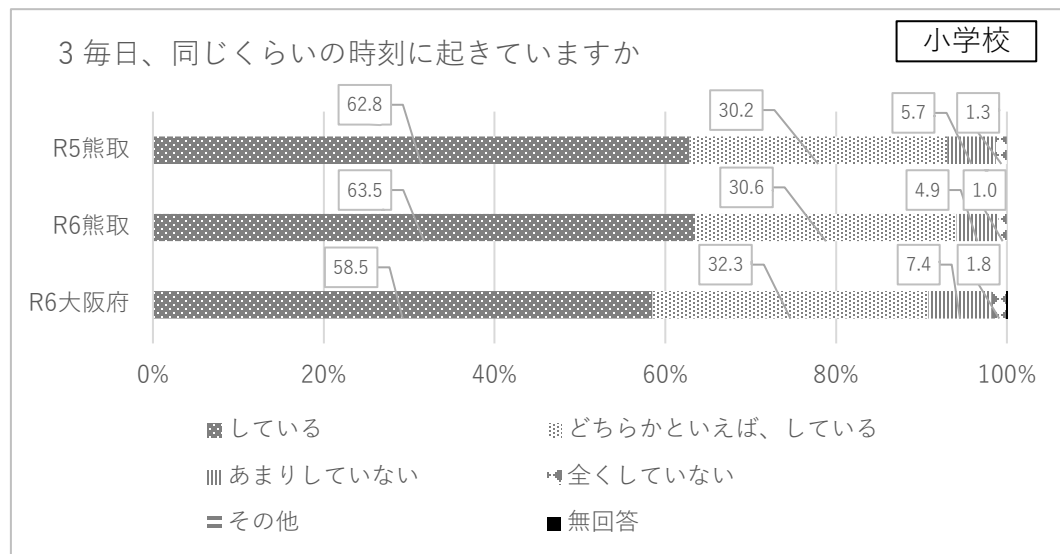
令和6年度の児童生徒質問調査の質問数は、小学校が63問、中学校が65問であった。分析を行うにあたっては、各質問を下記の表のように8項目に分類し、令和5年度の熊取町及び令和6年度の大阪府の調査結果との比較検討を行った。

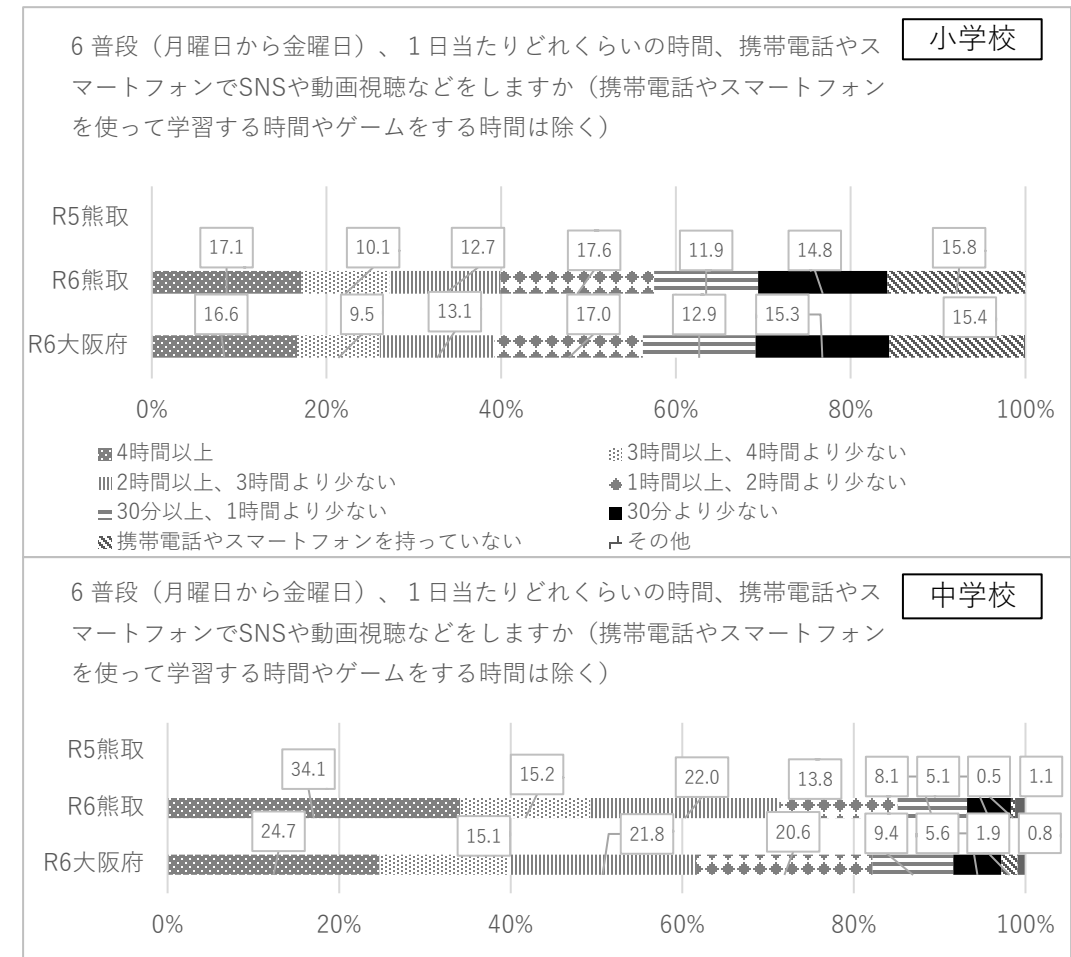
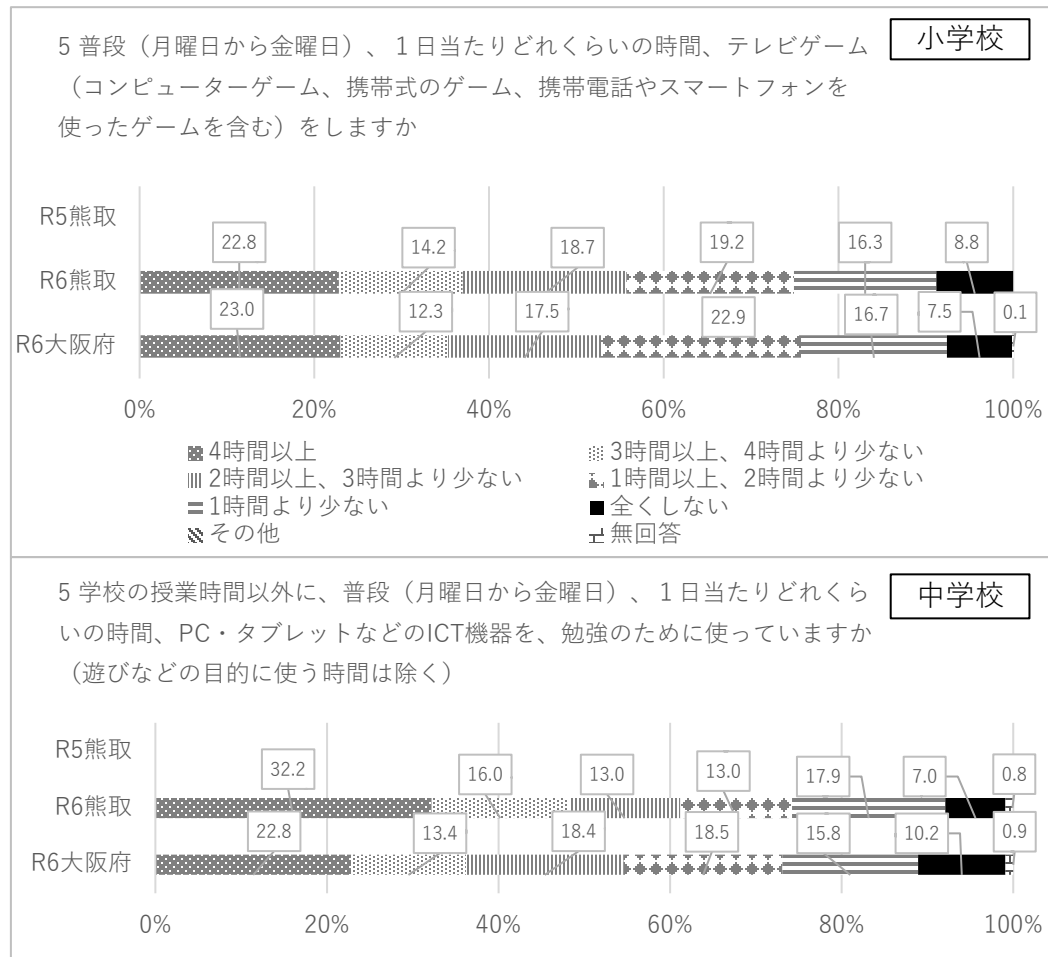
令和6年度 児童生徒質問調査内容の分類

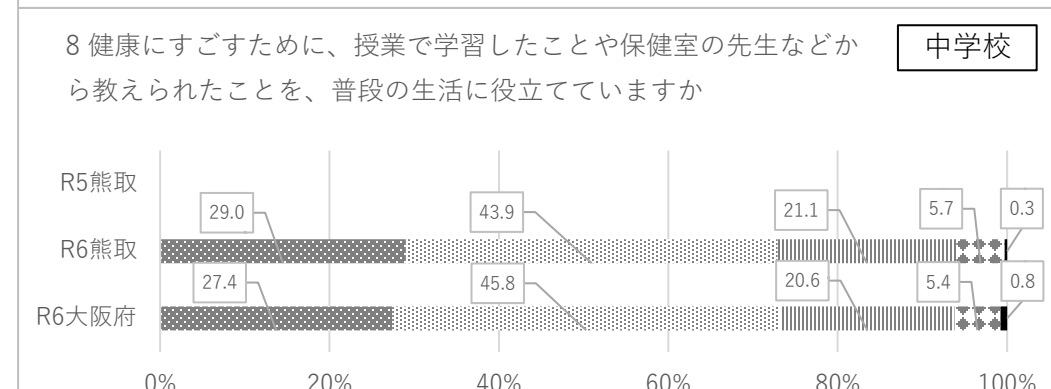
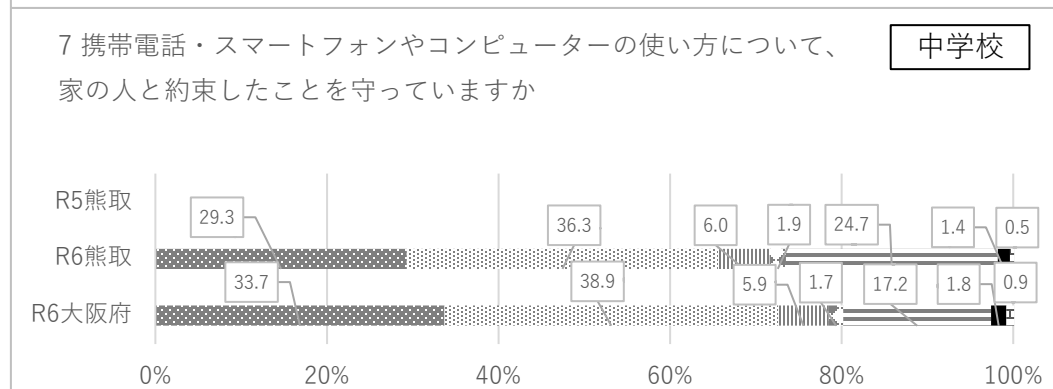
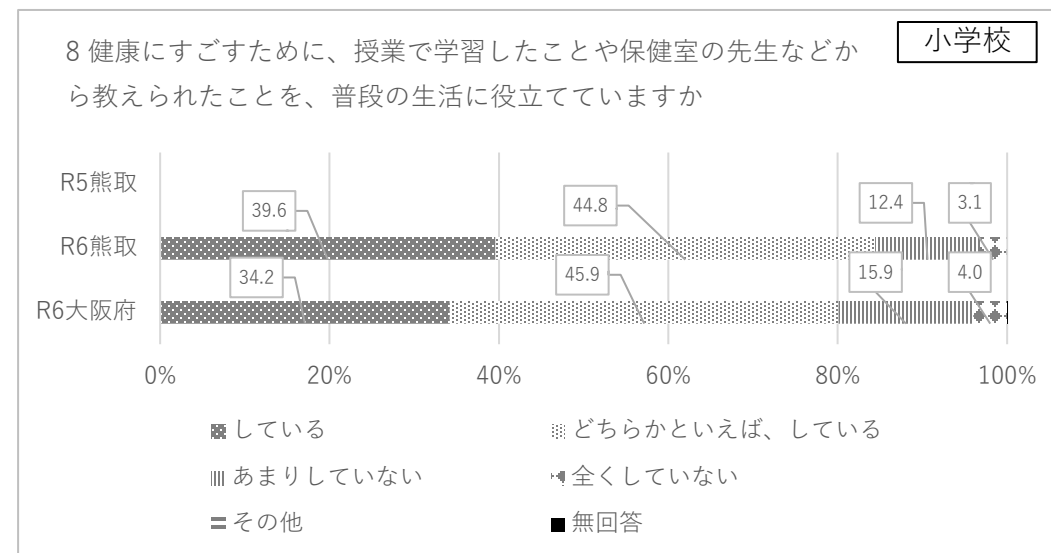
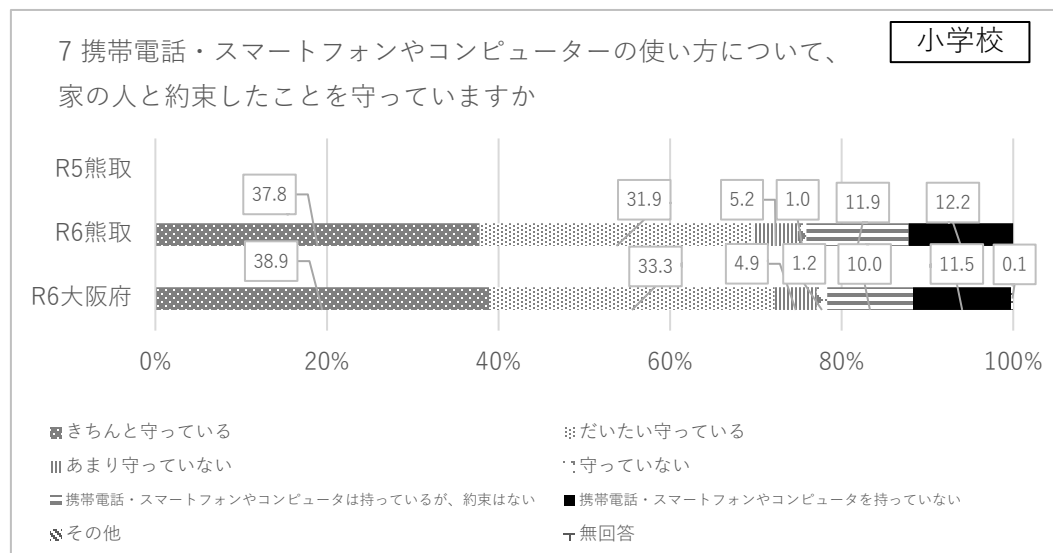
| 分類<br>番号 | 項 目                               | 質問番号          |               |
|----------|-----------------------------------|---------------|---------------|
|          |                                   | 小学校           | 中学校           |
| 1        | 基本的生活習慣等                          | (1) ～ (8)     | (1) ～ (8)     |
| 2        | 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等           | (9) ～ (19)    | (9) ～ (19)    |
| 3        | 学習習慣、学習環境等                        | (20) ～ (24)   | (20) ～ (24)   |
| 4        | 地域や社会に関わる活動の状況等                   | (25) ～ (26)   | (25) ～ (26)   |
| 5        | ICTを活用した学習状況                      | (27) ～ (28-7) | (27) ～ (28-7) |
| 6        | 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況    | (29) ～ (37)   | (29) ～ (37)   |
| 7        | 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳           | (38) ～ (41)   | (38) ～ (41)   |
| 8        | 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語・算数/数学・理・英） | (42) ～ (63)   | (42) ～ (65)   |





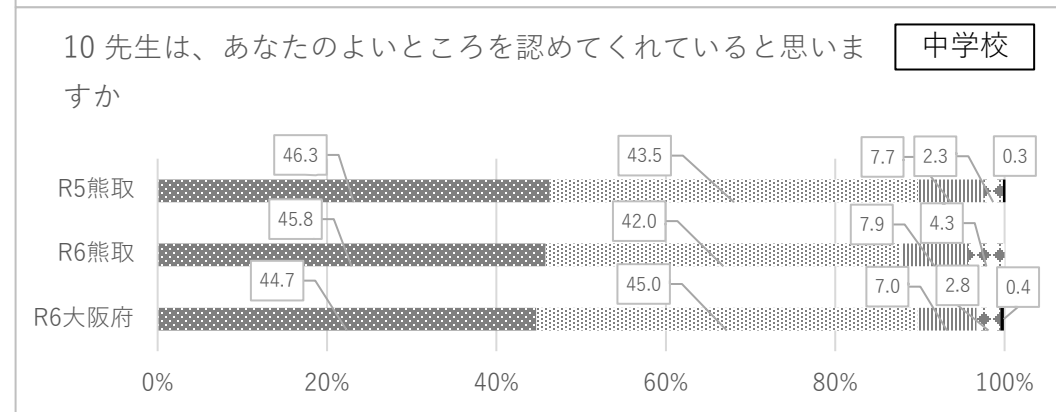
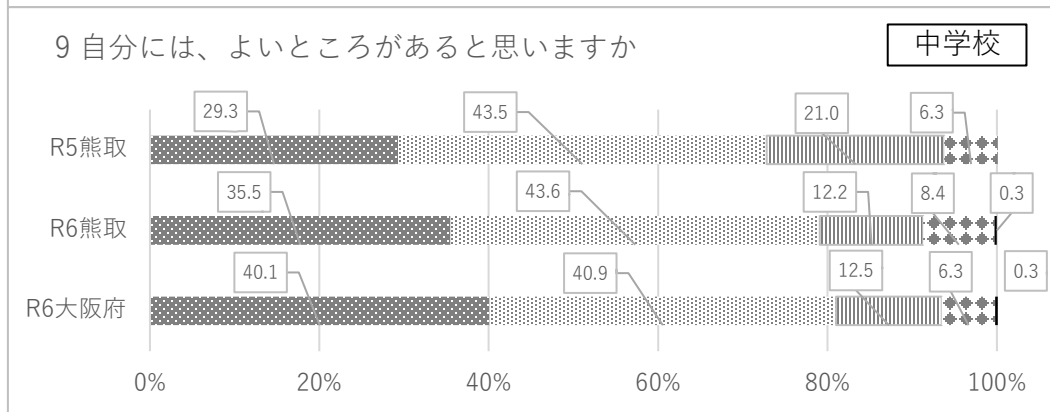
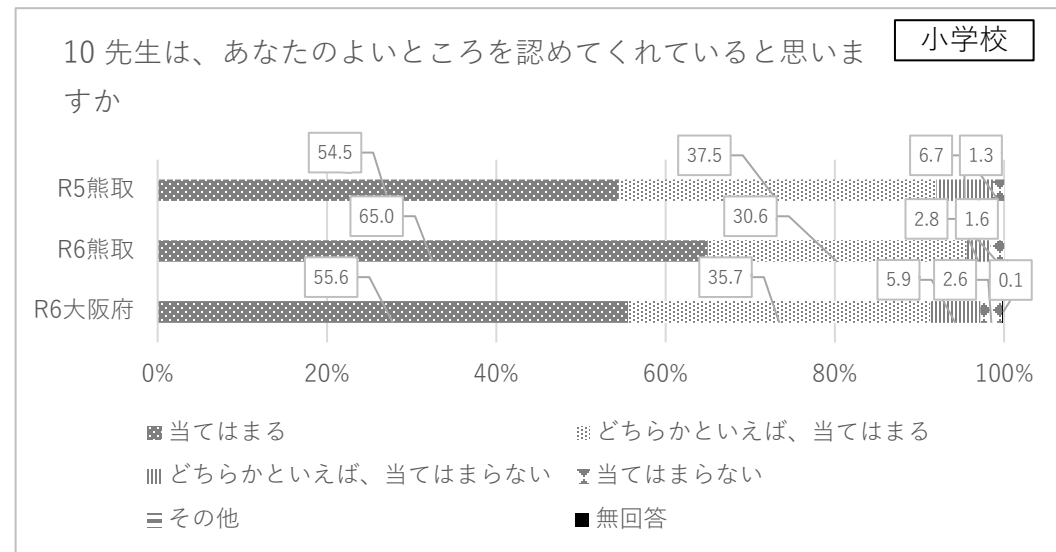
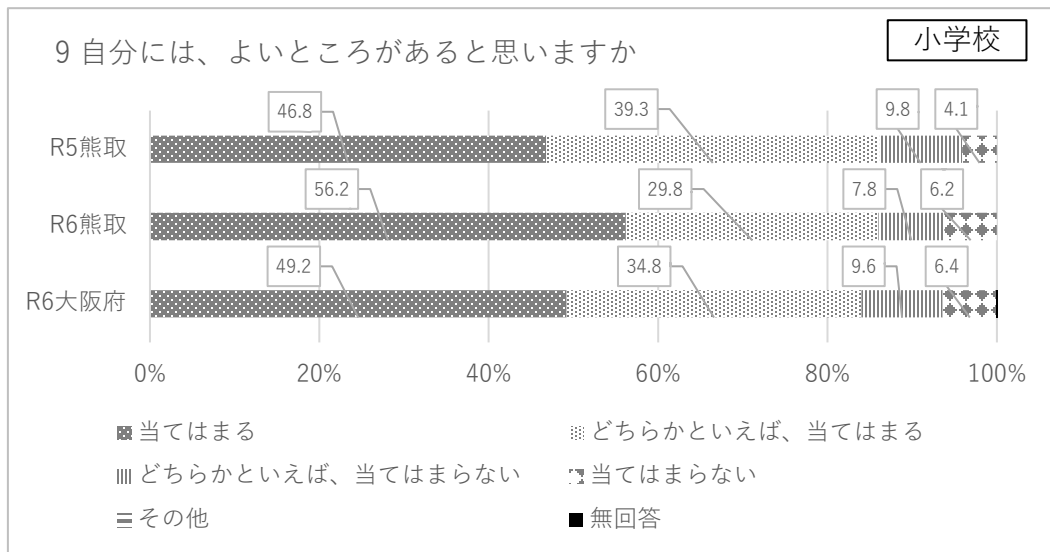


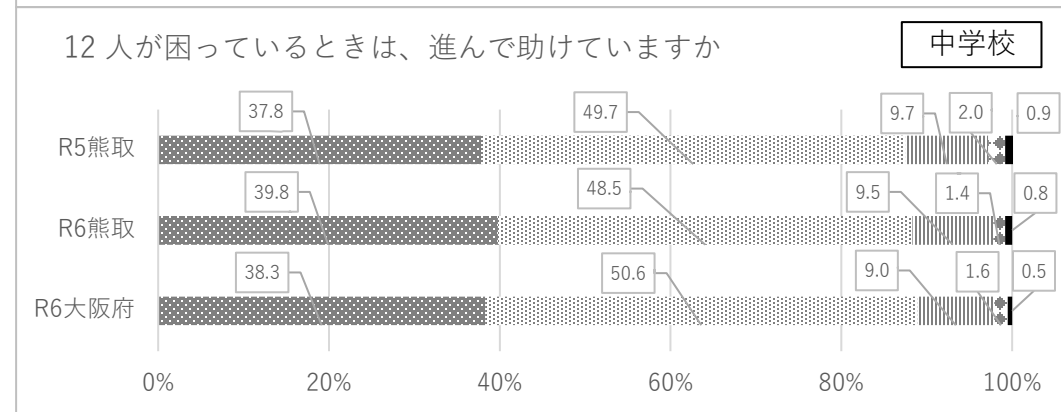
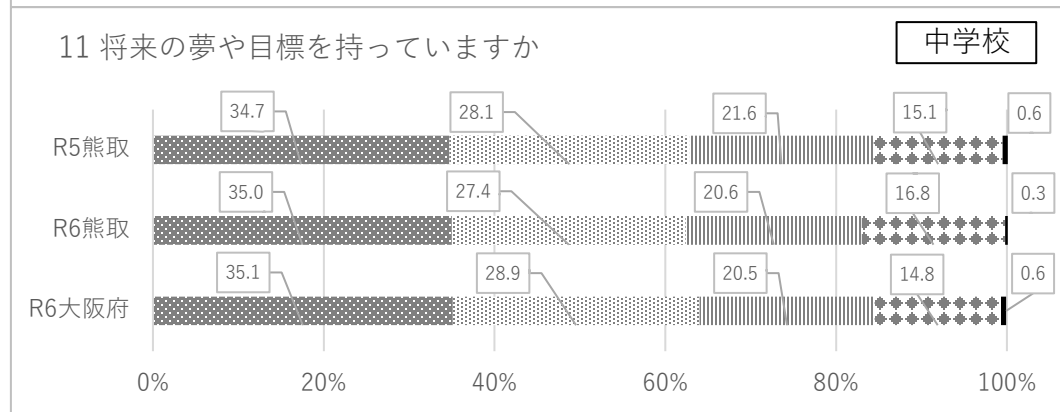
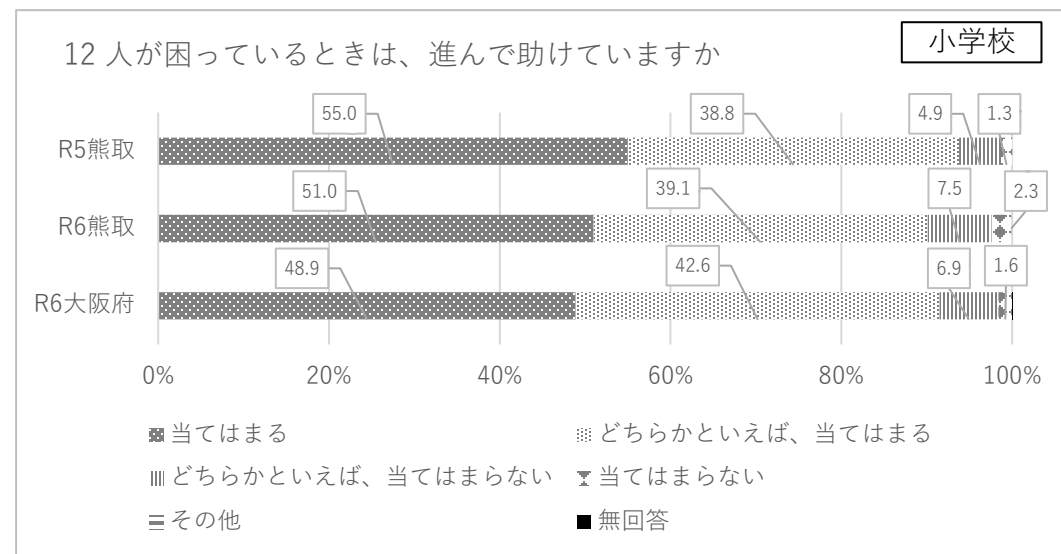
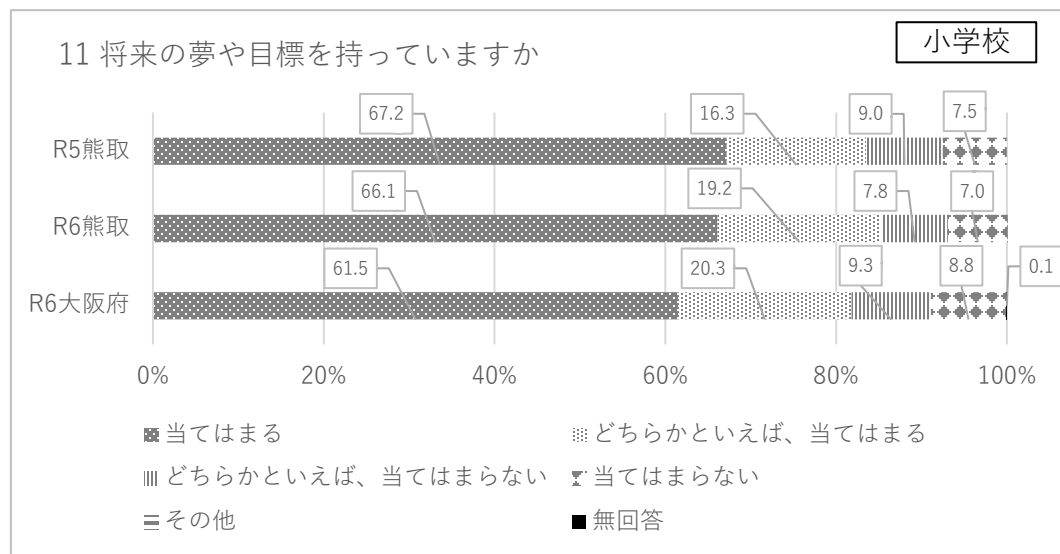


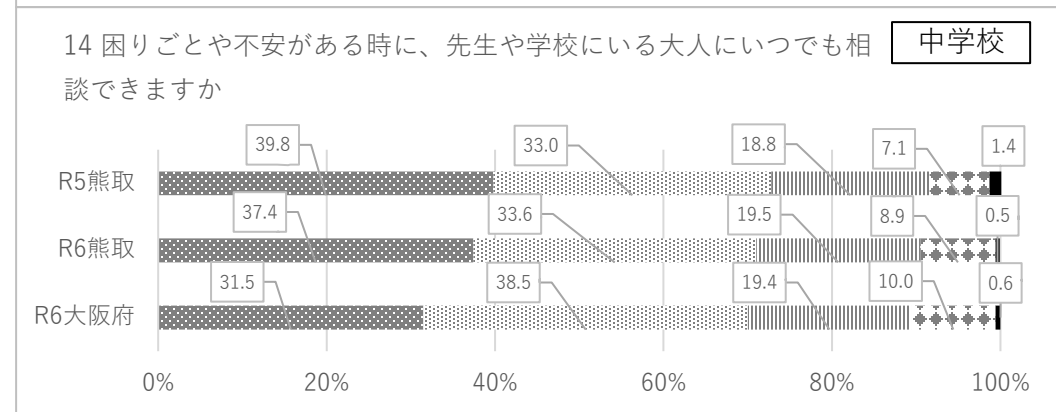
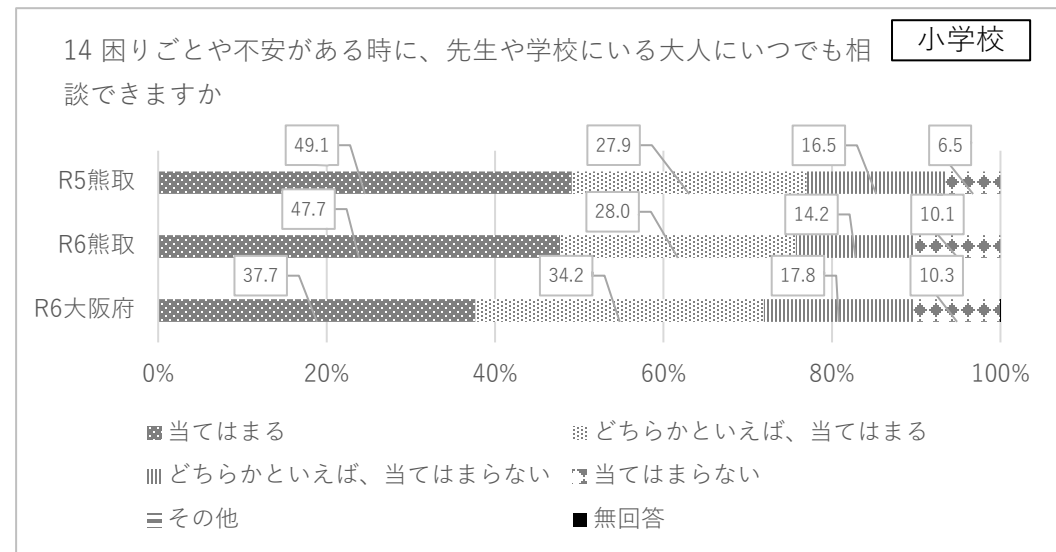
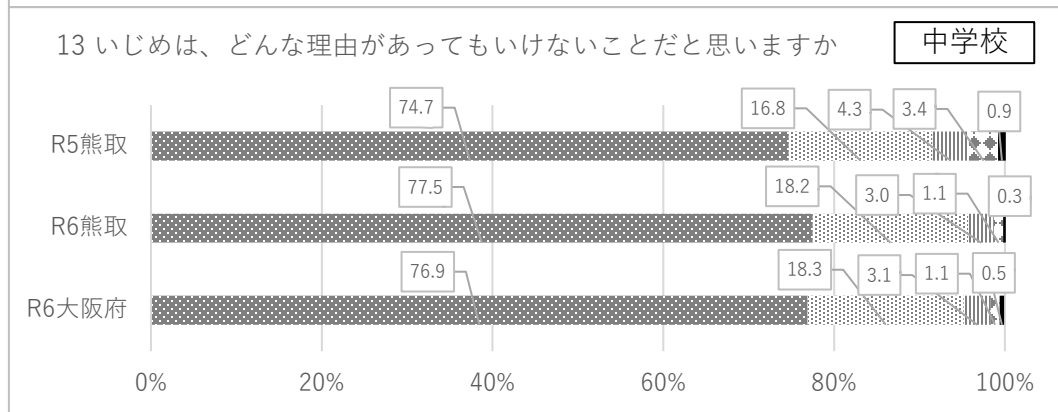
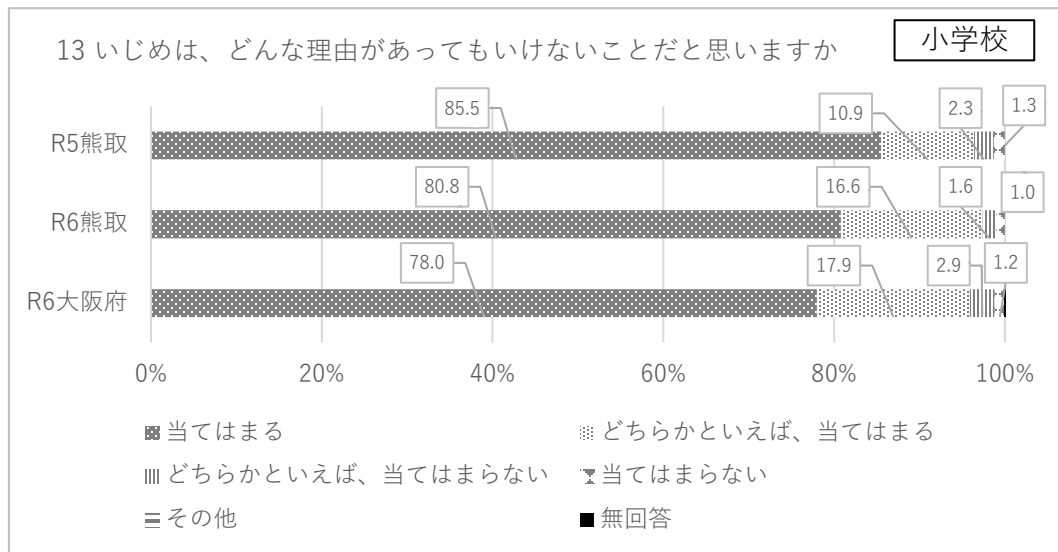


## ①基本的生活習慣等 小学校1～8・中学校1～8

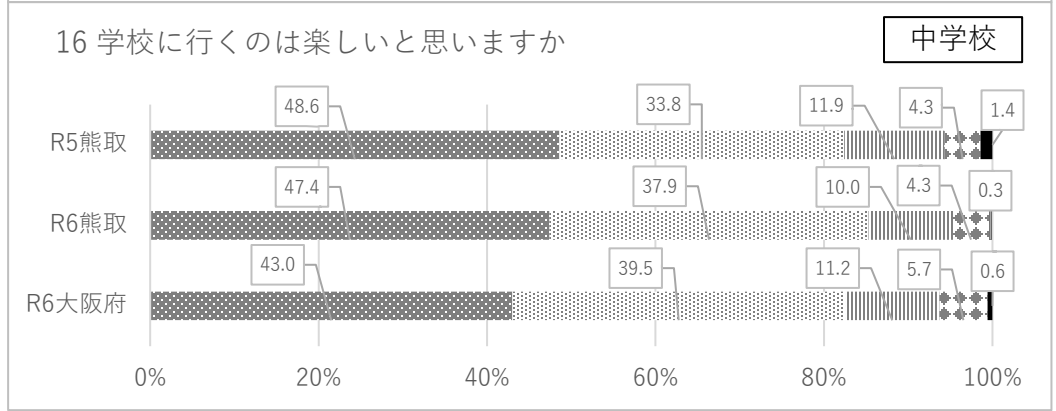
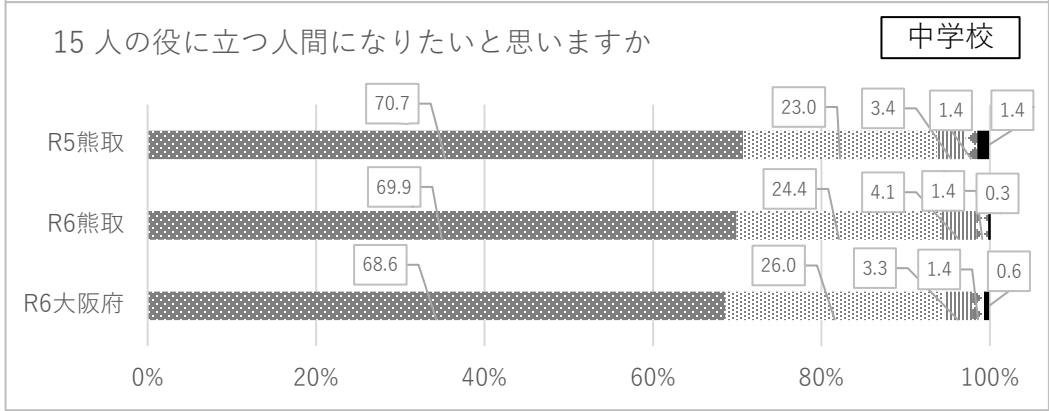
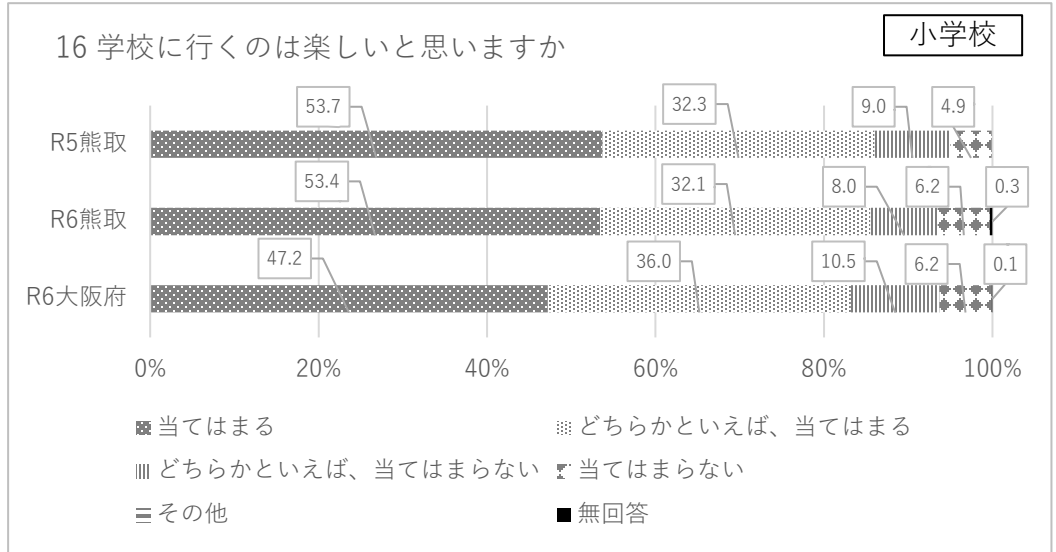
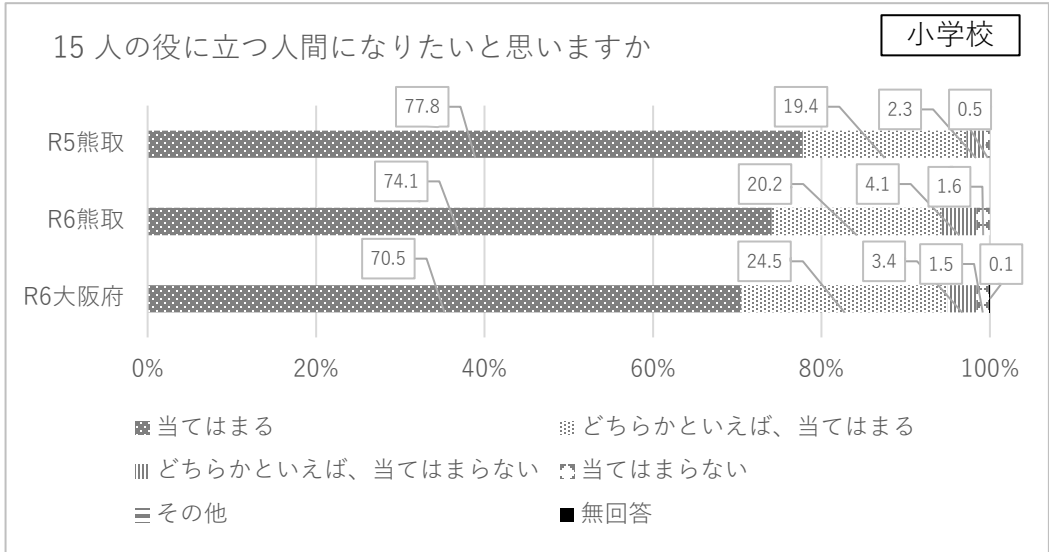
基本的生活習慣の質問について、小学校では、大阪府の肯定的回答より同等、もしくはそれ以上の回答となったが、中学校では少し下回る結果も見られた。中学校において、勉強にICT機器を使う割合が昨年度より増加している。しかし、小中学校ともにスマートフォンやタブレットでゲームや動画視聴している時間の割合が高く、使い方について「約束を守っていない」「家庭で約束事がない」という回答も一定数いる。そのため、学校と家庭が連携しながら、再度ICT機器の使用方法について子どもたちと考える必要がある。

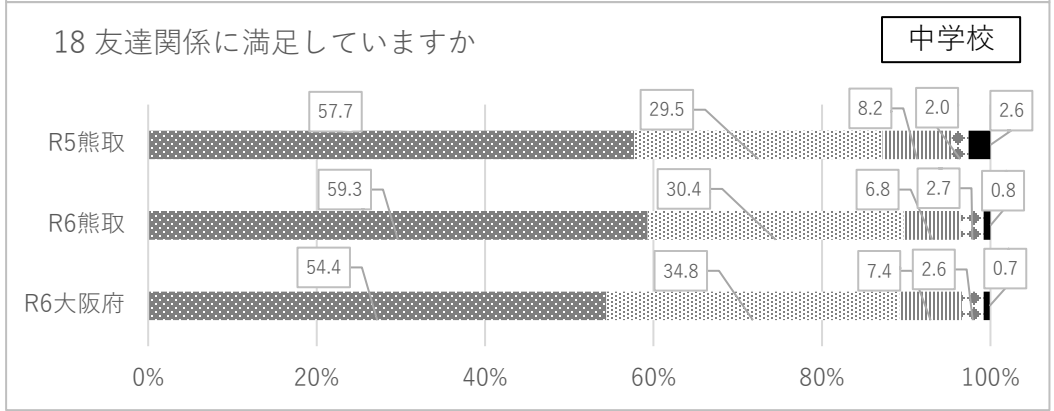
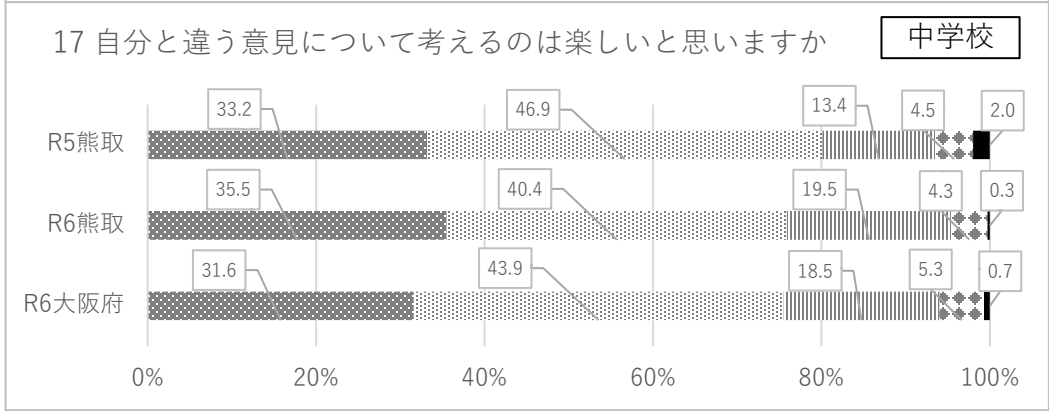
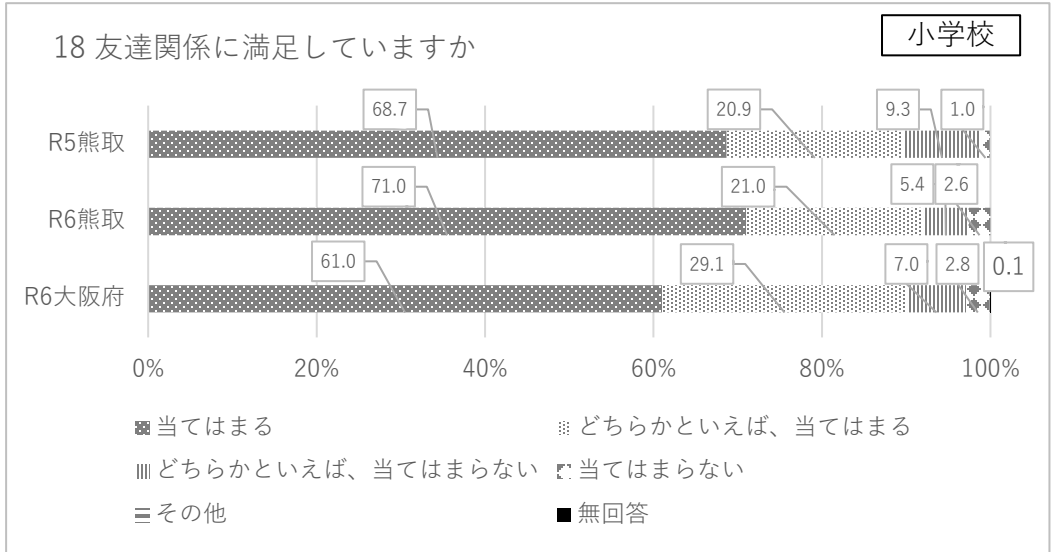
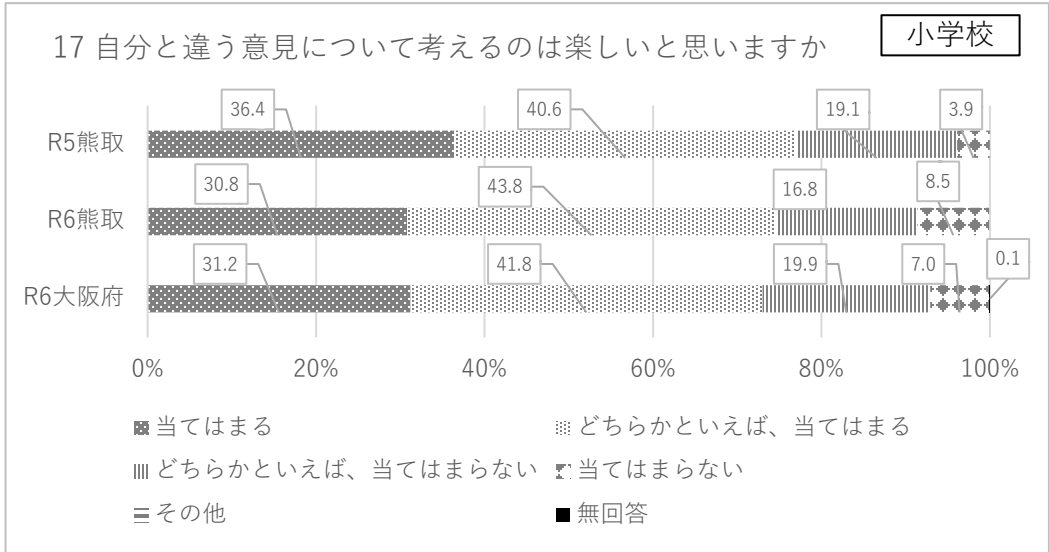


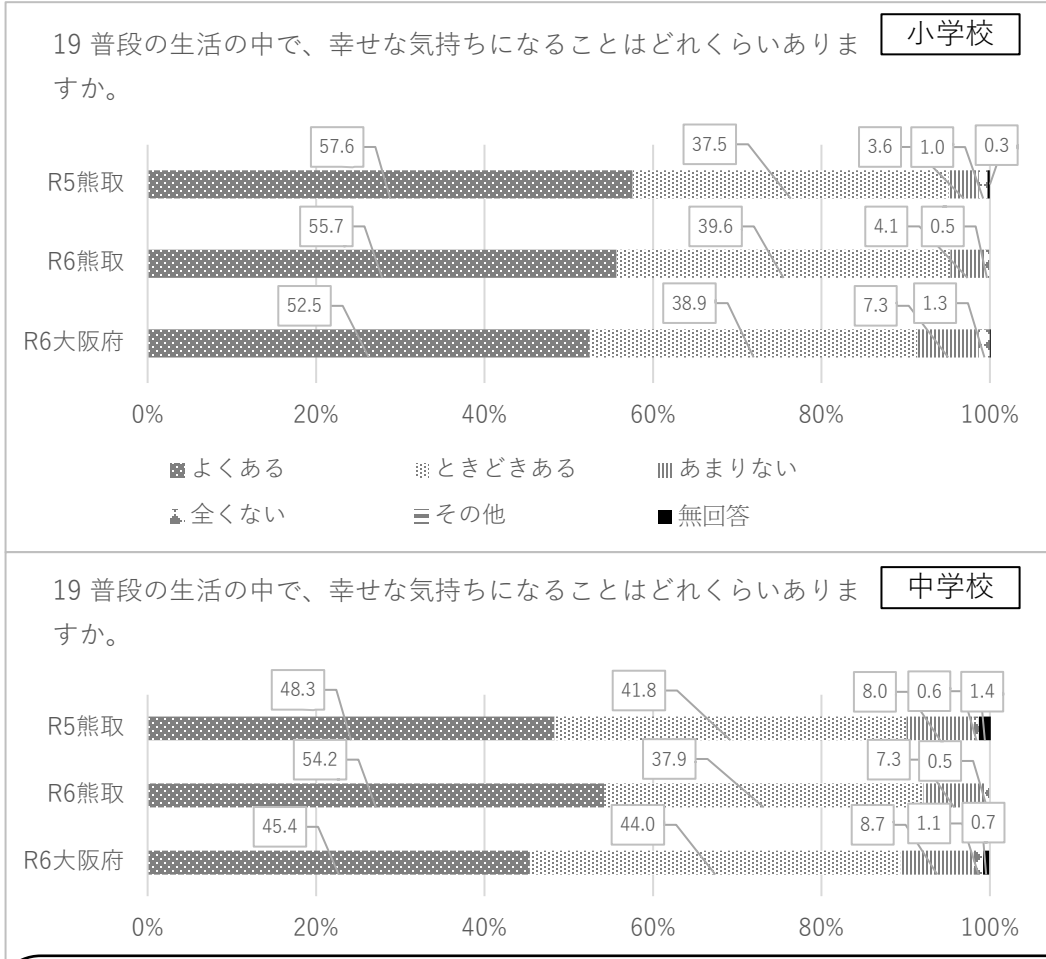












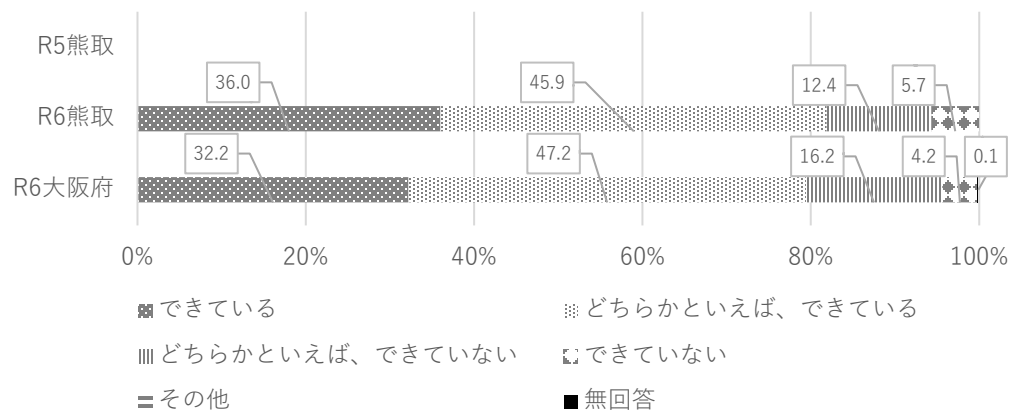
② 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等 小学校9～19・中学校9～19

小中学校ともに「自己有用感」に関する質問に対して9割以上の肯定的回答があった。しかし「将来の夢や目標」の質問では、肯定的回答の割合が低下する傾向が見られた。「幸福感」に関する質問では、昨年度と同様に小中学校ともに肯定的回答が9割を超えており、大阪府の結果を上回った。

これらのことから、日々の学校生活での取組みが、子どもたちの「幸福感」を大切にし、「将来の夢や目標」へのつながりを見いだすことができるものとなるようにしていきたい。

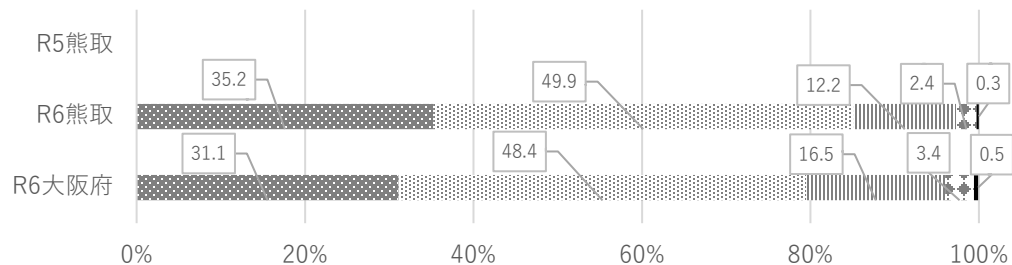
20 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学  
び方を考え、工夫することができますか

小学校



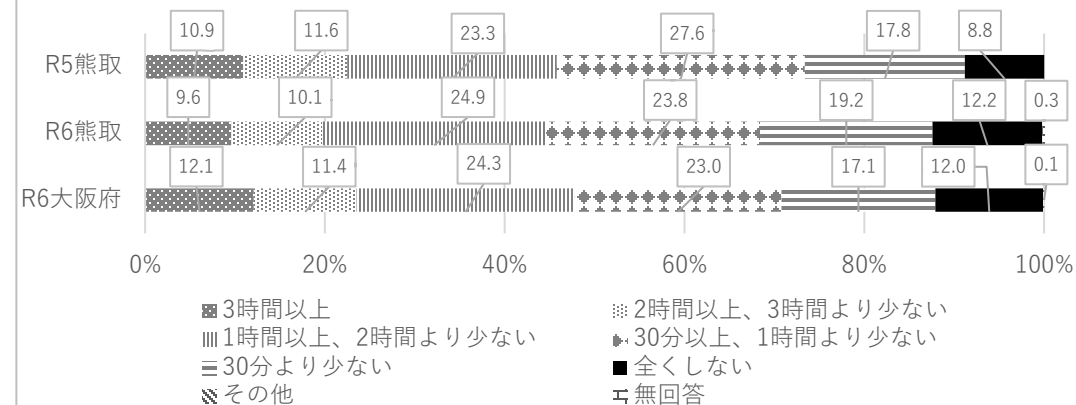
20 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学  
び方を考え、工夫することができますか

中学校



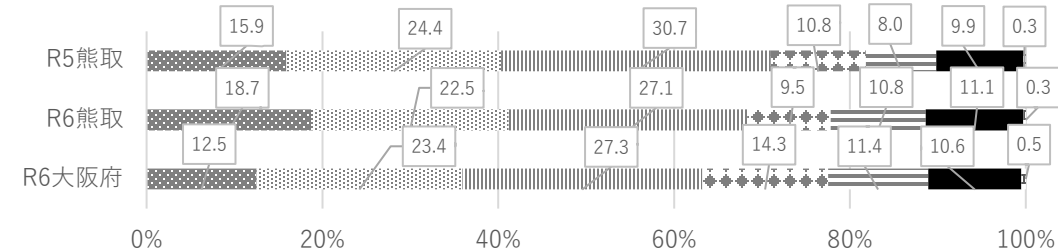
21 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくら  
いの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教  
わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

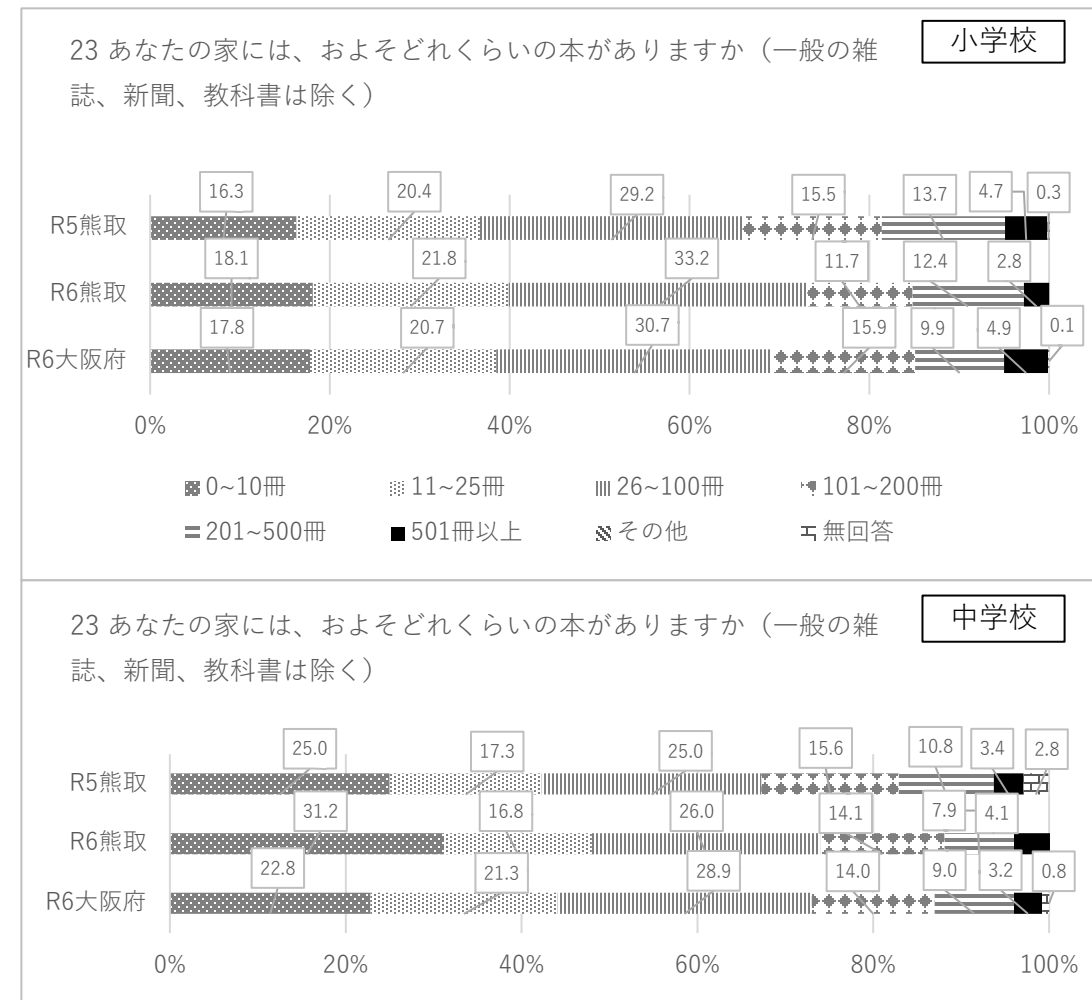
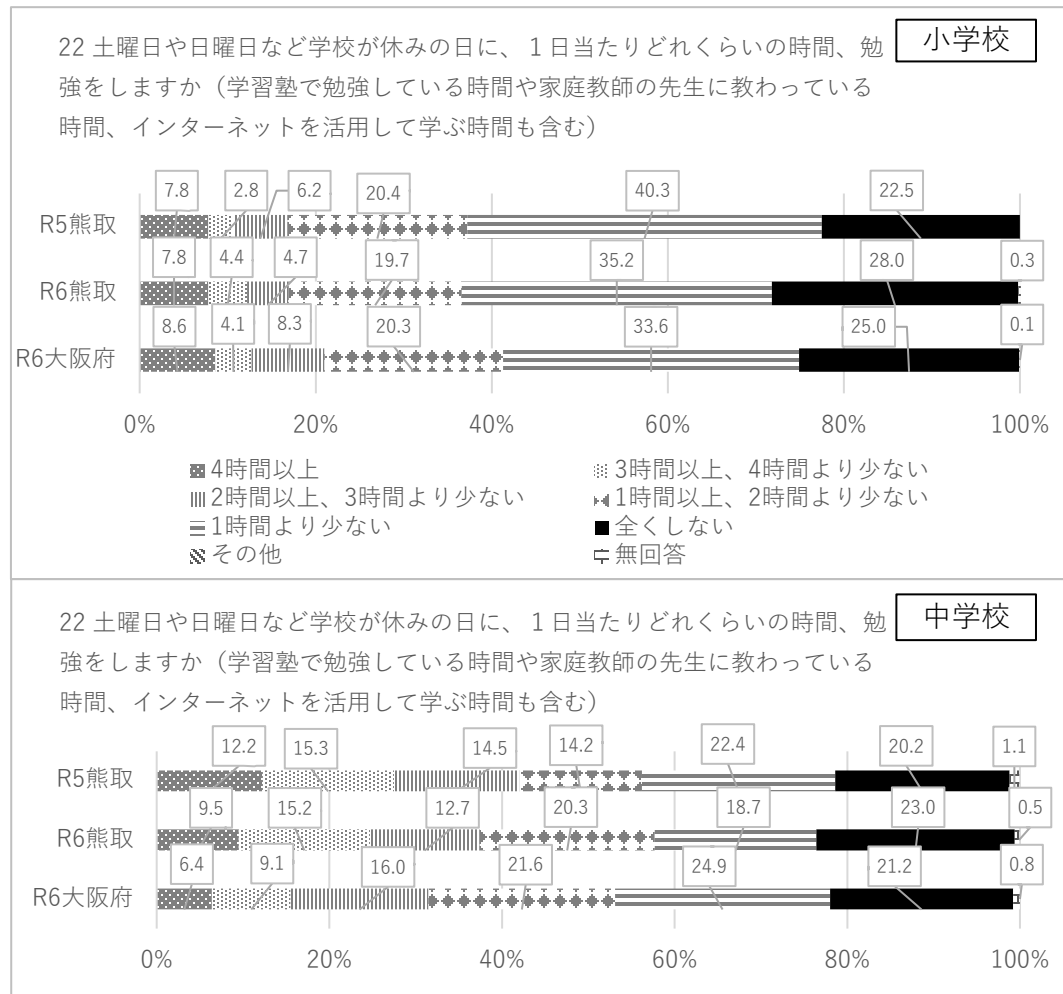
小学校

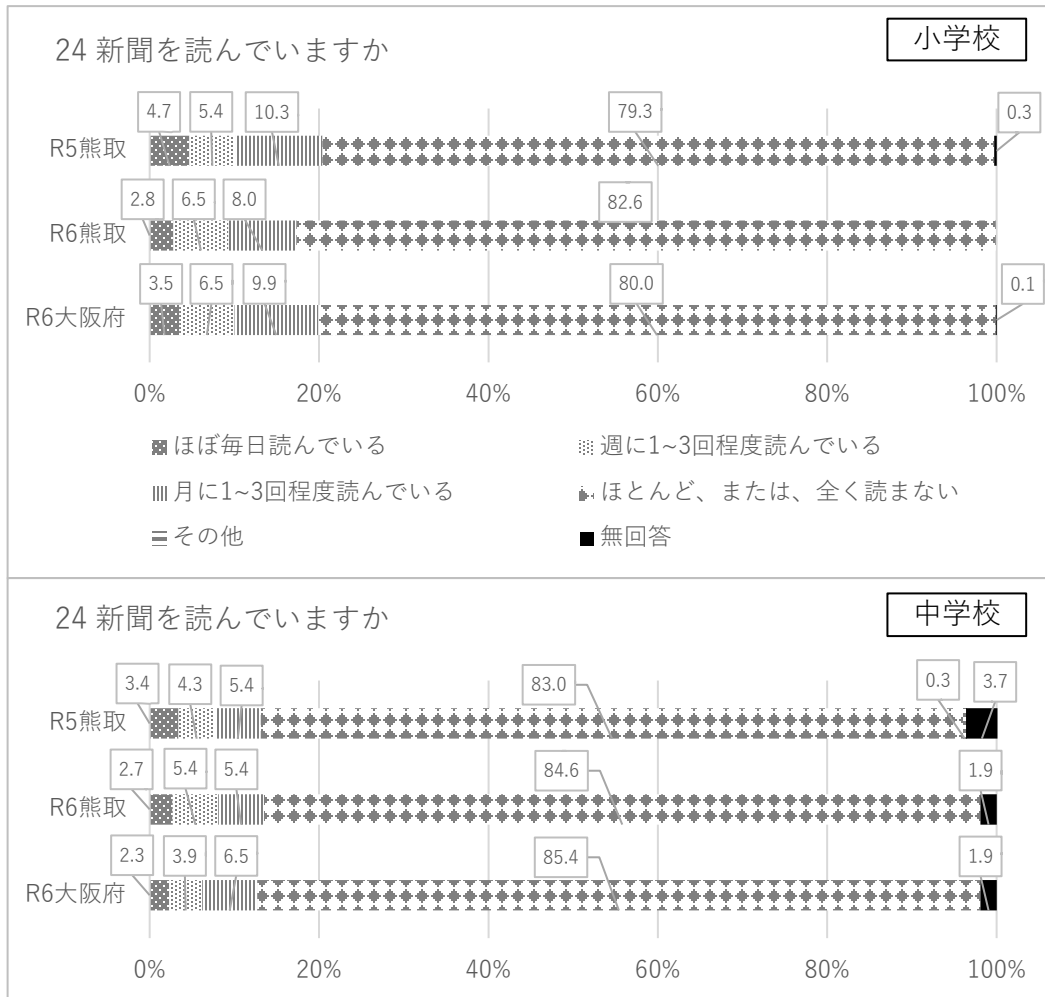


21 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくら  
いの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教  
わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

中学校





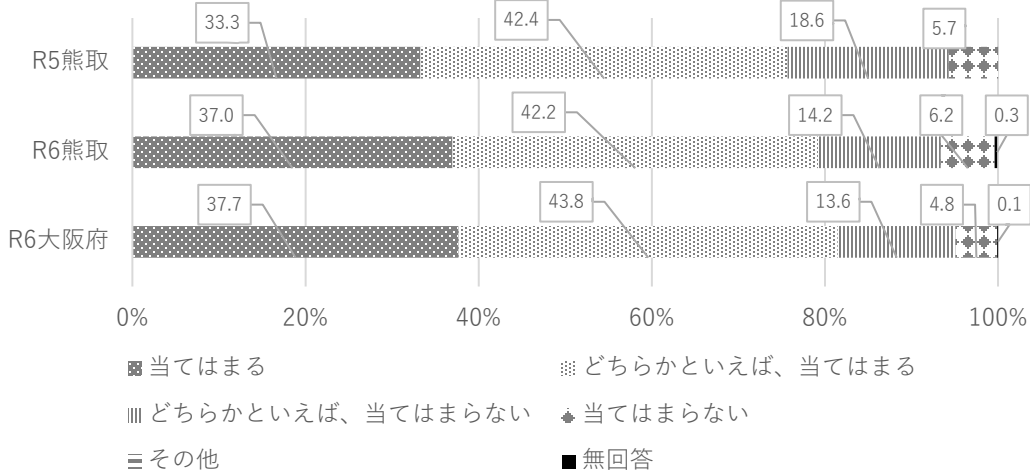


### ③学習習慣、学習環境等 小学校20~24・中学校20~24

子どもたちのなかに、分からないことや詳しく知りたいことがあったときは、すぐに周囲の人に聞くのではなく、自分で学び方を考え工夫する学習習慣が定着していることが見られた。学校の授業時間以外の学習については、一定時間学習している子どもがいるものの、「全くしない」と答えた割合が昨年度より高くなり、大阪府を上回る結果となった。学校での学習が、家庭学習へつながるように、引き続き授業改善に取り組んでいく必要がある。

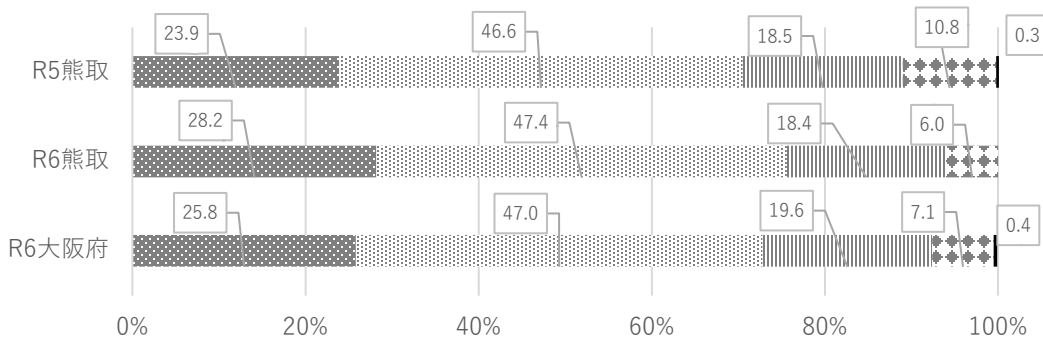
25 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

小学校



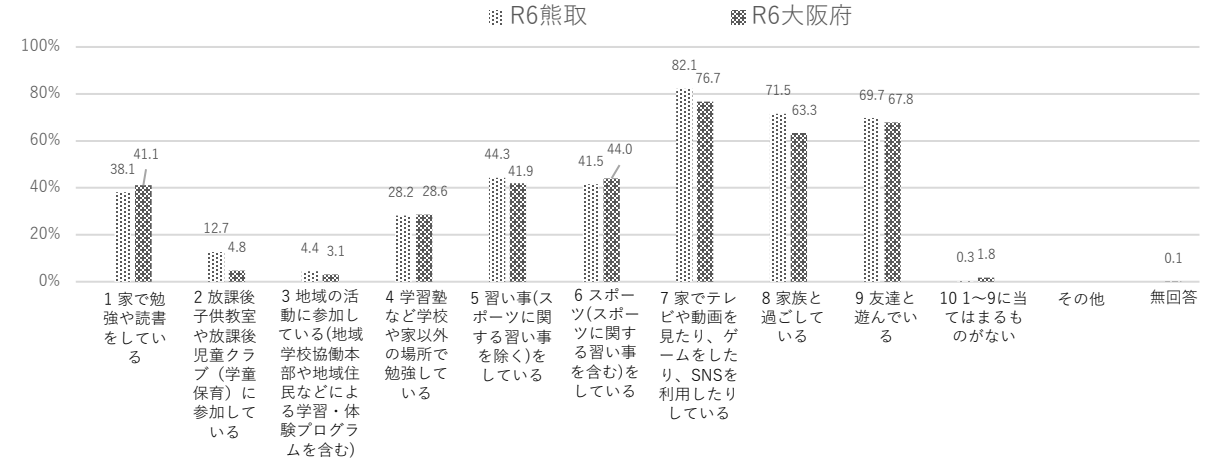
25 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

中学校



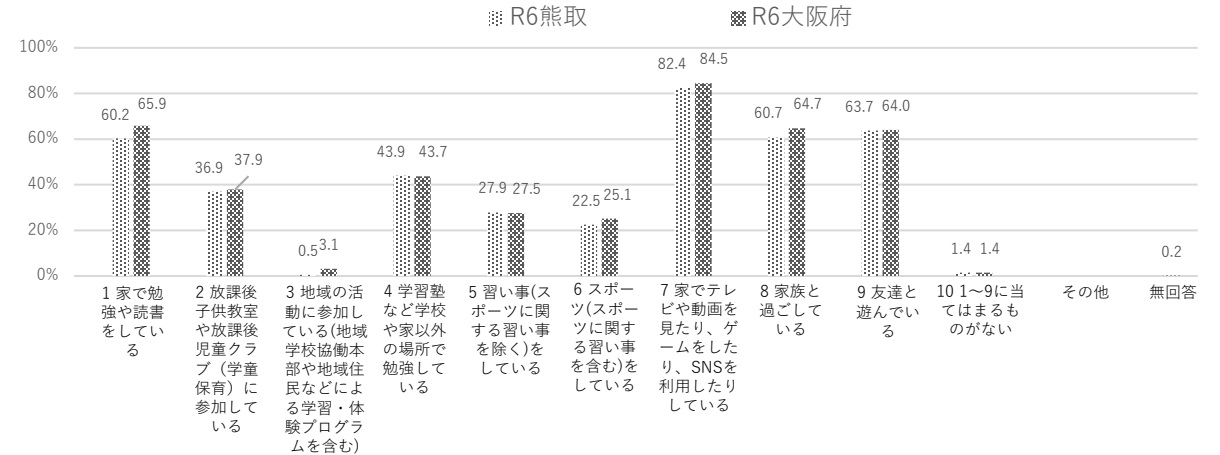
26 放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか(複数選択)

小学校



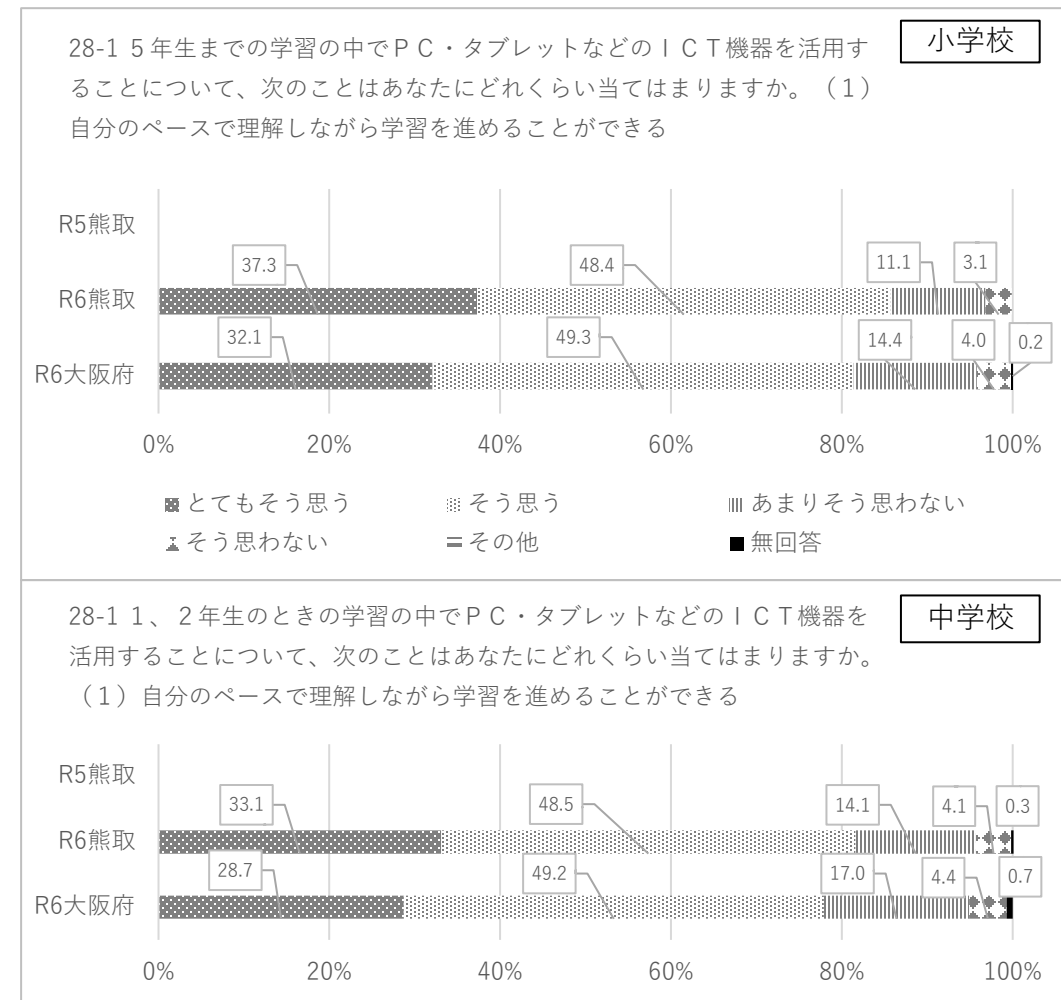
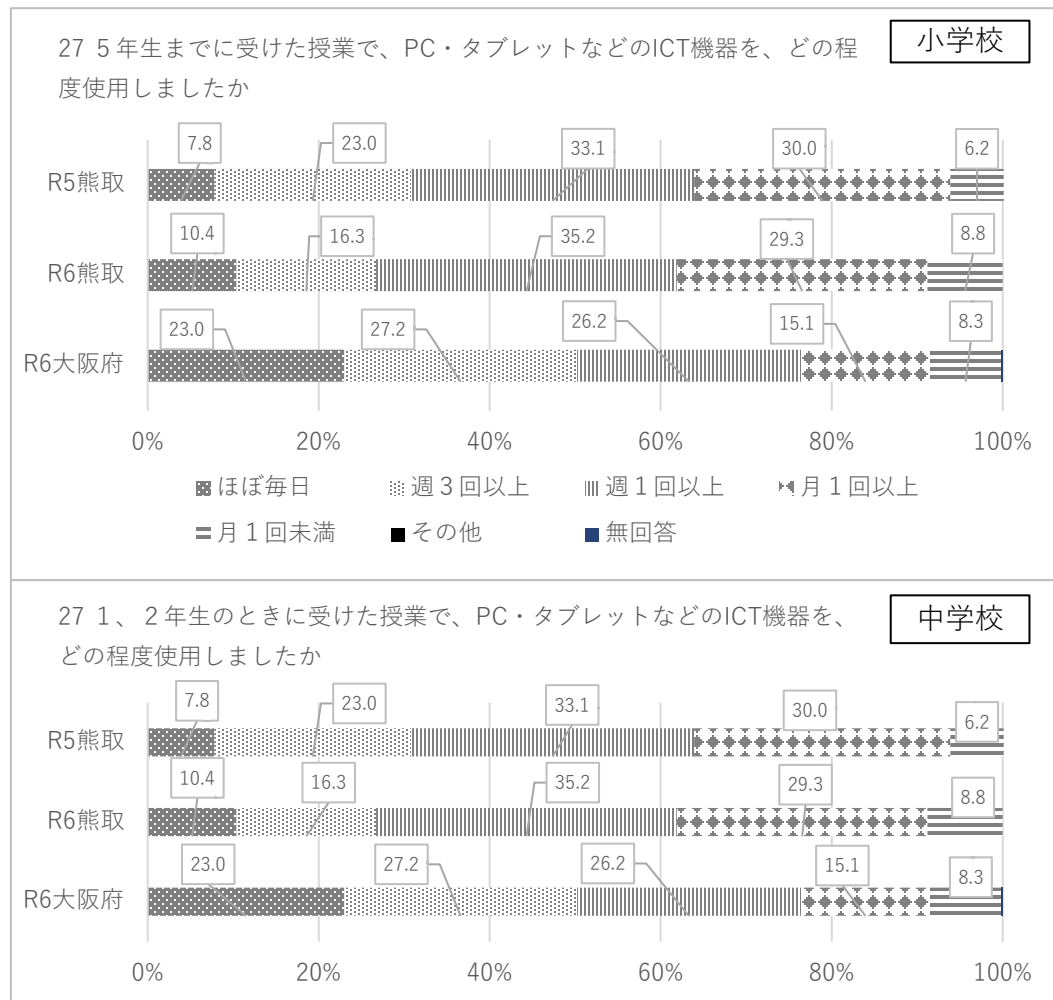
26 放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか(複数選択)

中学校



#### ④地域や社会に関わる活動の状況等 小学校25～26・中学校25～26

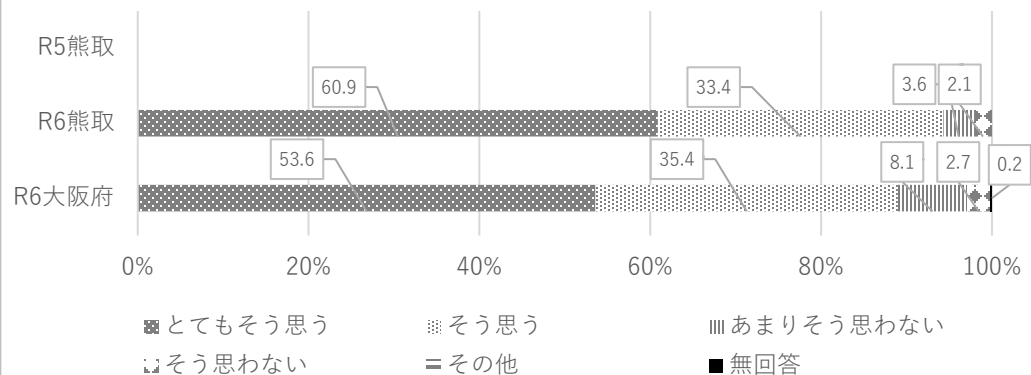
「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の設問において大阪府の肯定的回答と比較すると、小学校はやや低く、中学校はやや高い結果であった。小中学校ともに昨年度よりも肯定的回答の割合は高まっており、今後も地域の方と出会い、交流し、連携することで、地域や社会の担い手となる子どもたちの資質・能力をしっかりと育んでいきたい。





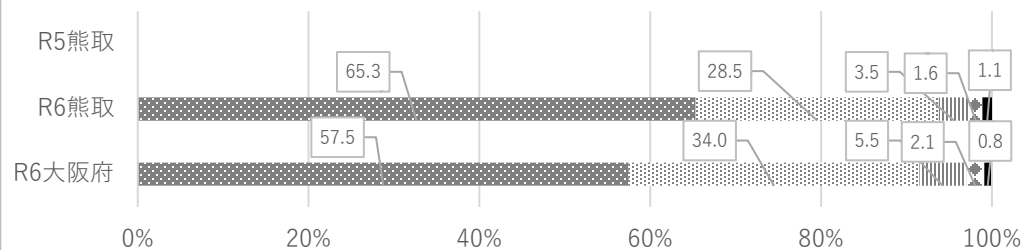
28-2 5年生までの学習の中でP C・タブレットなどのI C T機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（2）分からないことがあった時に、すぐ調べることができる

小学校



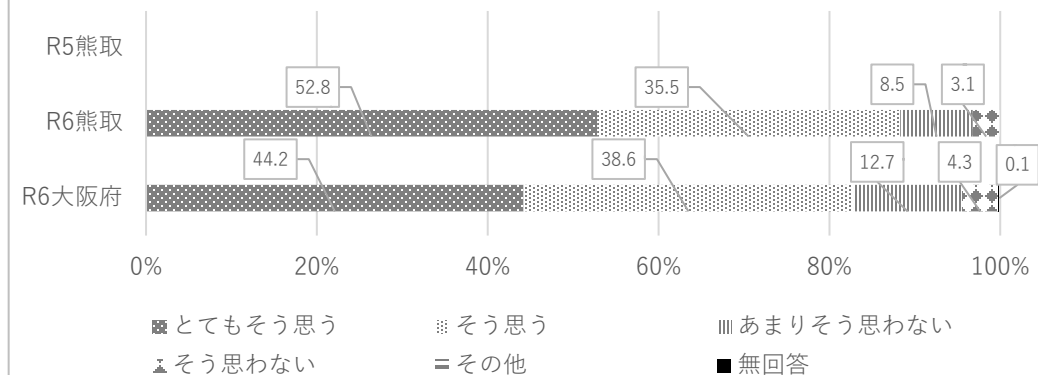
28-2 1、2年生のときの学習の中でP C・タブレットなどのI C T機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（2）分からないことがあった時に、すぐ調べることができる

中学校



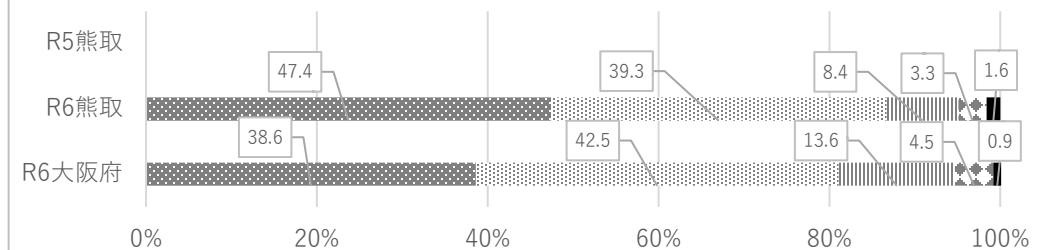
28-3 5年生までの学習の中でP C・タブレットなどのI C T機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（3）楽しみながら学習を進めることができる

小学校



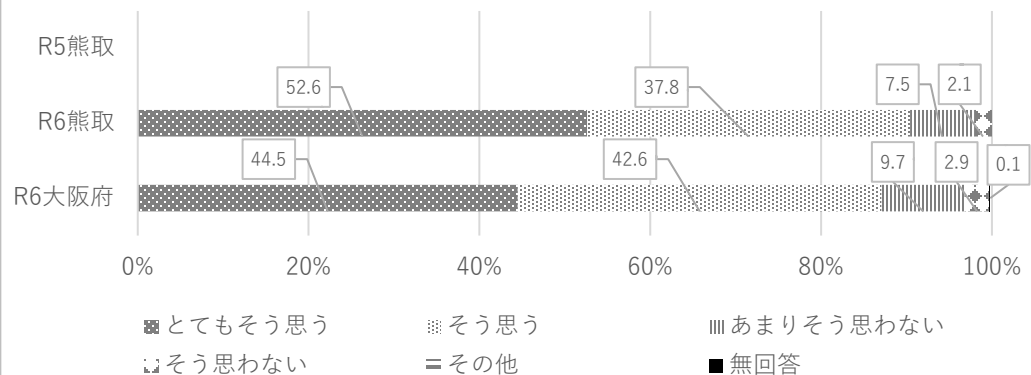
28-3 1、2年生のときの学習の中でP C・タブレットなどのI C T機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（3）楽しみながら学習を進めることができる

中学校



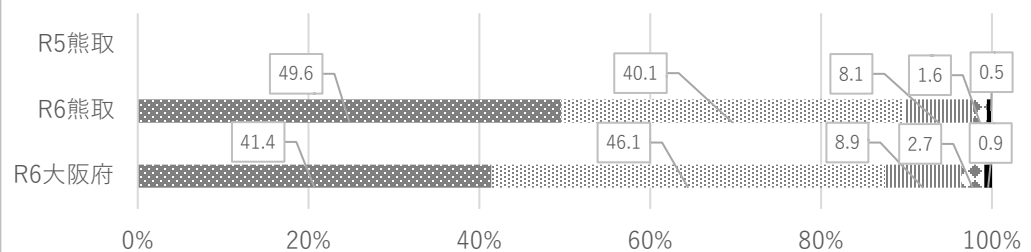
28-4 5年生までの学習の中でP C・タブレットなどのI C T機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（4）画像や動画、音楽等を活用することで、学習内容がよく分かる

小学校



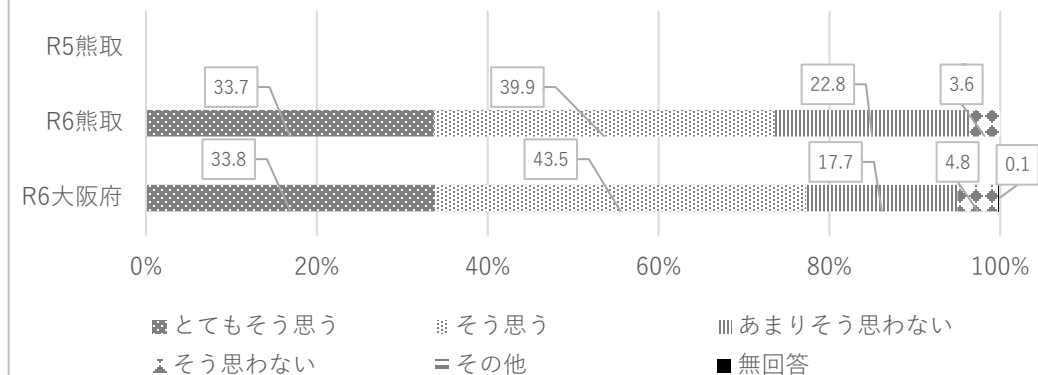
28-4 1、2年生のときの学習の中でP C・タブレットなどのI C T機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（4）画像や動画、音楽等を活用することで、学習内容がよく分かる

中学校



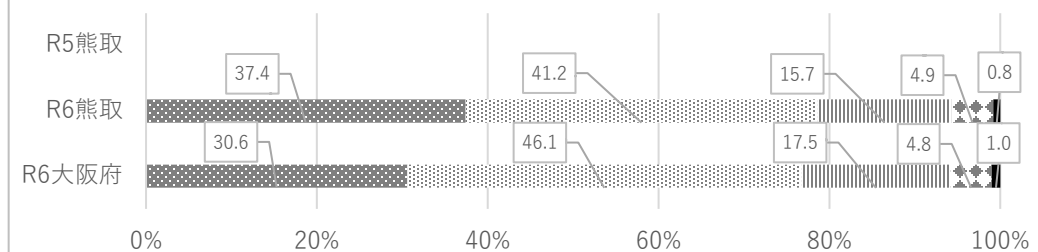
28-5 5年生までの学習の中でP C・タブレットなどのI C T機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（5）自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる

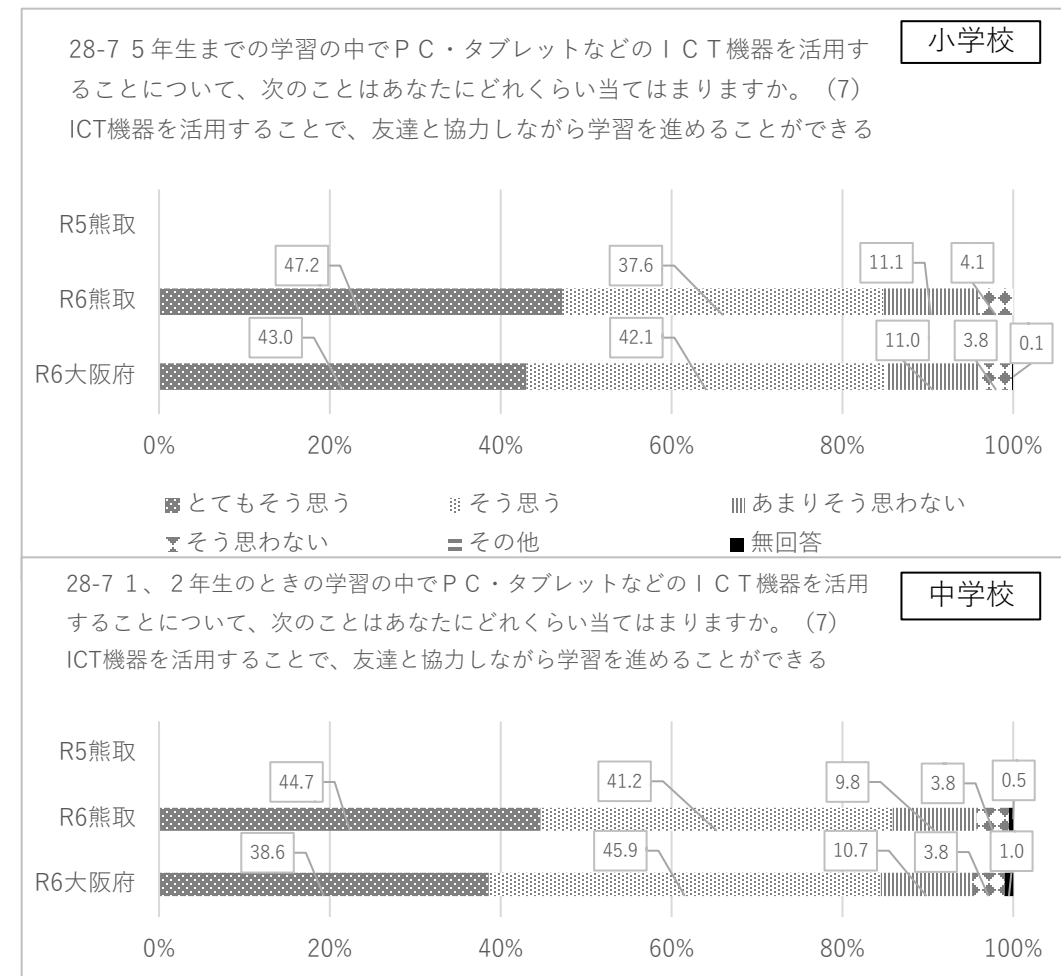
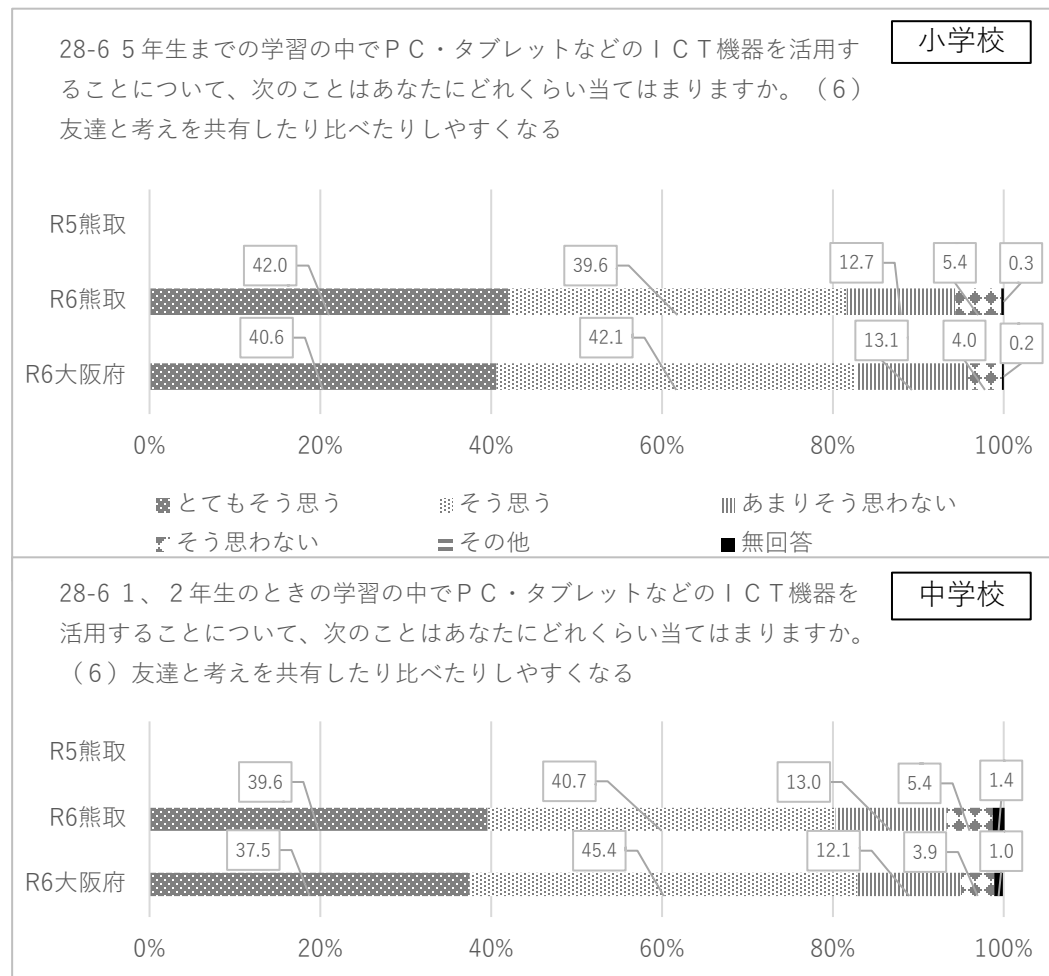
小学校



28-5 1、2年生のときの学習の中でP C・タブレットなどのI C T機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（5）自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる

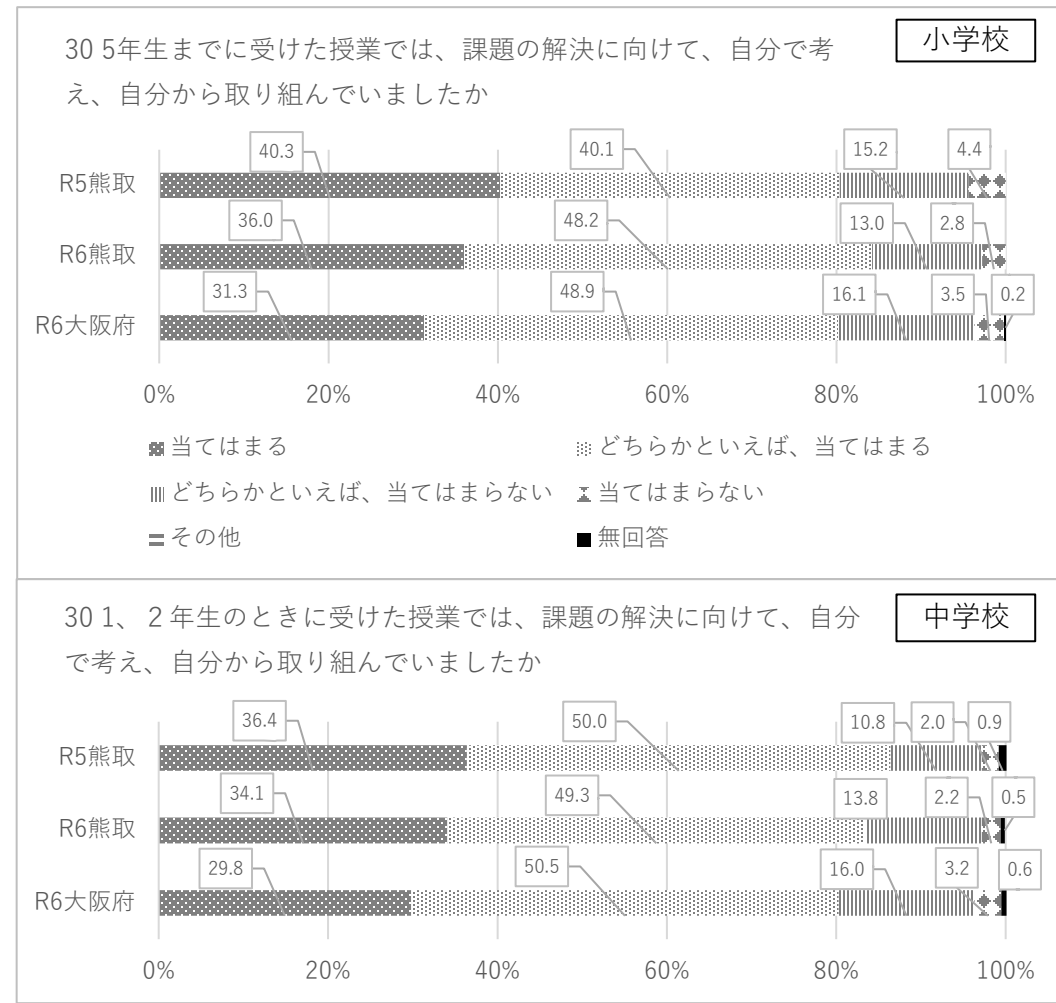
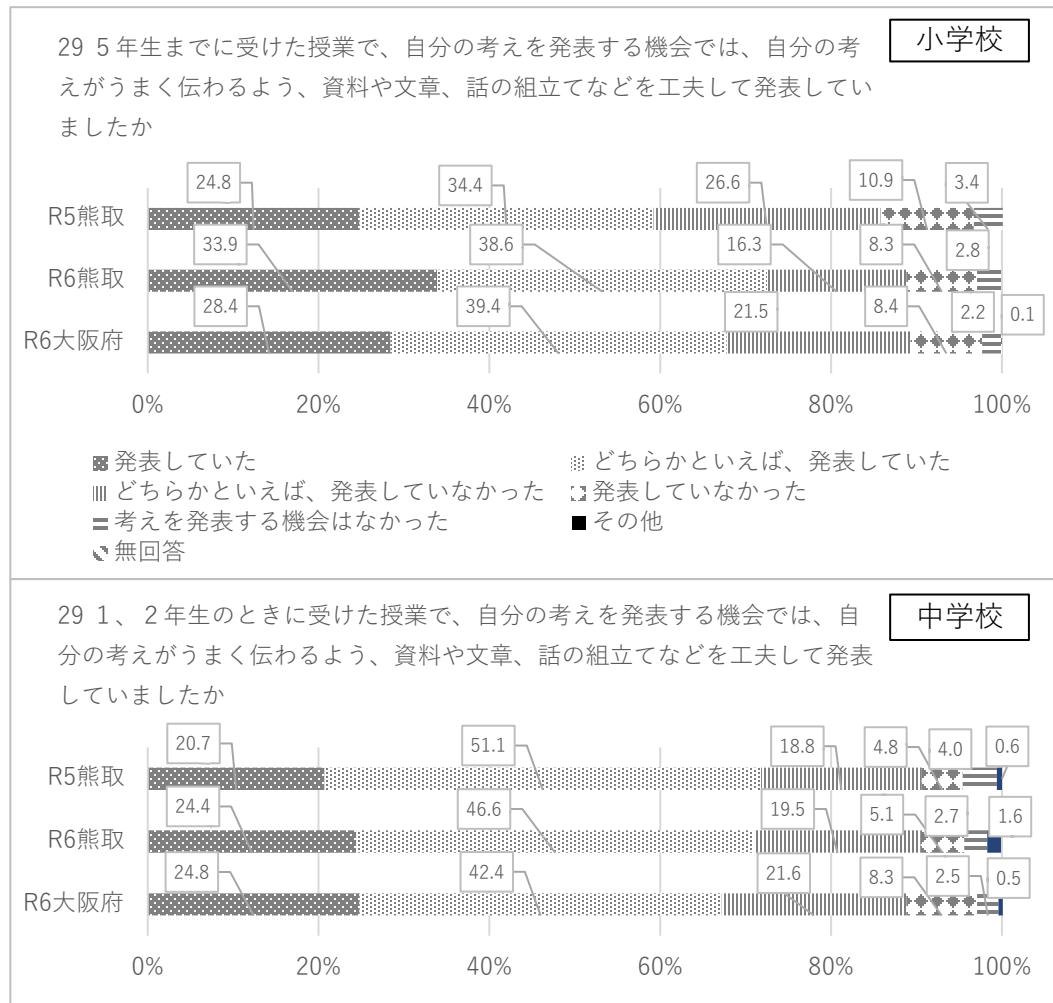
中学校

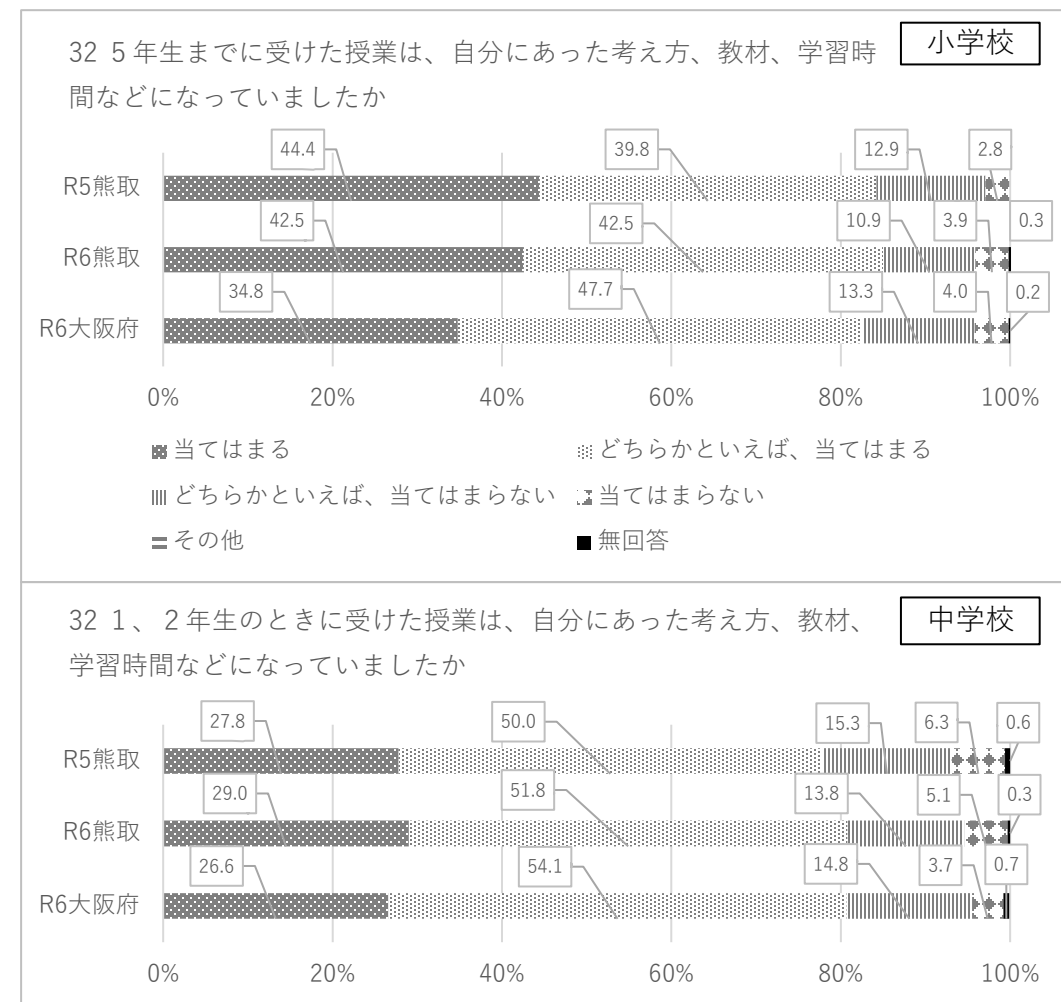
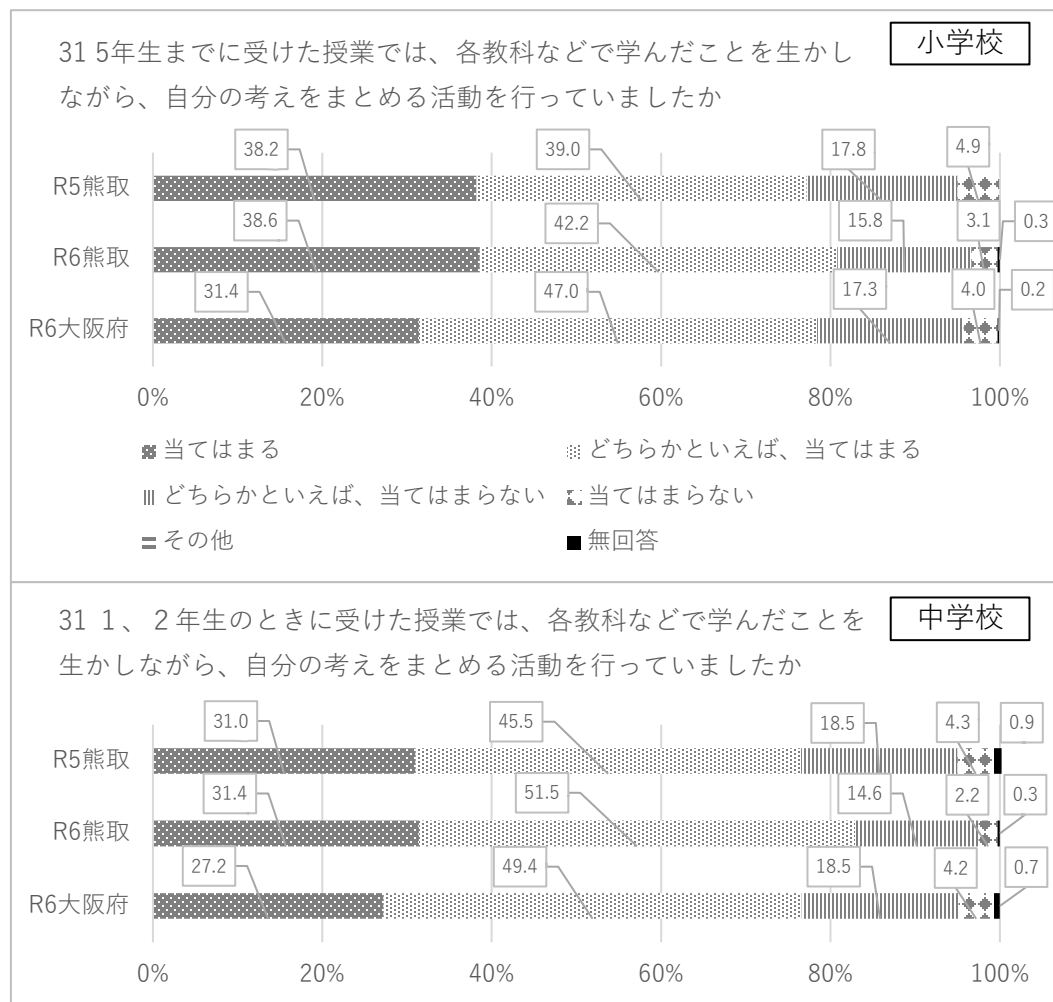


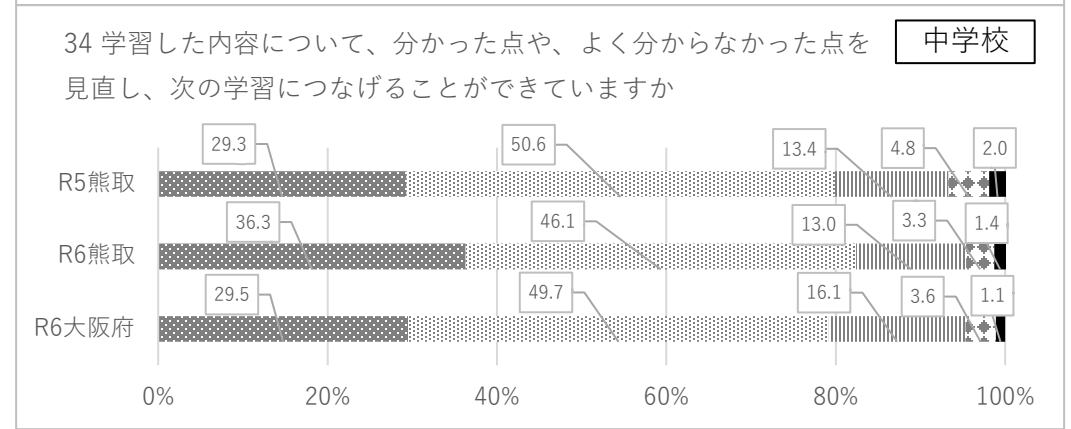
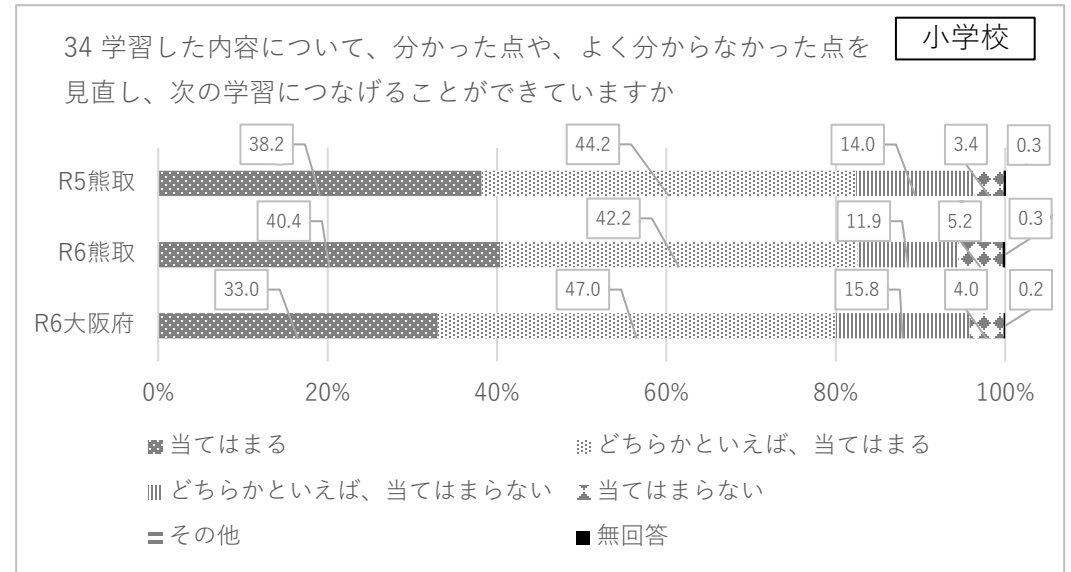
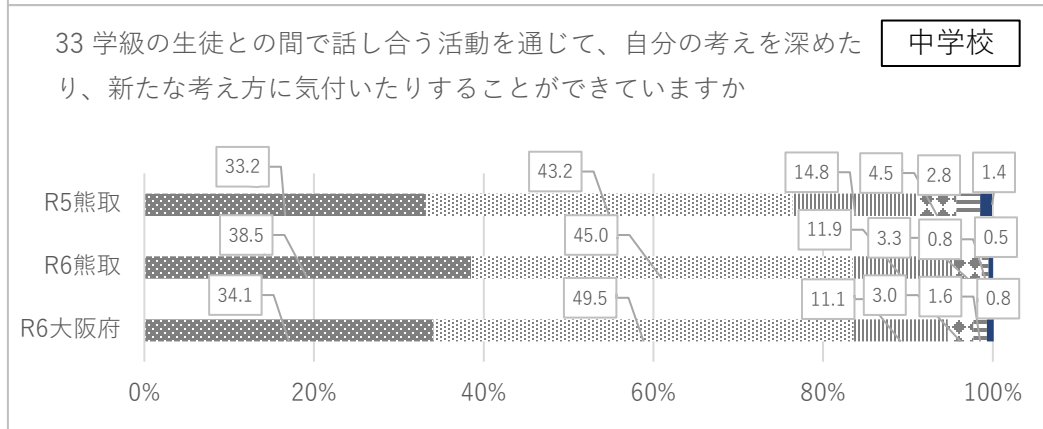
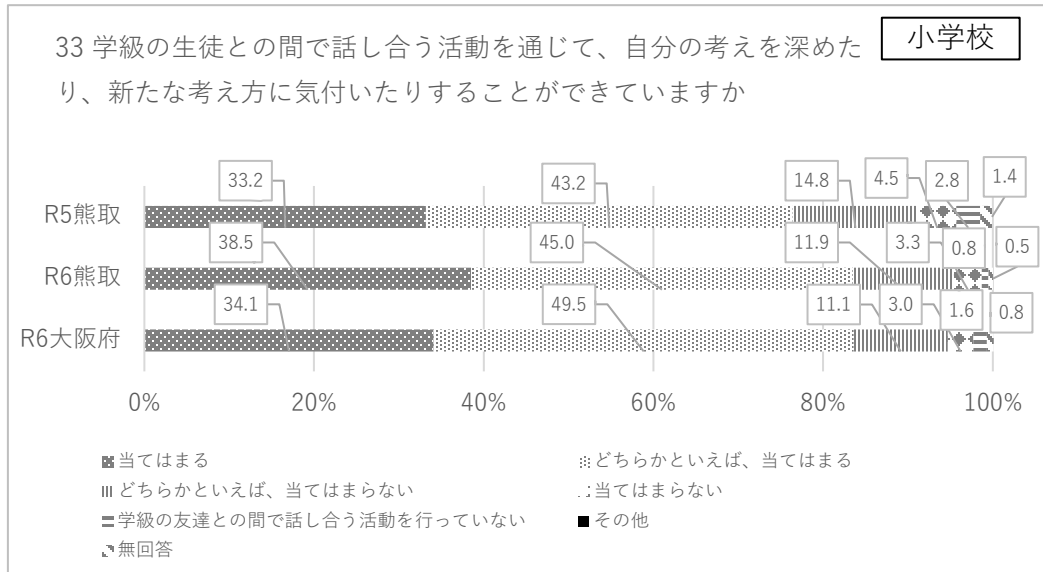


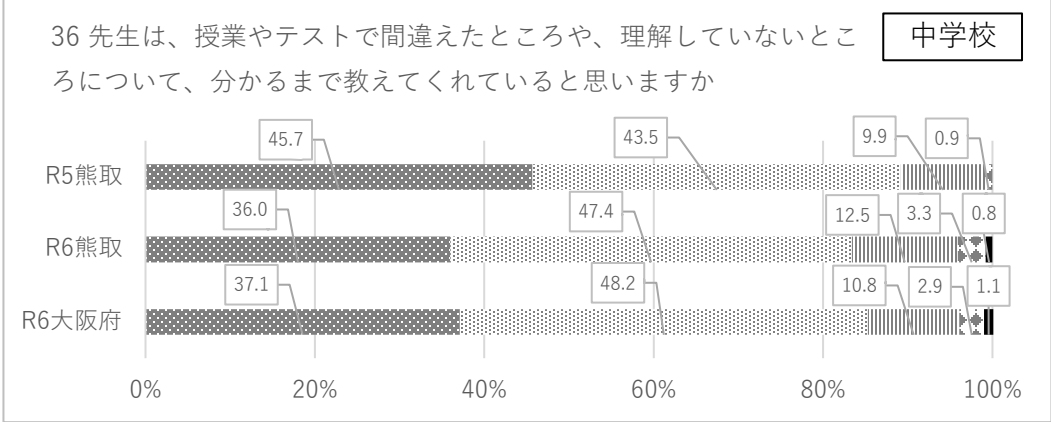
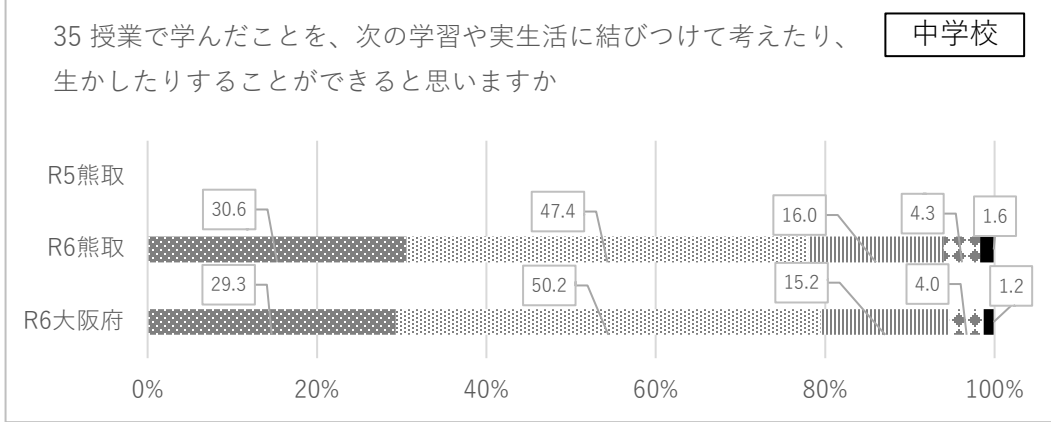
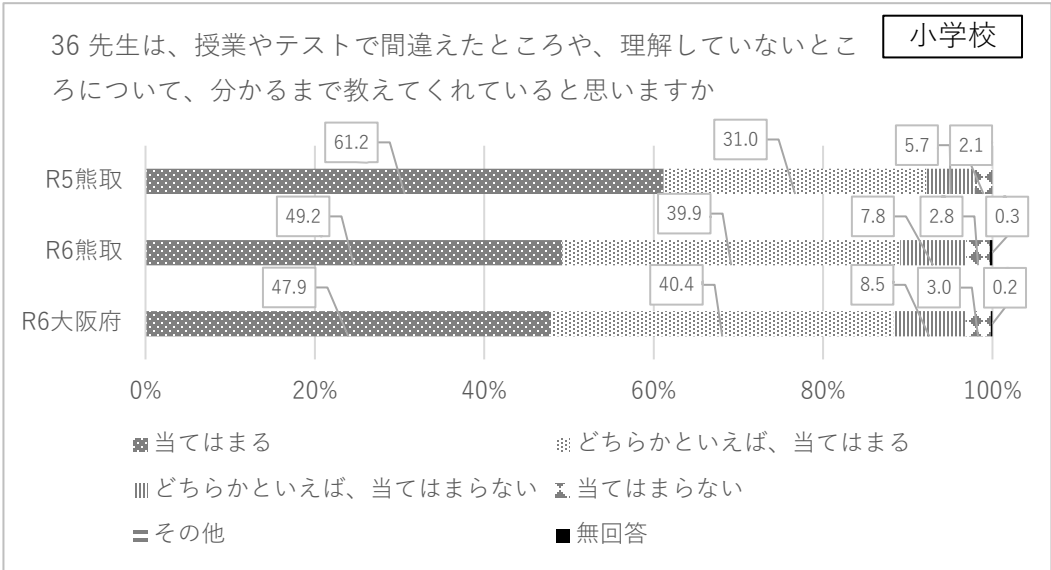
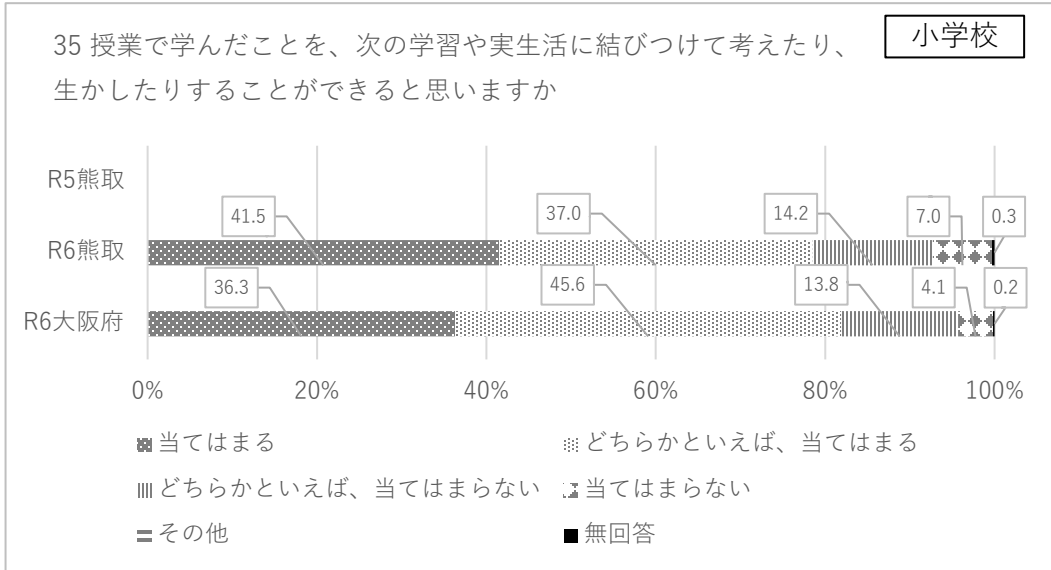
## ⑤ I C Tを活用した学習状況 小学校27～28-7・中学校27～28-7

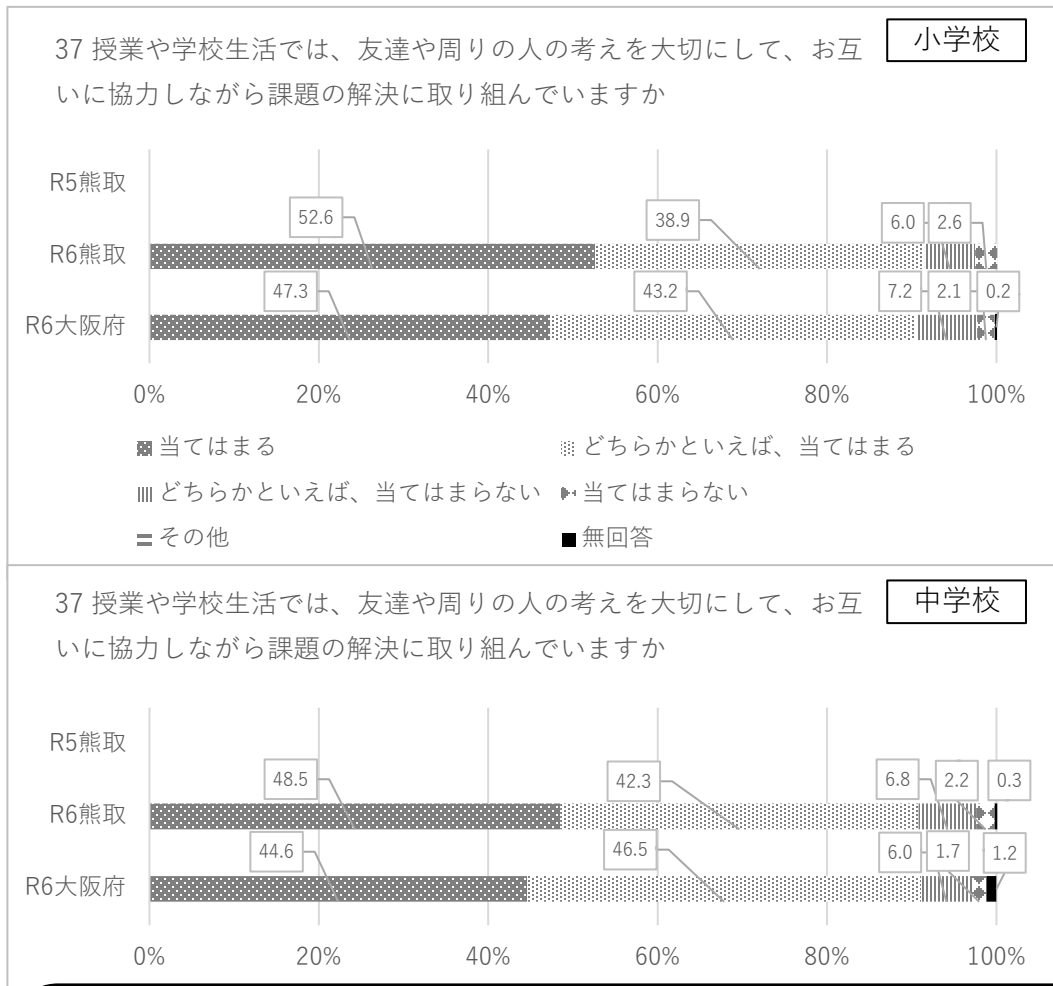
P C・タブレットなどのI C T機器の使用頻度は、中学校で昨年度より高くなったものの、小中学校ともに大阪府と比べると低い。一方で、I C T機器を活用することで「楽しみながら学習を進めることができる」「学習内容がよく分かる」「友達と協力しながら学習を進めることができる」等の設問において大阪府に比べ本町の肯定的回答の割合が高いことから、今後I C T機器を日常的かつ効果的に活用することで、子どもたちの資質・能力の向上を図りたい。











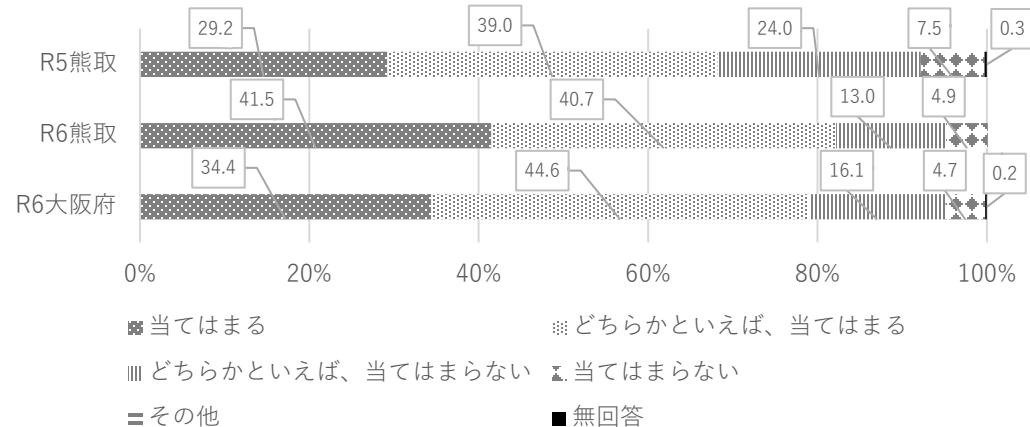
⑥主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況 小学校29～37・中学校29～37

「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の質問では、小中学校ともに昨年度の結果を上回っていた。大阪府の結果と比べても、中学校ではほとんど変わらない結果であったが、小学校では大きく上回った。「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問でも、昨年度及び今年度の大阪府の結果を大きく上回り、子どもたちの話し合う活動が充実していたことが伺える。今後も引き続き、発表する機会や話し合う活動を積極的に取り入れながら、子どもたちの考えを深めていきたい。



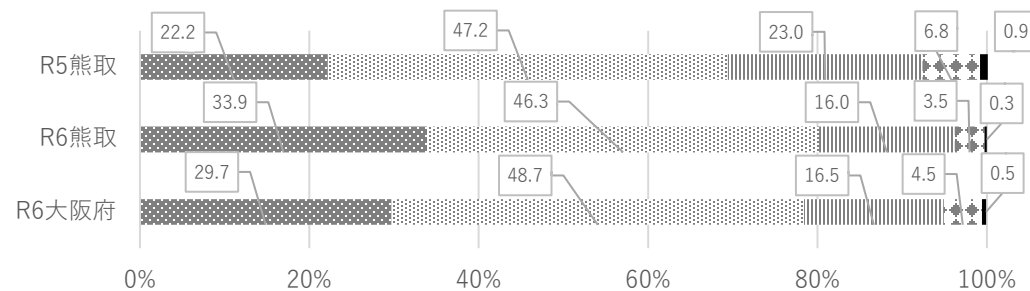
38 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

小学校



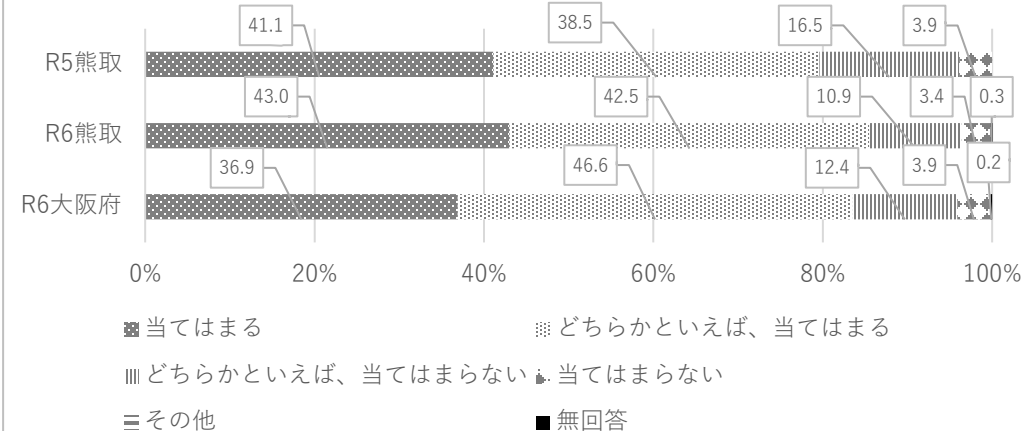
38 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

中学校



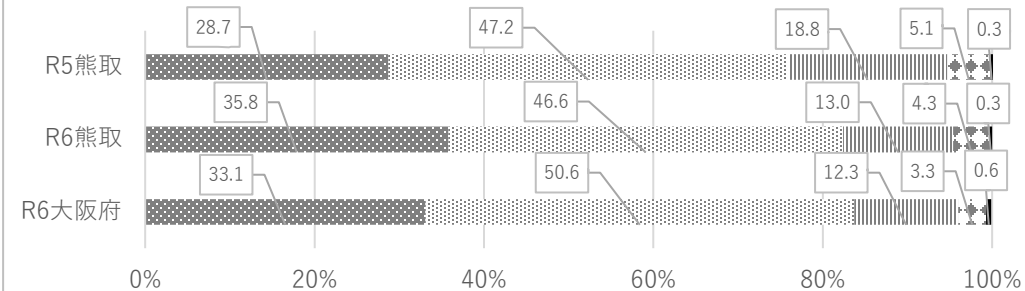
39 あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか

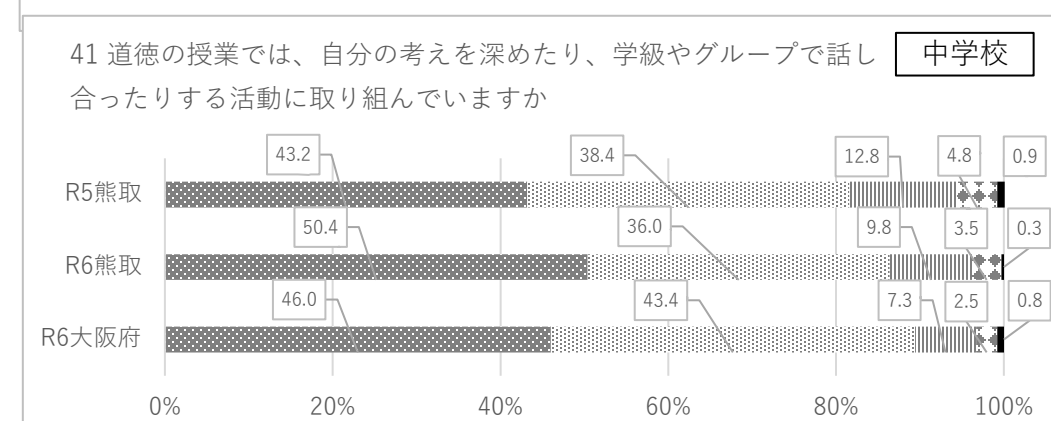
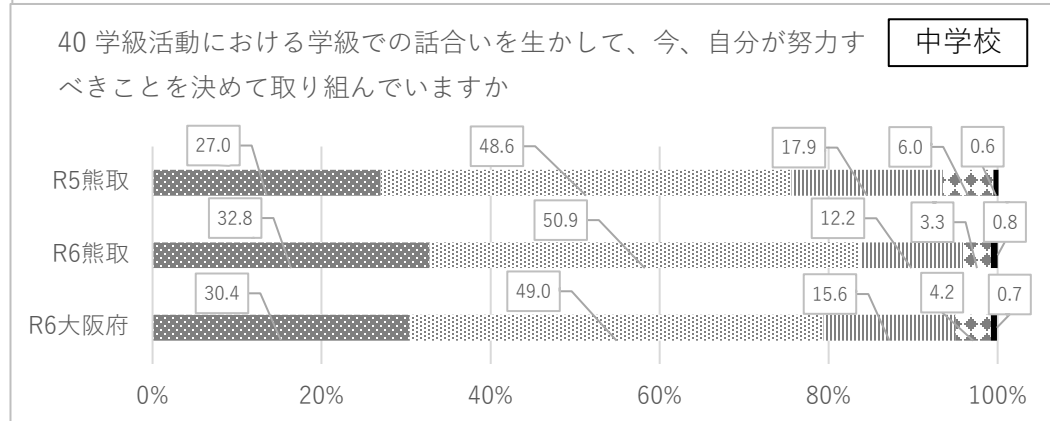
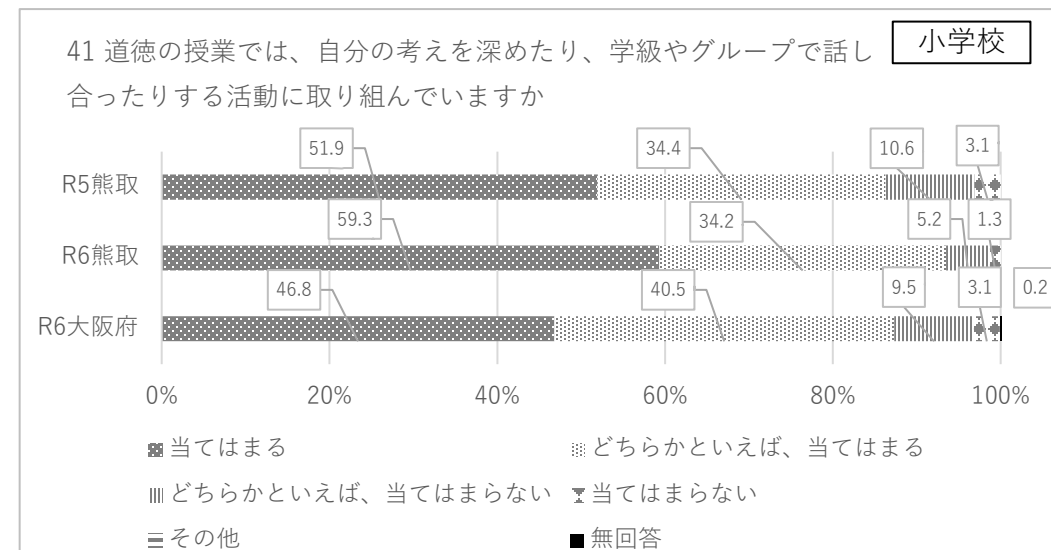
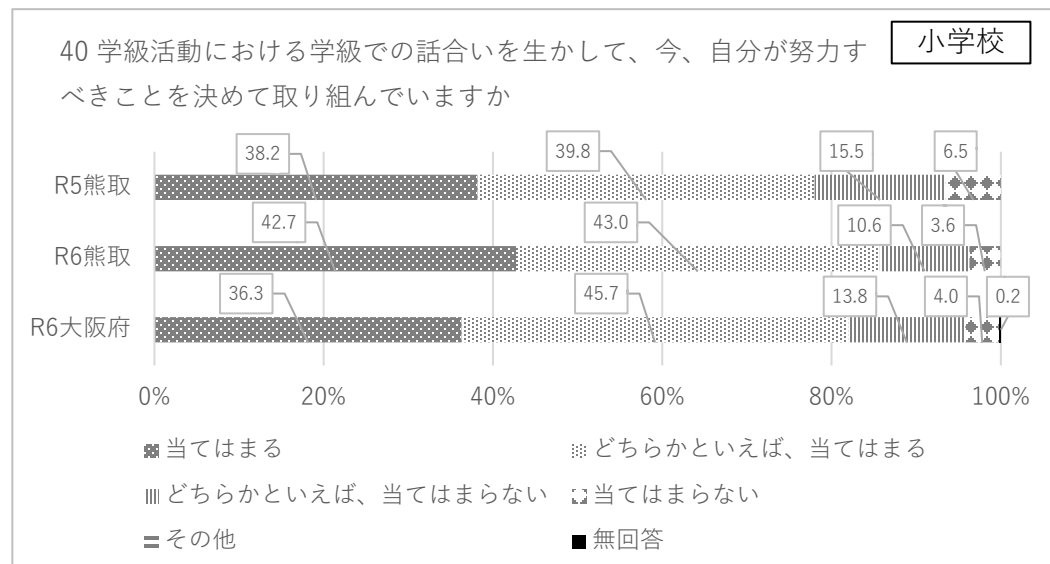
小学校



39 あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか

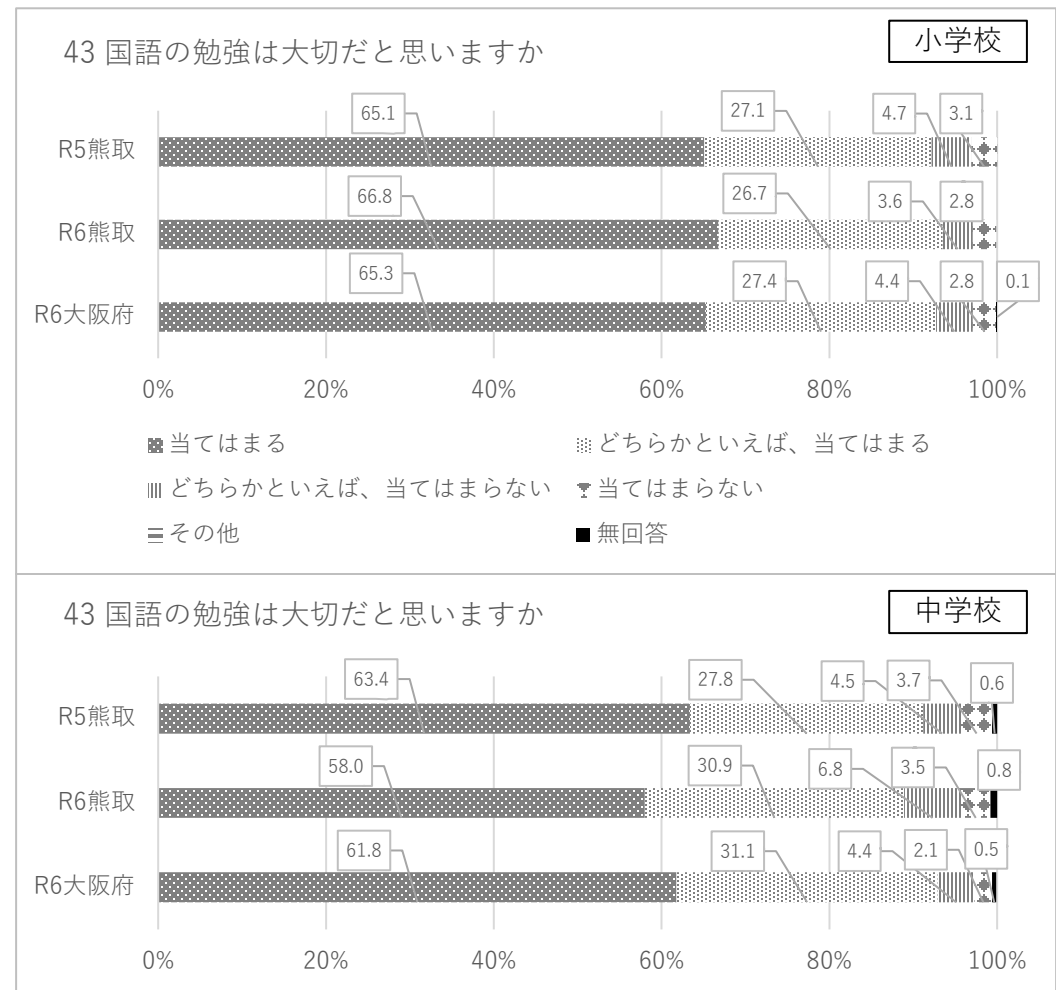
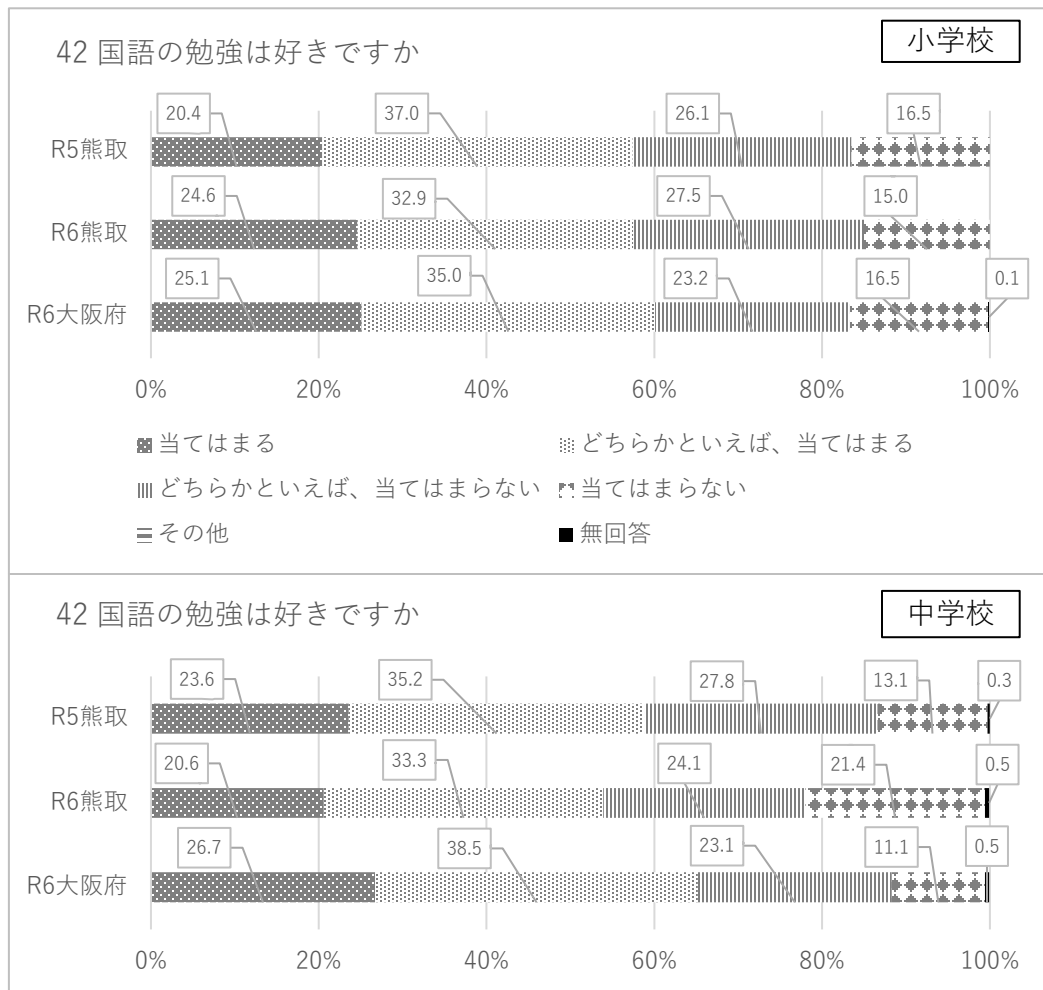
中学校

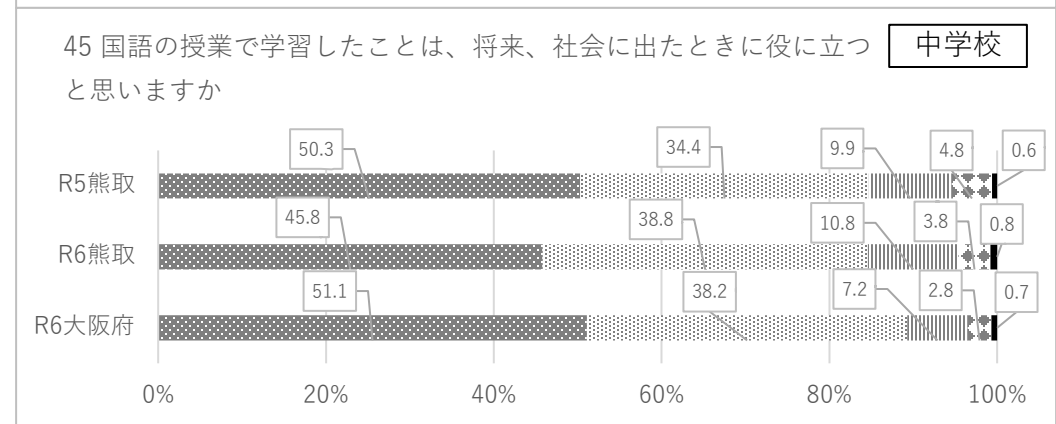
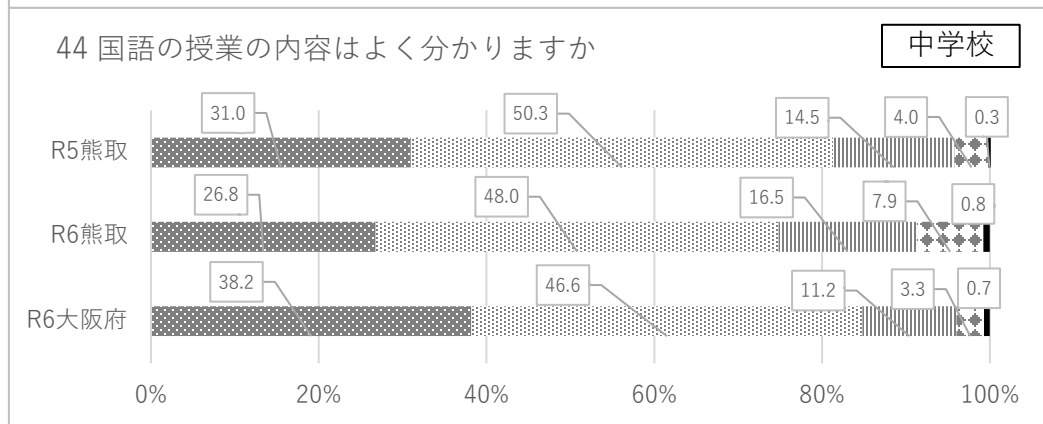
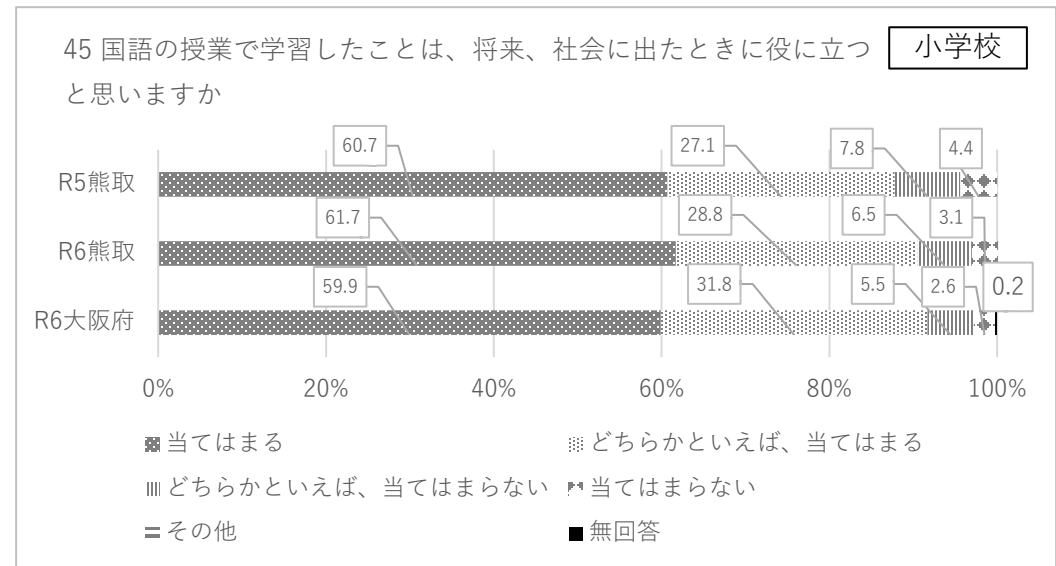
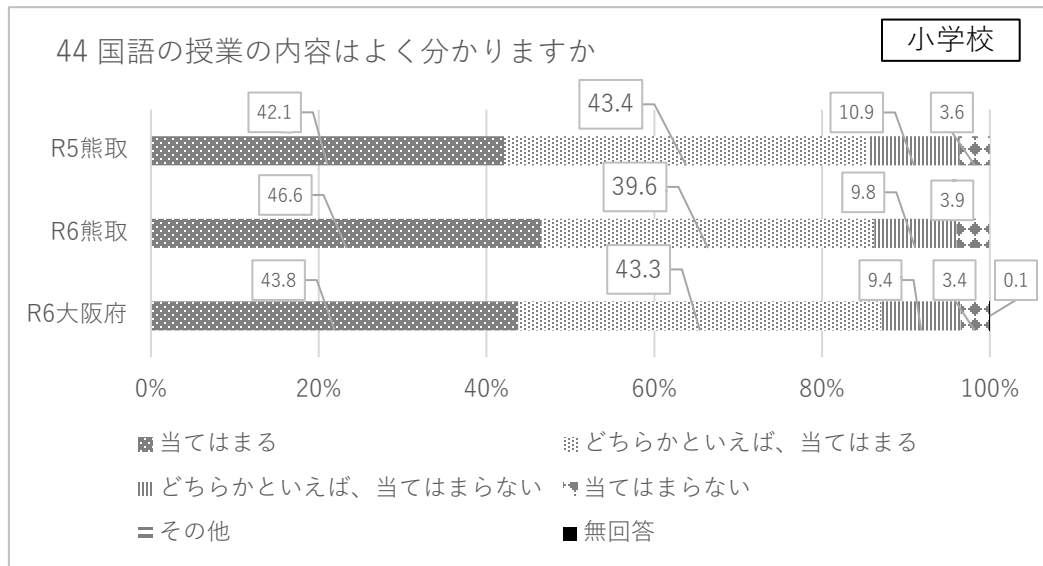




⑦総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳 小学校 38～41・中学校 38～41

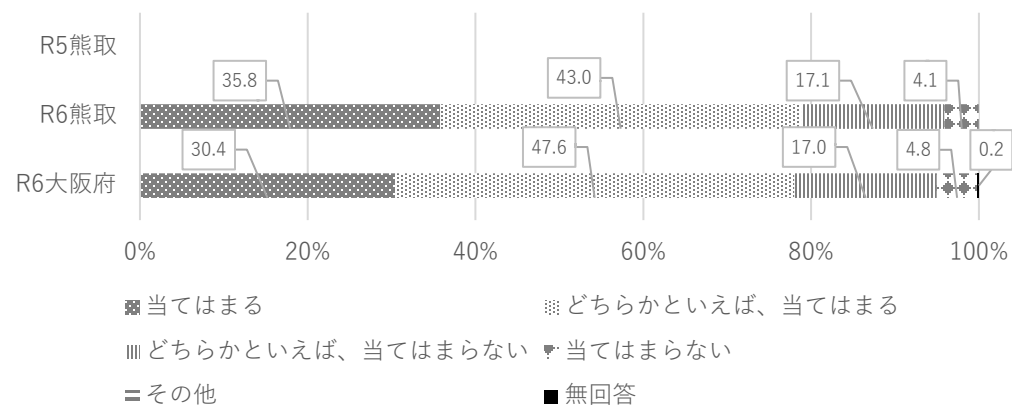
「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の質問では、小中学校ともに昨年度の結果を12ポイント近く上回り、大阪府の結果と比較しても非常に高い結果であった。「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の質問でも、昨年度の結果と今年度の大阪府の結果を大きく上回り、同様の結果であった。「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」の効果が、総合的な学習の時間や、道徳科の授業で見られた。





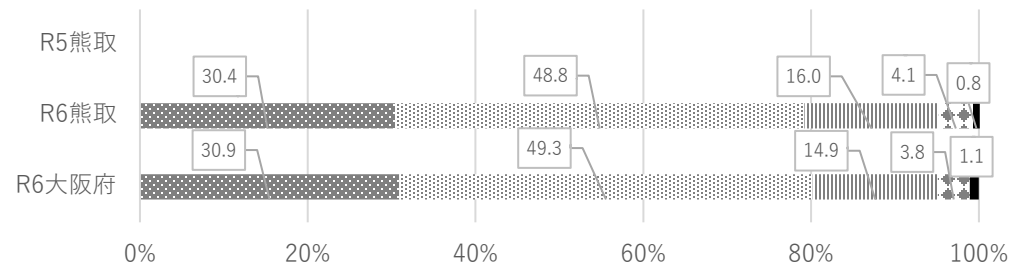
46 国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理していますか

小学校



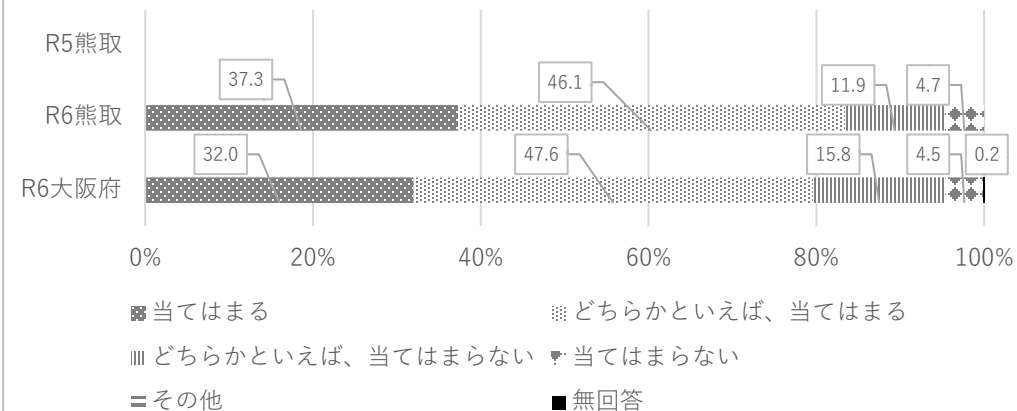
46 国語の授業で話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解していますか

中学校



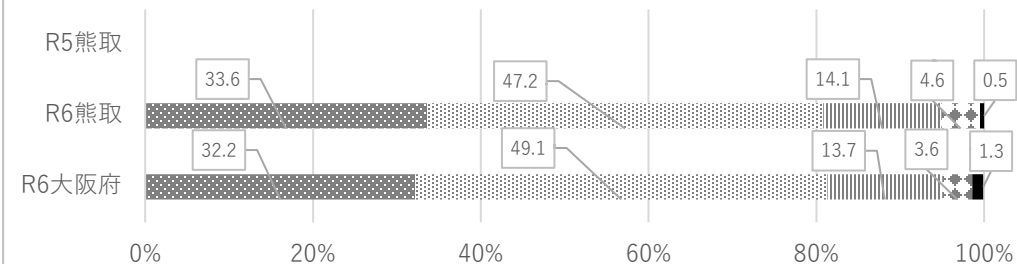
47 国語の授業で、目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えていますか

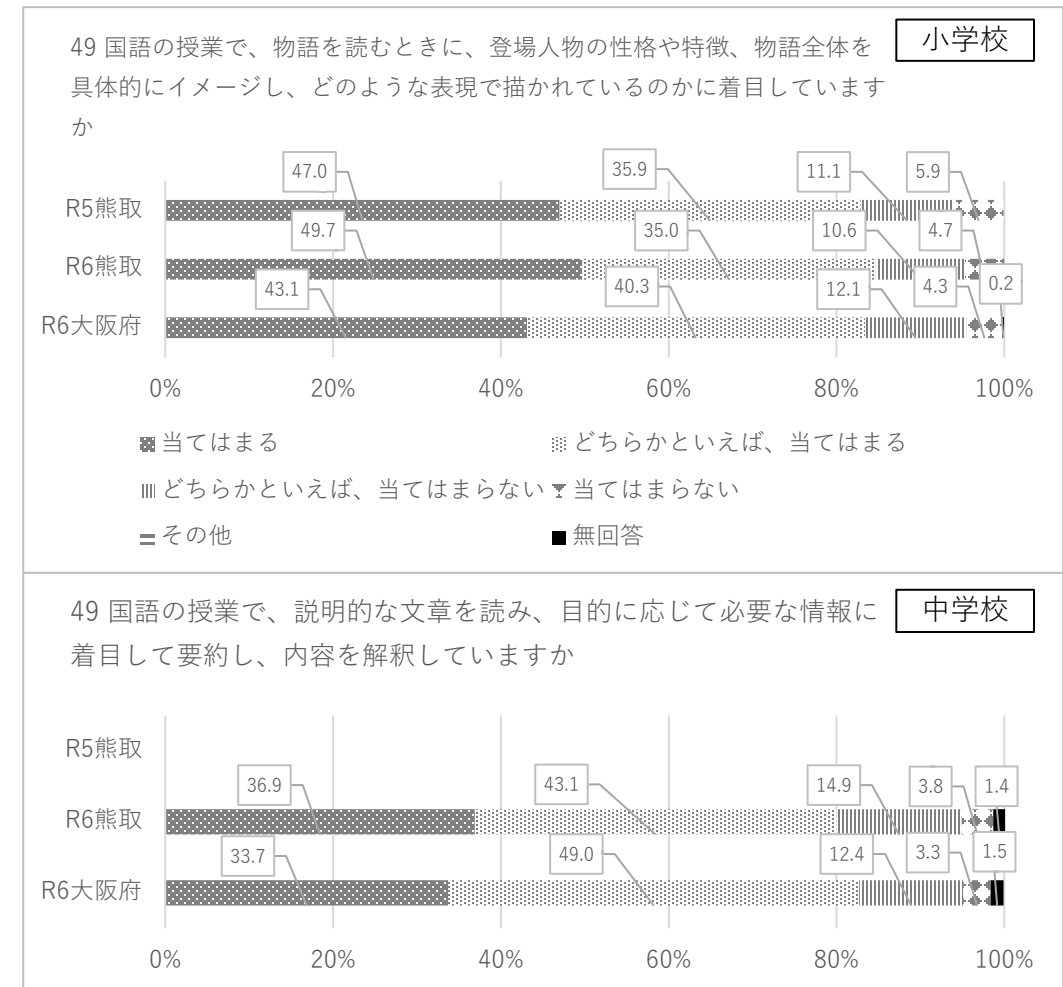
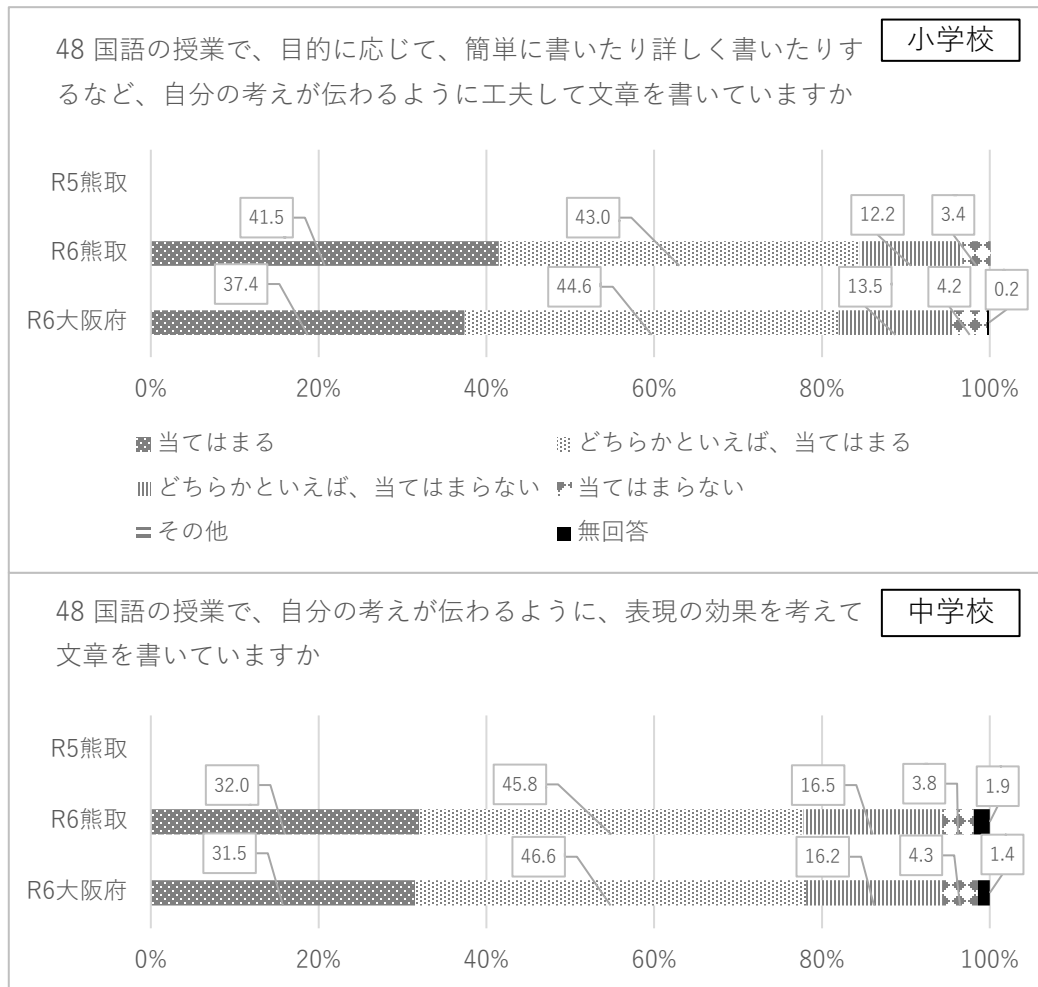
小学校

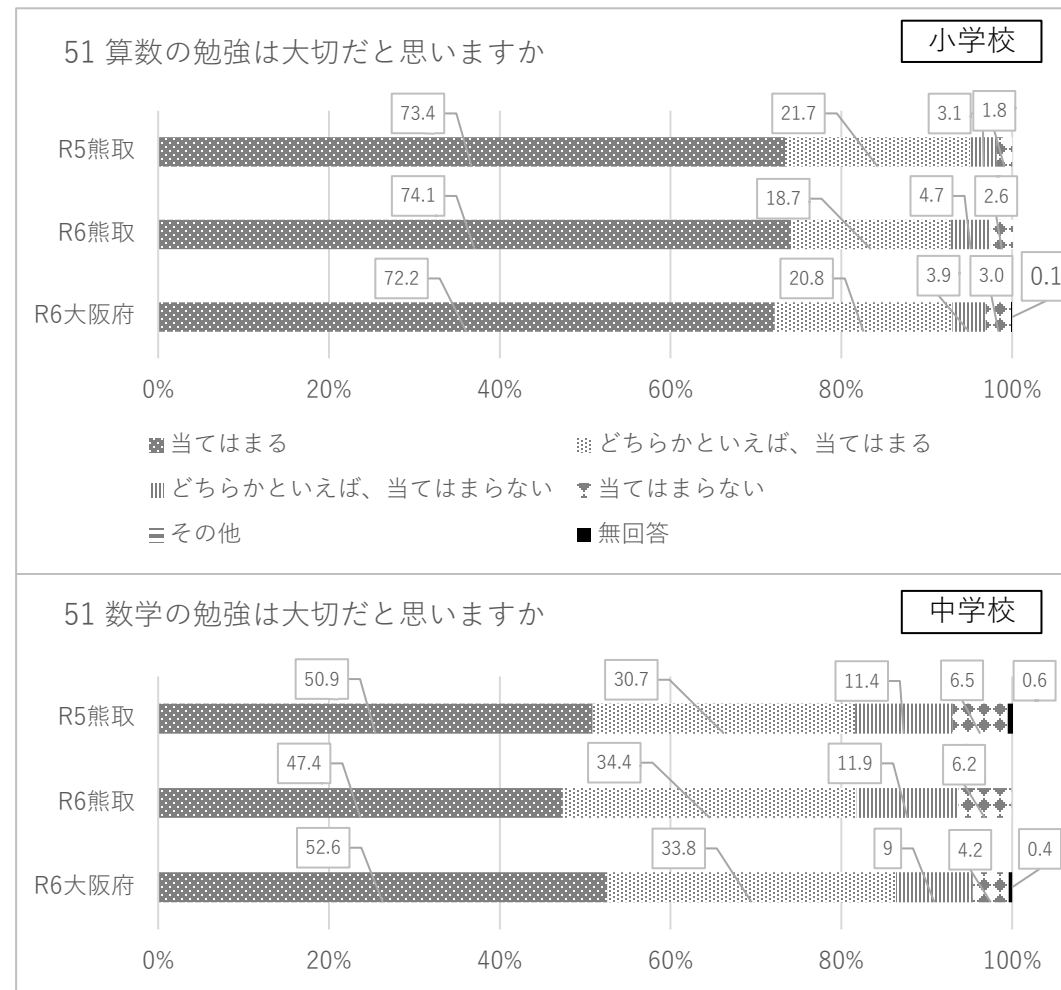
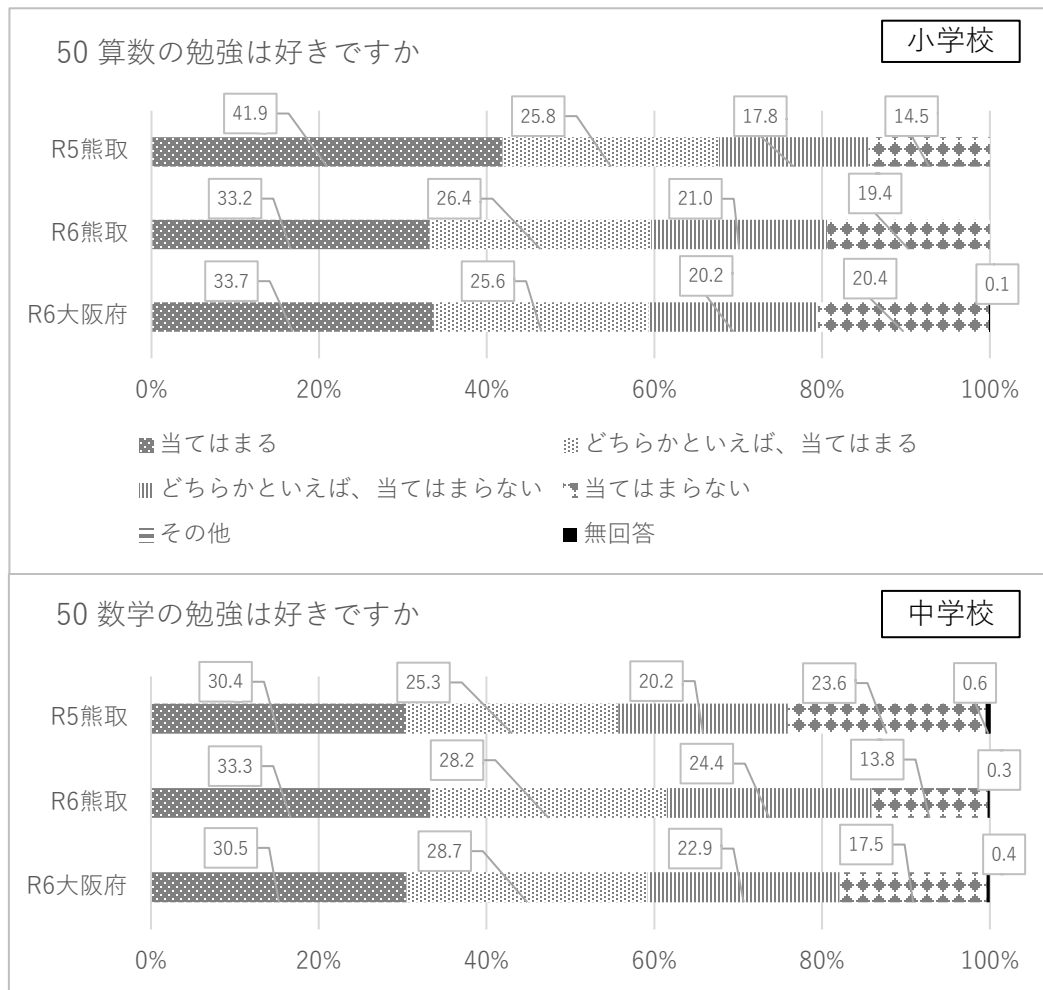


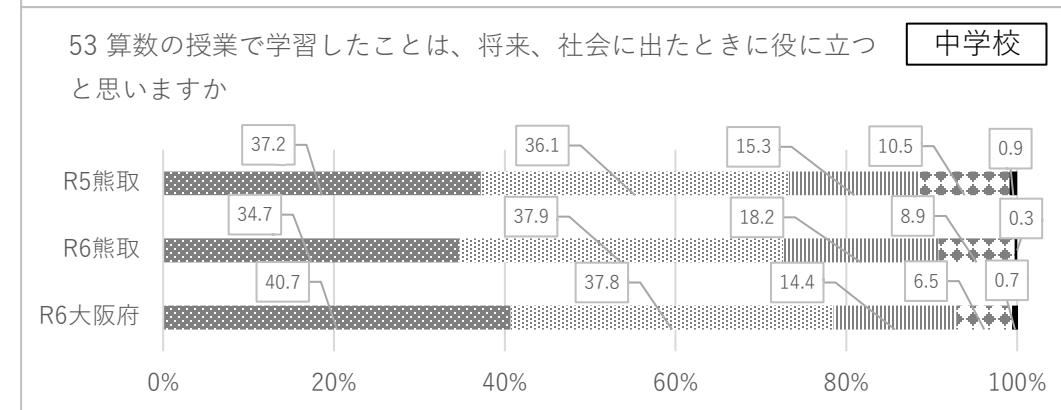
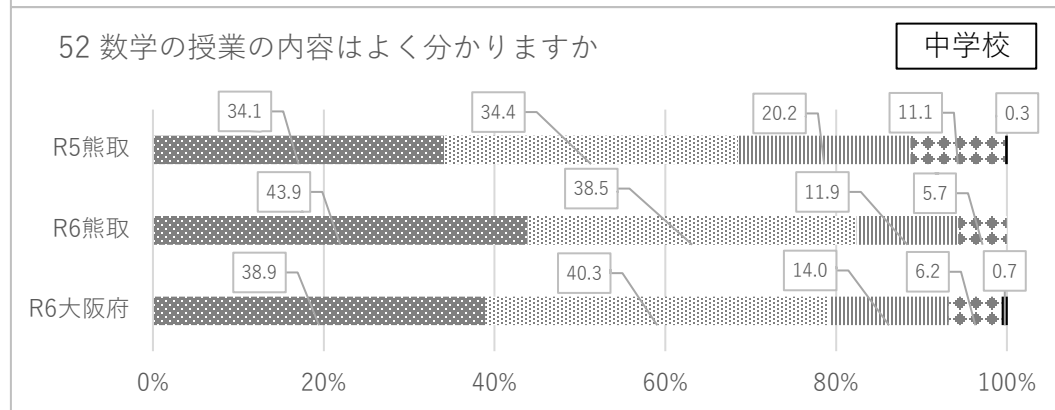
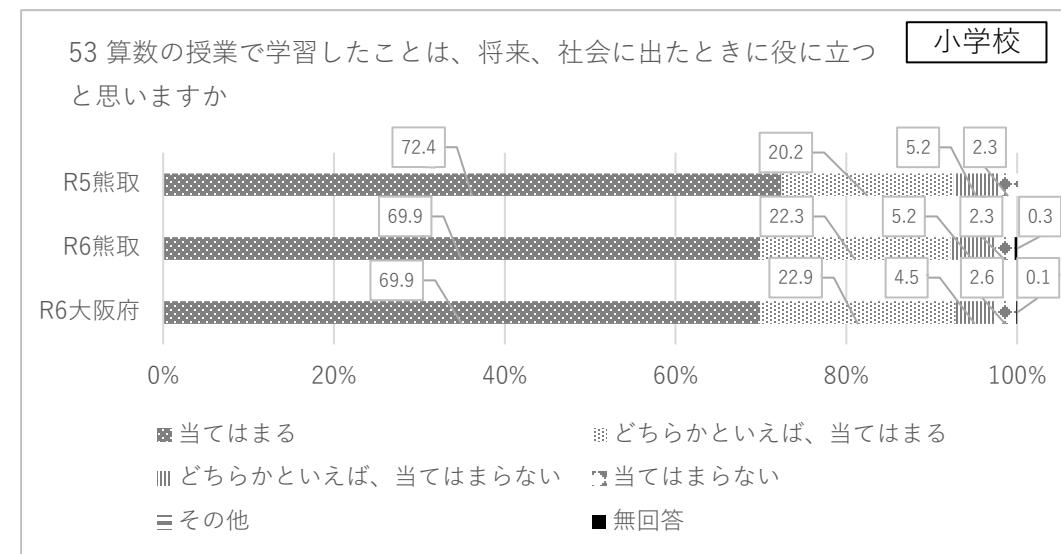
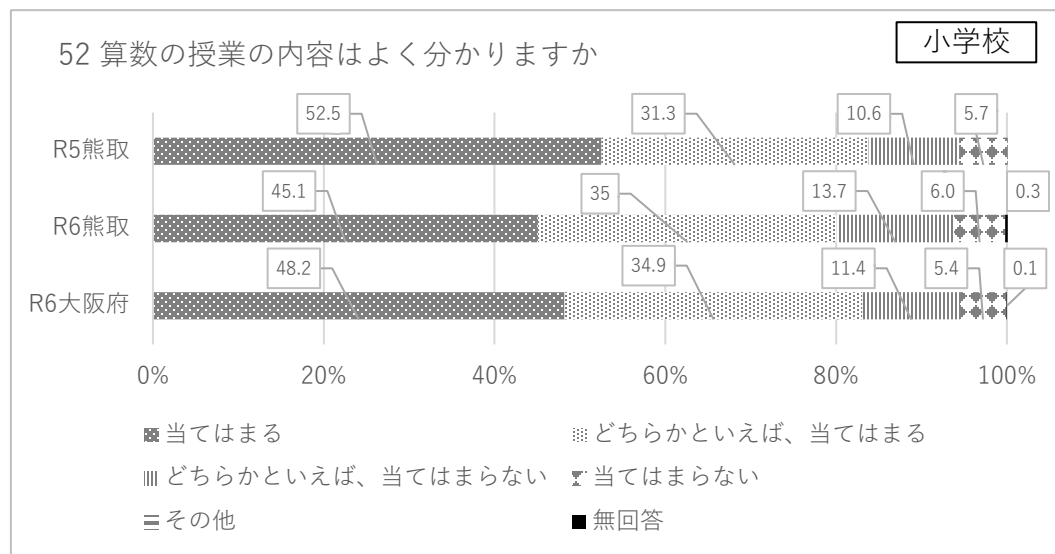
47 国語の授業で、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめていますか

中学校

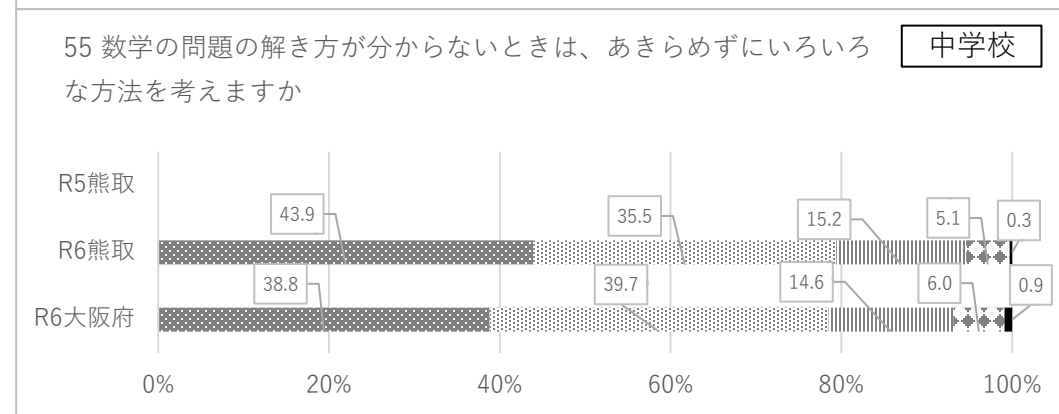
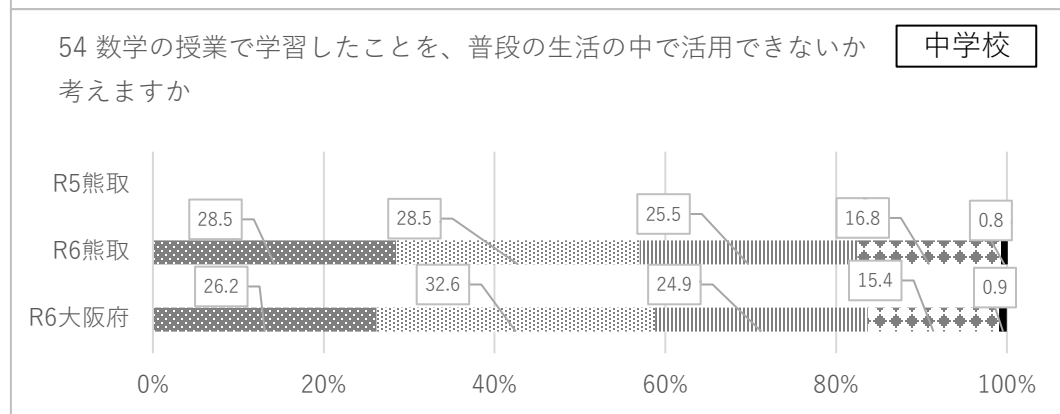
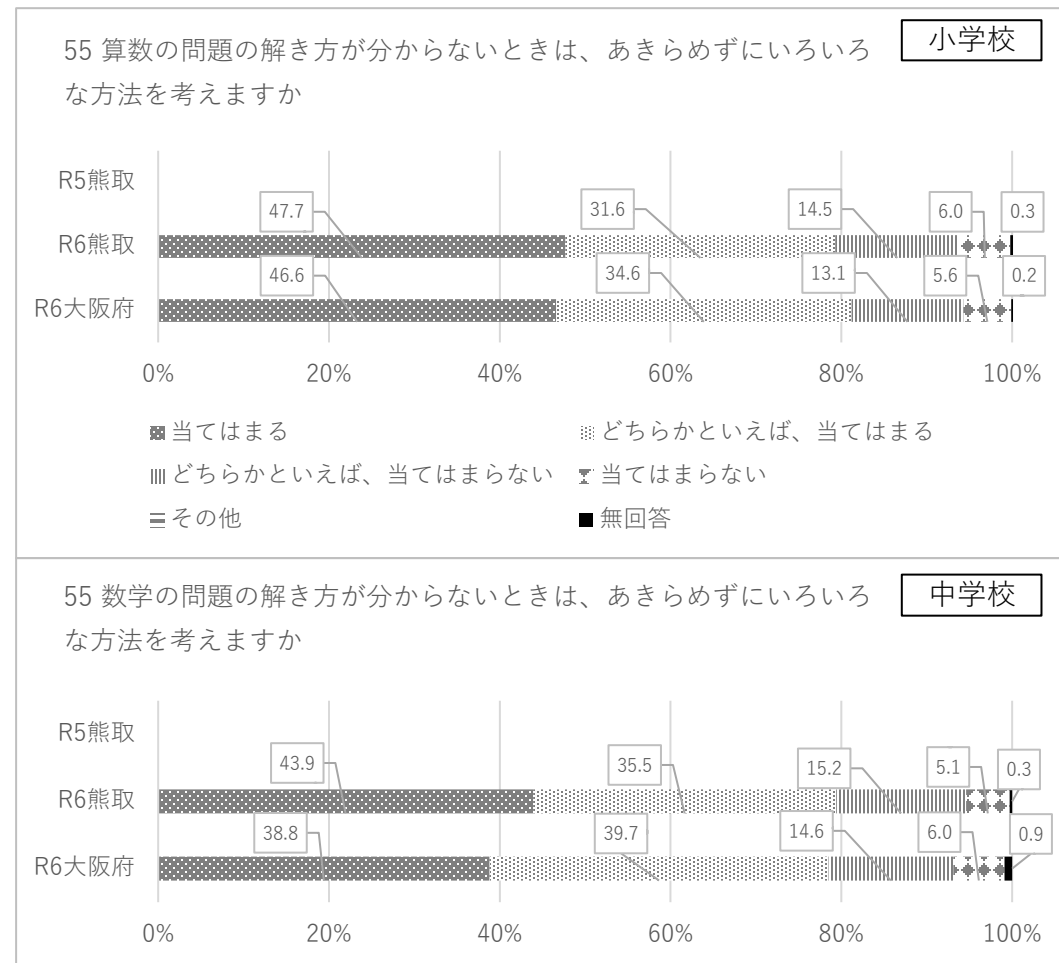
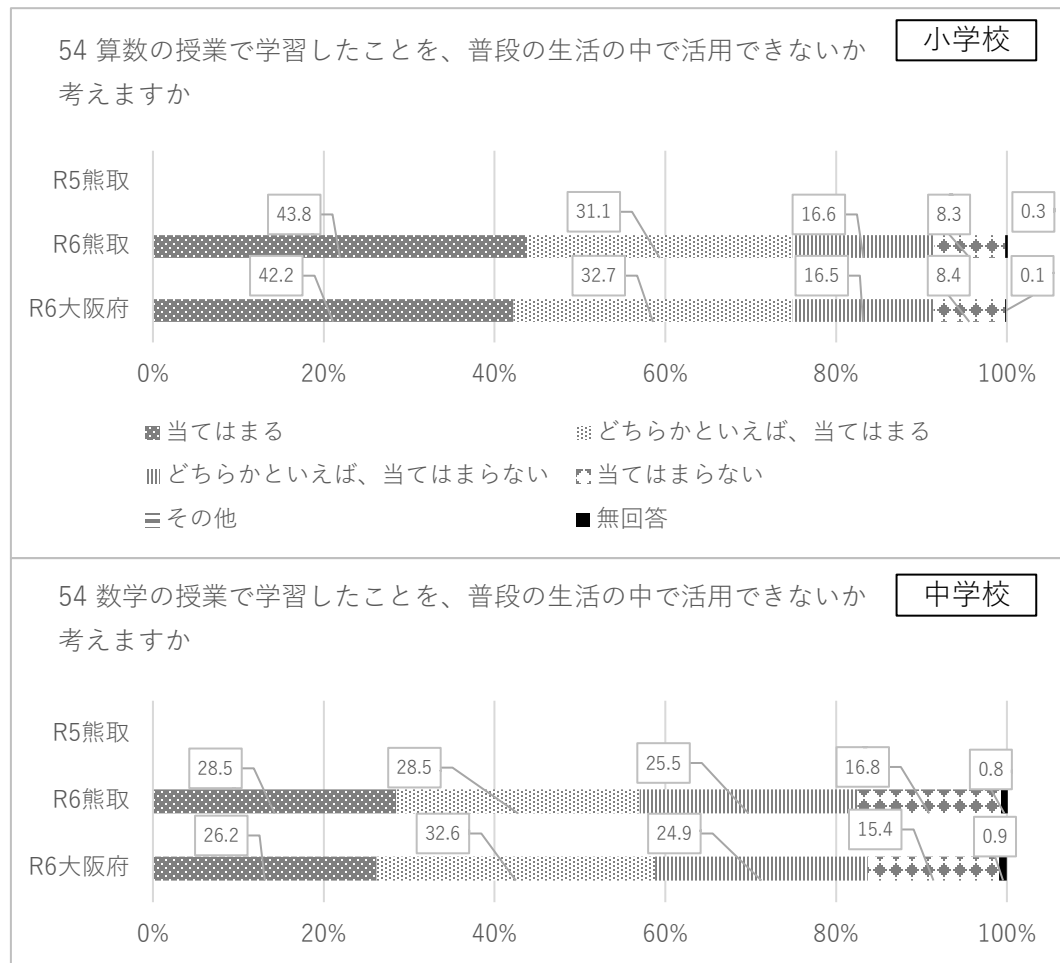


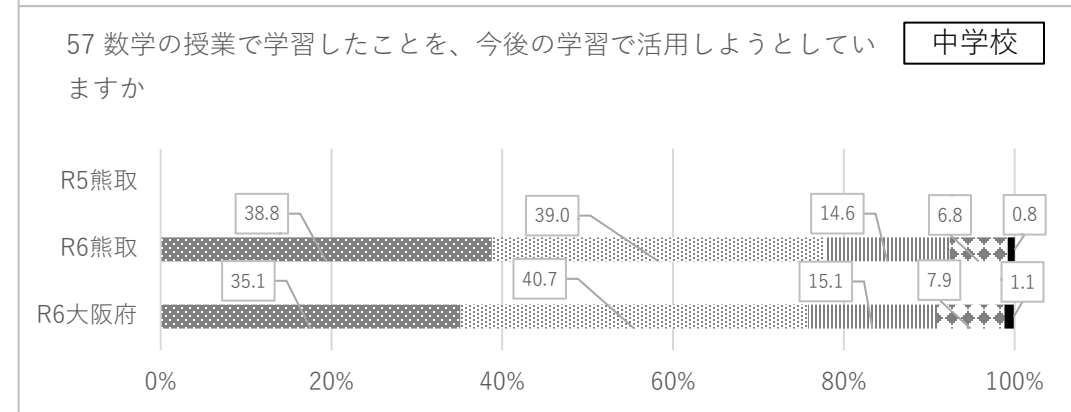
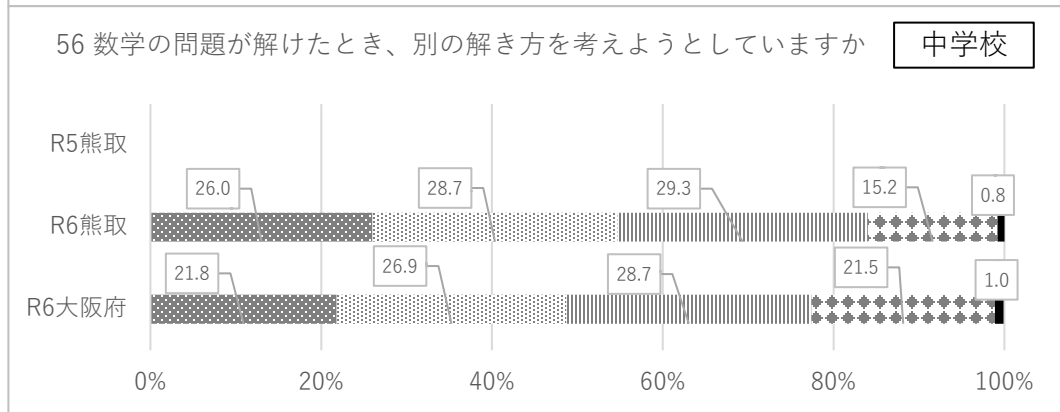
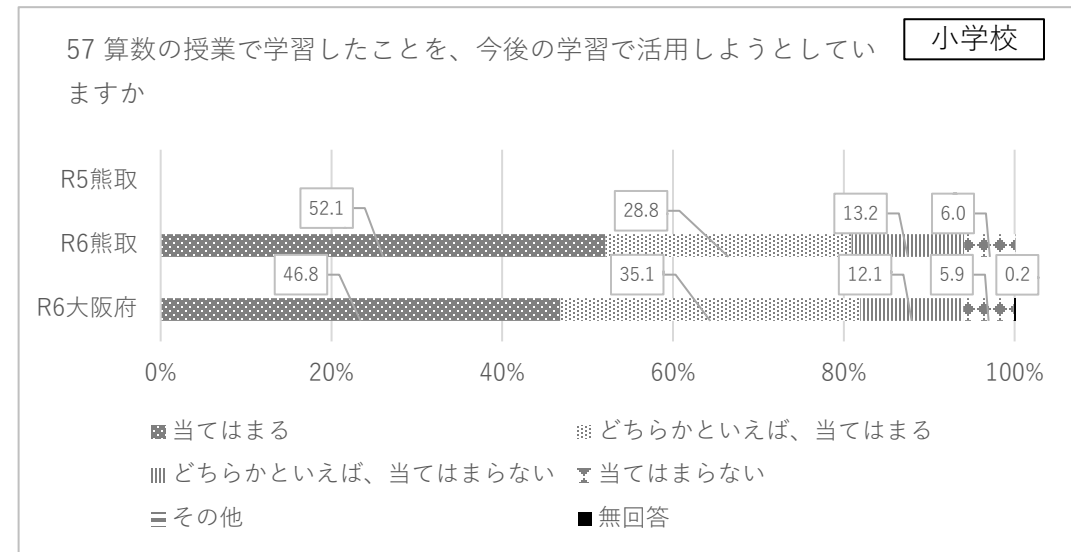
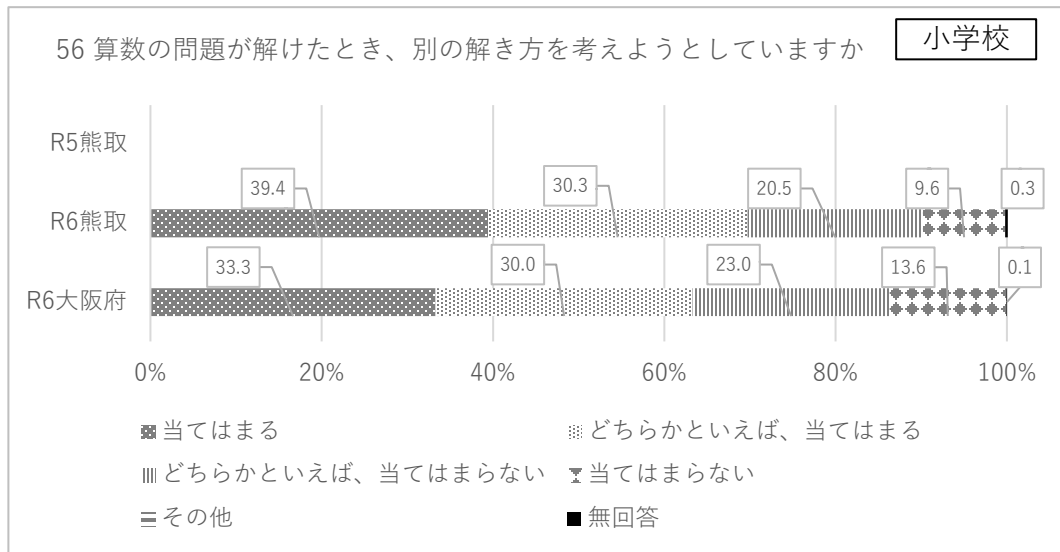


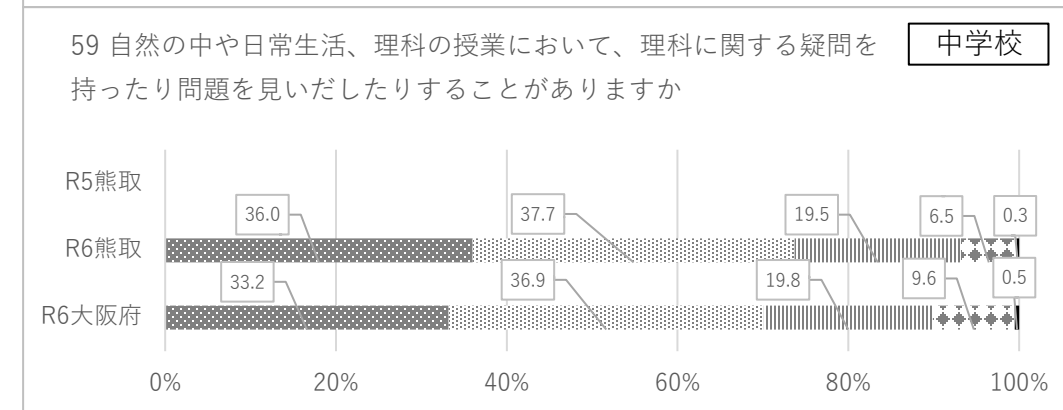
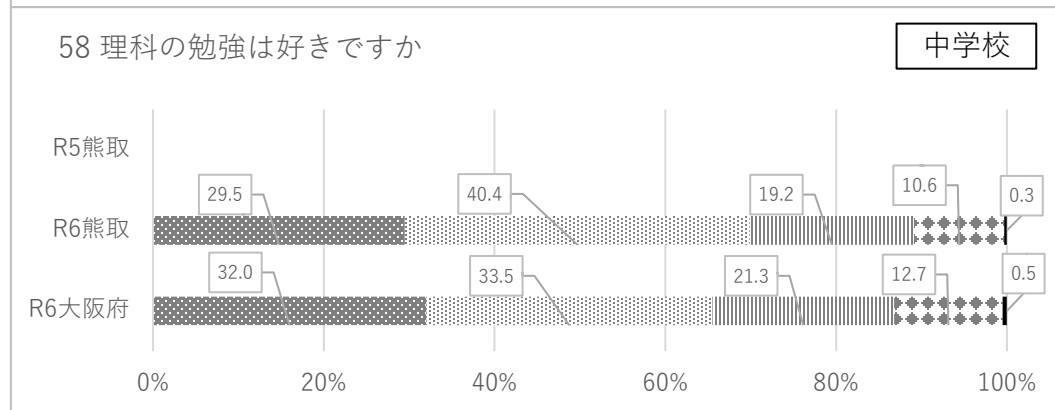
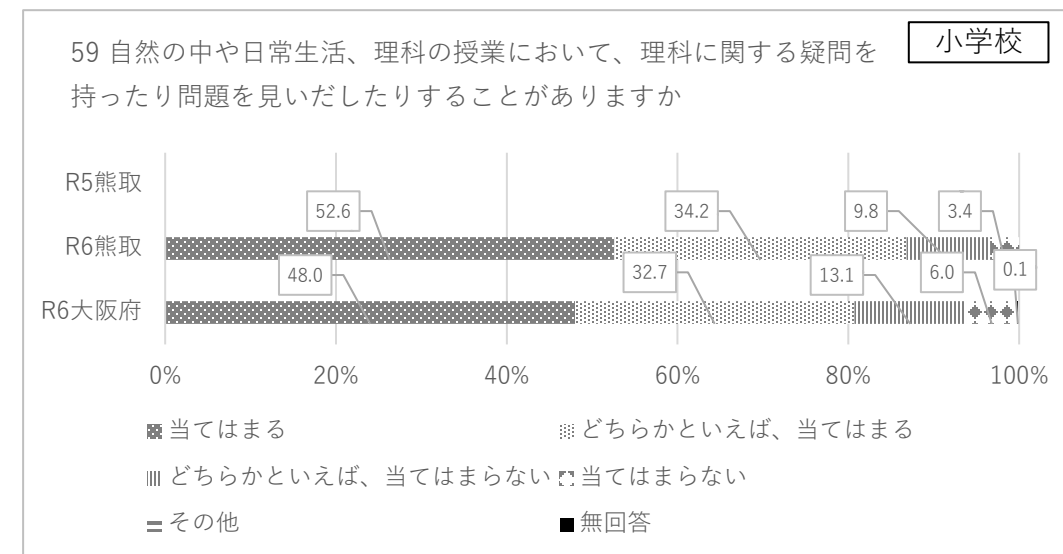
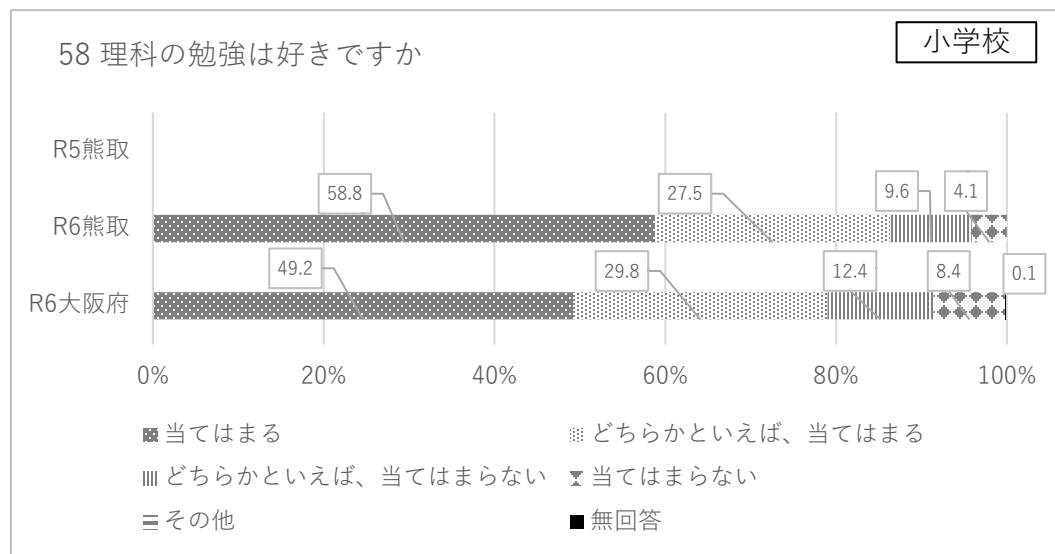


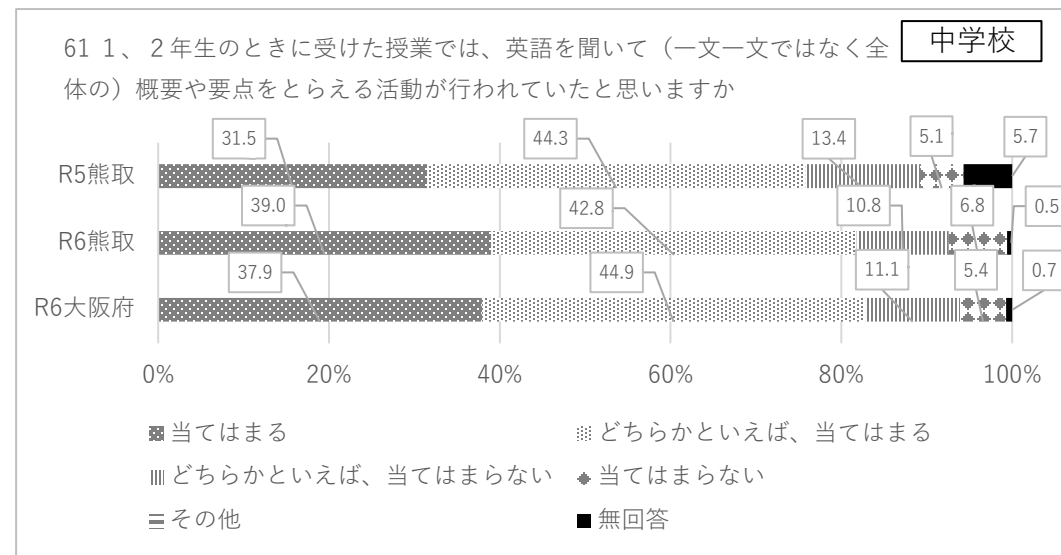
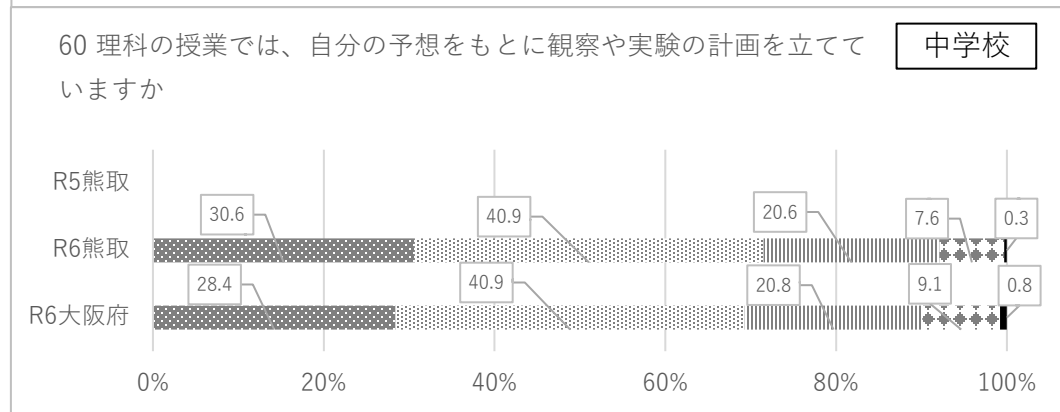
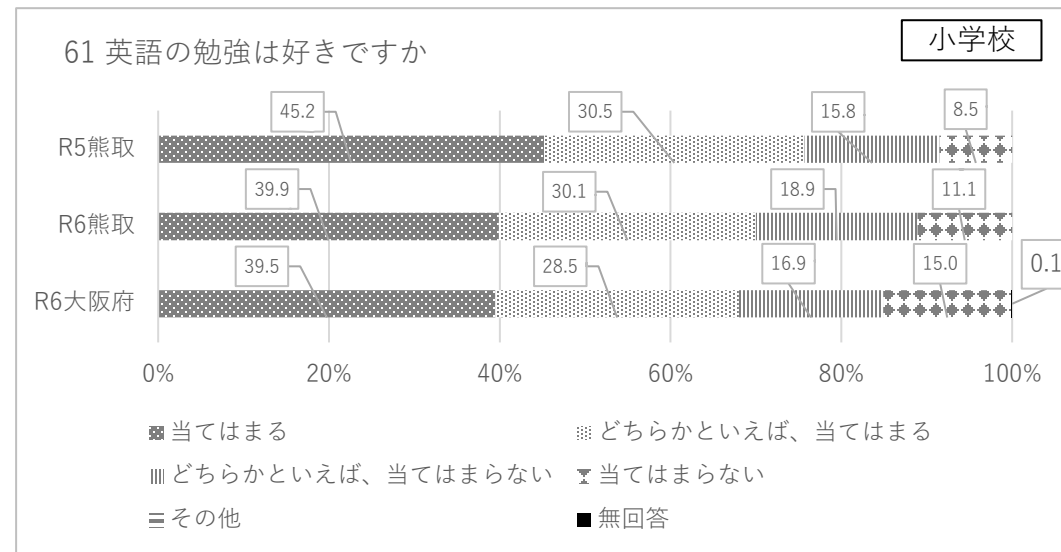
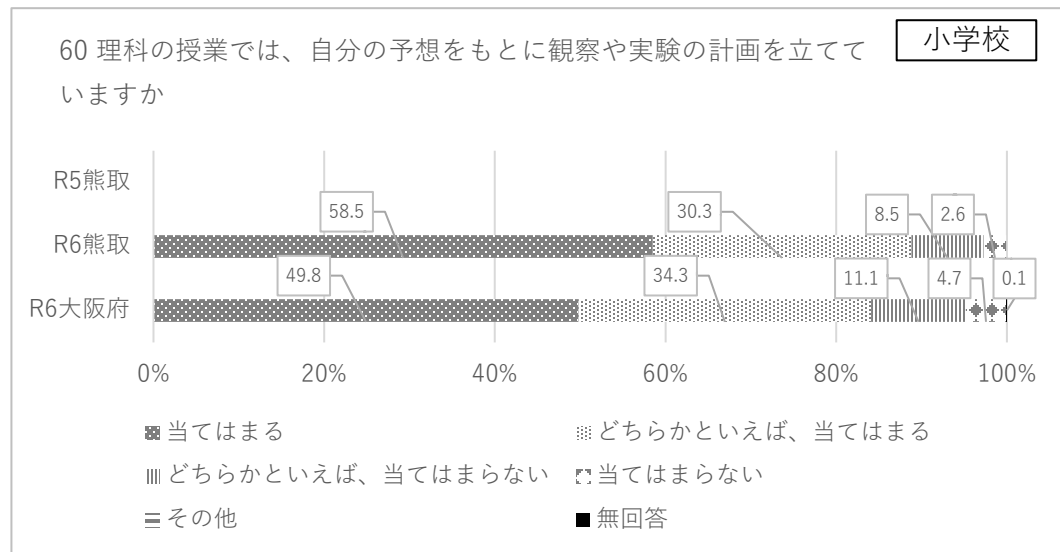


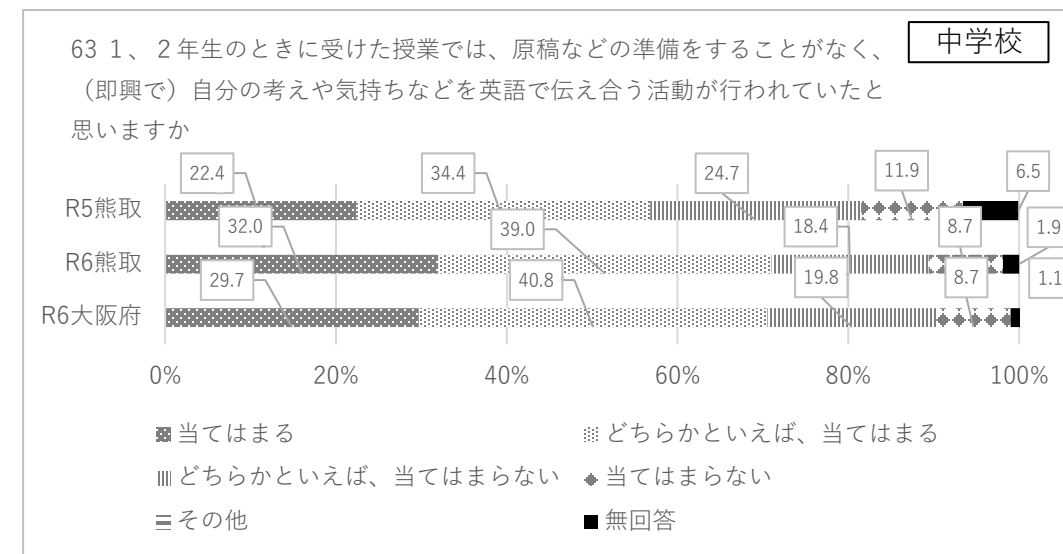
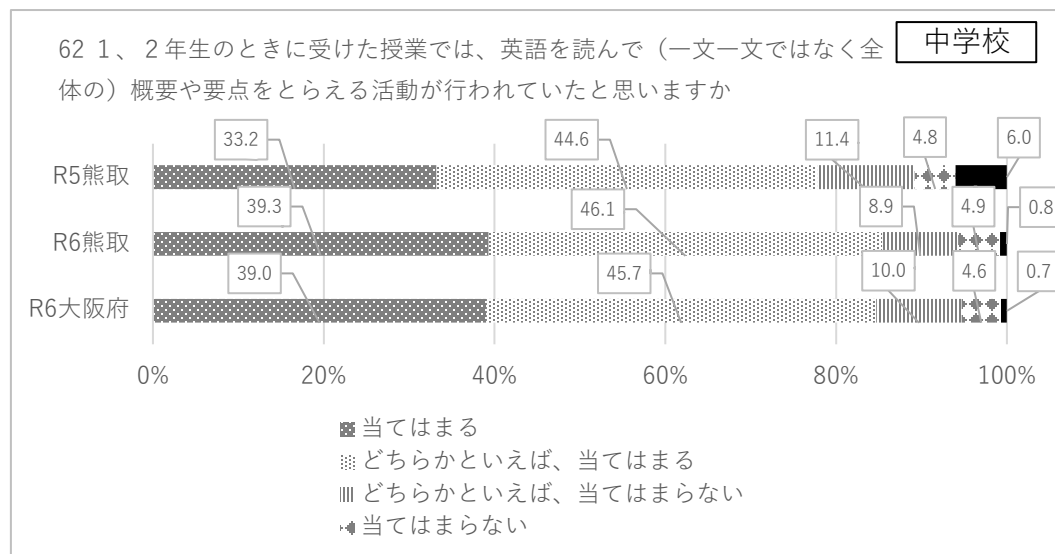
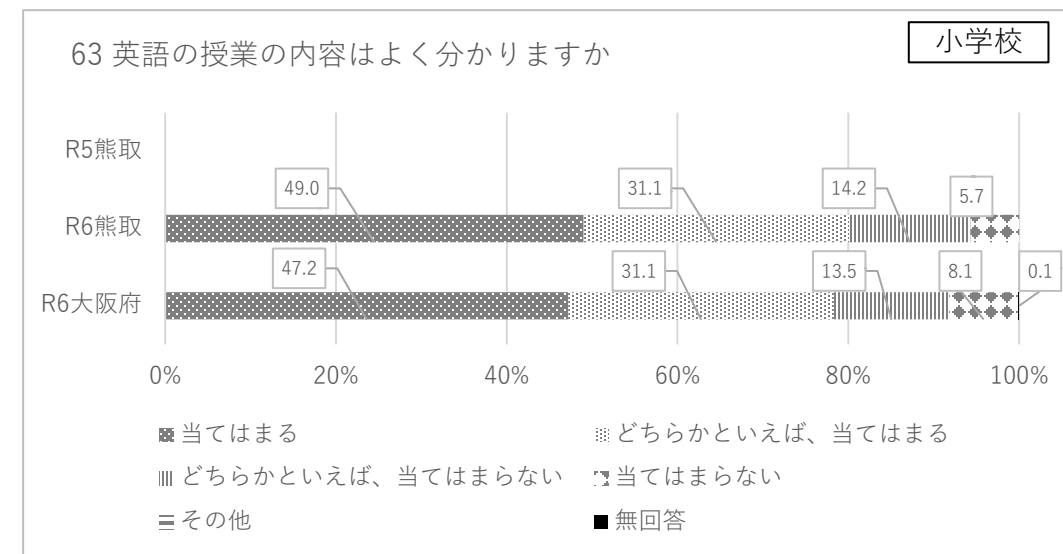
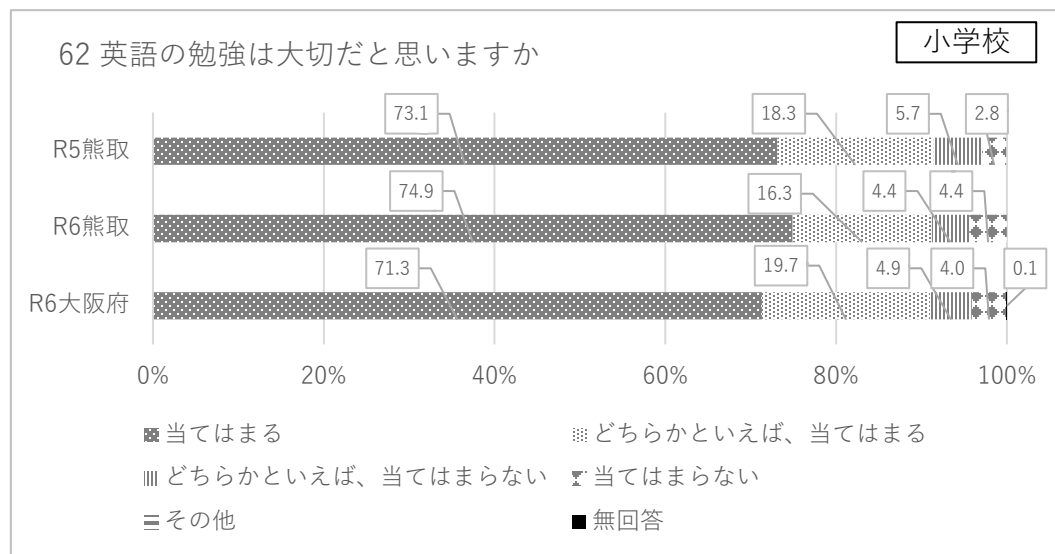


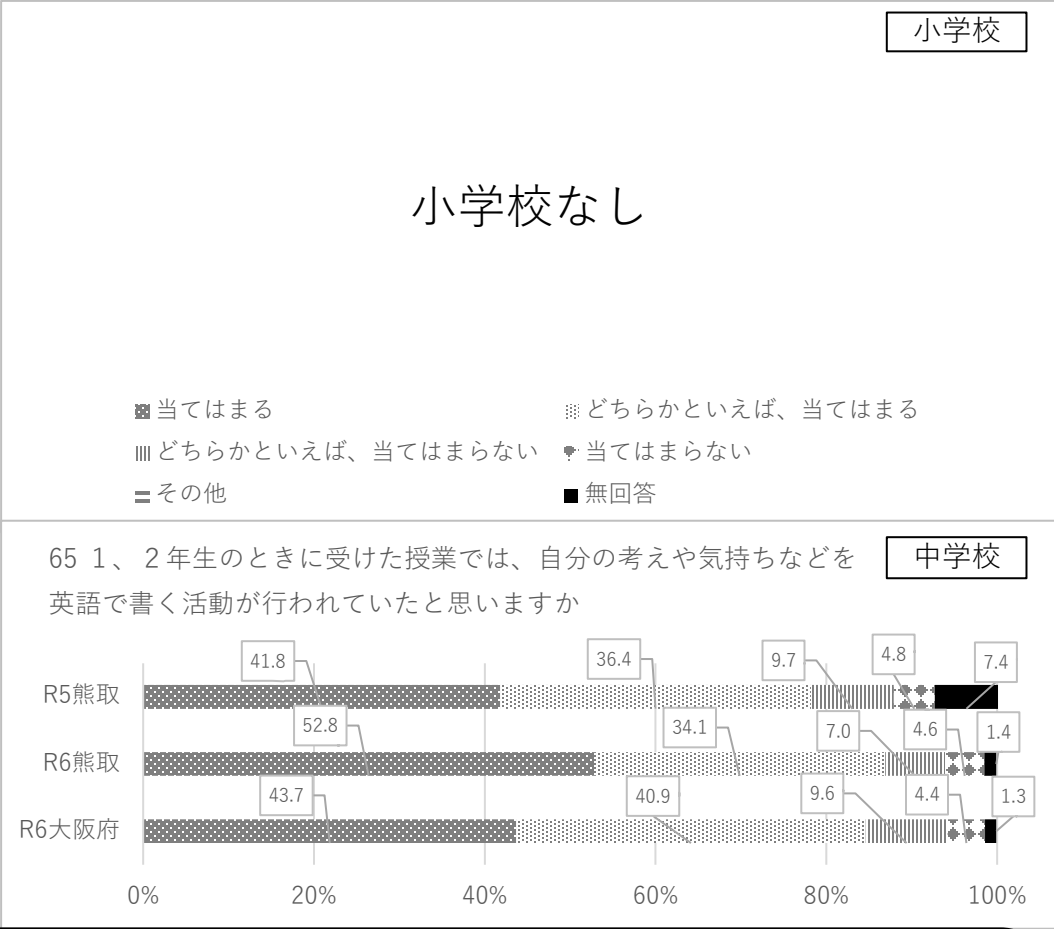
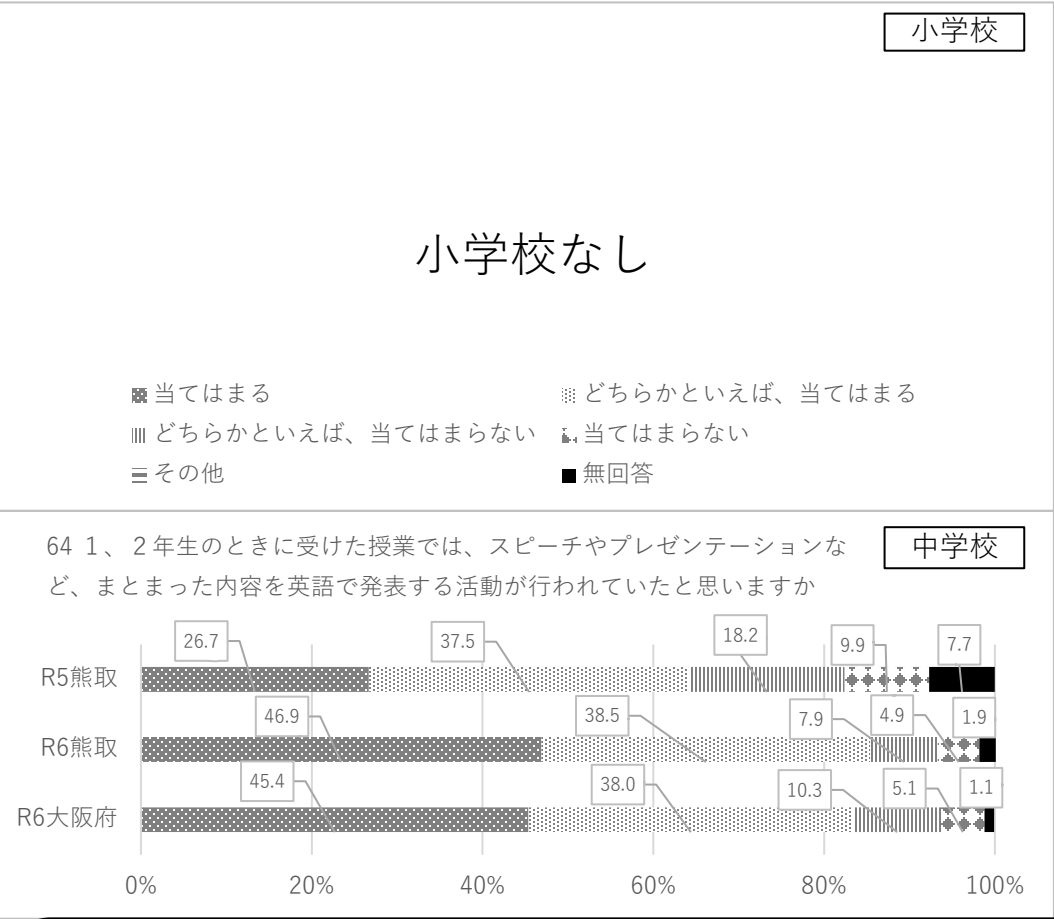












⑧学習に対する興味・関心や授業の理解度等 小学校4 2～6 3・中学校4 2～6 5

教科に関わらず、普段からの学習指導について、子どもたちが課題について考えながら取り組んでいく学習になるよう、小中学校で授業改善が進んでいることが見とれた。しかし、各教科の大切さは実感しているものの、教科を好きかどうかの質問では肯定的回答が低下する傾向があることから、学習指導の際には、各教科のよさを子どもたちが実感できるよう、さらに授業改善を推進していきたい。